

平成 25・26 年度 特別支援教育に関する研究

特別支援学級における授業の充実

# 授業改善実践事例集・学習指導案集



茨城県教育研修センター  
特別支援教育課

# 授業改善実践事例集

研究協力員が、取り組んだ授業改善の事例を、「授業づくりの8つの視点」の視点ごとにまとめました。

各事例は、担当者が日常の授業を実施する中で感じていると予想される悩みや願いに対して、考えられる要因や解決のためのアイデアを示しました。授業改善の実際を、改善前の授業（**B e f o r e**）と改善後の授業（**A f t e r**）として、基本的には、計画（**P l a n**）、実施（**D o**）、評価（**C h e c k**）、改善（**A c t i o n**）のサイクル順で示しましたが、中には、「導入・展開・まとめの工夫，単元計画」の視点の単元計画の事例のように、計画（**P l a n**）に焦点をあてて示しているものもあります。

一つの悩みや願いに対して、その要因や改善のアイデアは、複数考えられます。授業改善の参考とする際には、複数の事例をご覧ください。

また、紹介している事例に関しては、授業改善のヒントの一例です。担当している児童生徒や学級の実態に合わせ、柔軟に活用してください。

# 「授業に関するこんな悩みや願いはありませんか？」

単元に関する実態を的確に把握するには、  
どうしたらいいですか。

- ☞ **実態把握・目標設定の工夫①**
- ☞ **導入・展開・まとめの工夫, 単元計画②**

児童生徒の構音に関する実態を把握するには、  
どうしたらいいですか。

- ☞ **実態把握・目標設定の工夫②**

実態に応じた目標を設定するには、  
どうしたらいいですか。

- ☞ **実態把握・目標設定の工夫①, ②**

聞くことが苦手な生徒に対して、  
学習支援上の配慮を知りたい。

- ☞ **特性に応じた支援②**

児童生徒がより興味・関心をも  
って取り組める教材・教具を  
開発したい。

- ☞ **教材・教具の工夫①**

国語や算数（数学）の授業で、  
通常の学級と同じ時数では、  
単元が終わりません。

- ☞ **導入・展開・まとめの工夫, 単元計画②**

ゲーム的な活動を取り入れて  
いますが、児童生徒が主体的  
に活動に参加できません。

- ☞ **教材・教具の工夫②**
- ☞ **特性に応じた支援①**

児童生徒の実態が様々で、  
同じ活動に取り組むこと  
ができません。

- ☞ **教材・教具の工夫②**

授業中、教師の指示や説明が多く  
なってしまいます。

- ☞ **発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫**

授業が45分（50分）で終わら  
ません。

- ☞ **場の工夫①, ②**
- ☞ **導入・展開・まとめの工夫, 単元計画②**

チーム・ティーチングの際  
に、支援の手立てや評価方法  
を共通理解する方法はありま  
すか？

- ☞ **チーム・ティーチング**

児童生徒が45（50）分間の授業に  
集中して取り組めるように、授業  
展開を工夫したい。

- ☞ **導入・展開・まとめの工夫, 単元計画①**
- ☞ **特性に応じた支援①**

分かりやすいまとめの板書がで  
きるようにしたい。

- ☞ **導入・展開・まとめの工夫, 単元計画①**

児童に学習の達成感を味わせ  
るにはどうすればいいですか。

- ☞ **評価の工夫**

適切に評価することが難しい。

- ☞ **実態把握・目標設定の工夫①**
- ☞ **チーム・ティーチング**
- ☞ **評価の工夫**

悩みや願いの解決のヒントが各事  
例の中にあります。次のページの  
改善の視点を参考に、ご覧ください。



## 授業改善実践事例

	改善の視点	校種・担当学級等	教科・領域	ページ
1	実態把握・目標設定の工夫①	小学校 (言語障害特別支援学級)	算数	6～9
2	実態把握・目標設定の工夫②	小学校 (言語障害特別支援学級)	自立活動	10～12
3	場の工夫①	小学校 (知的障害特別支援学級)	生活単元学習	13～15
4	場の工夫②	中学校 (自閉症・情緒障害特別支援学級)	美術	16～18
5	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画①	小学校 (言語障害特別支援学級)	算数	19～22
6	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画②	小学校 (自閉症・情緒障害特別支援学級)	国語	23～27
		中学校 (自閉症・情緒障害特別支援学級)	数学	28～29
		特別支援学校 (聴覚障害・高等部)	国語	30～31
7	発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	中学校 (自閉症・情緒障害特別支援学級)	美術	32～36
8	特性に応じた支援①	中学校 (自閉症・情緒障害特別支援学級)	数学	37～39
9	特性に応じた支援②	特別支援学校 (聴覚障害・高等部)	国語	40～43
10	教材・教具の工夫①	小学校 (言語障害特別支援学級)	自立活動	44～46
11	教材・教具の工夫②	特別支援学校 (肢体不自由・高等部)	自立活動	47～50
12	ティーム・ティーチング	特別支援学校 (肢体不自由・高等部)	自立活動	51～53
13	評価の工夫	小学校 (知的障害特別支援学級)	生活単元学習	54～58

# 授業改善実践事例集の見方

改善に取り組んだ視点

担当者が日常の授業を実施する中で感じていると予想される悩みや願いを示しました。

## 改善の視点 「教材・教具の工夫②」

- ゲーム的な活動を取り入れていますが、児童生徒が主体的に活動に参加できません。
  - 児童生徒の実態がさまざまで、同じ活動に取り組むことができません。
- 考えられる要因は・・・
- 段階的な指導ができる教材・教具の作成や場の工夫ができていない。
  - 「自分でできる動き」で操作可能な教材・教具となっていない。
  - ・興味・関心を高める教材・教具になっていない。
  - ・ゲームのルールが理解できていない。

担当者の悩みや願いに対して、考えられる要因や解決のためのアイデアを複数示しました。事例では「○」がついている要因やアイデアについての改善の取組になっています。

〈特別支援学校 肢体不自由 高等部 自立活動における改善実践例〉

Before

**Plan** 改善前の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第1次「手を使って倒してみよう」 ※14時間扱いの第2時

○主体的な活動を引き出すための工夫  
・ボウリングゲーム大会への参加に向けて、段階的な指導が可能な場を設定するための教材・教具の作成と活用

**Do** ○「手で倒す」段階での、主体的に参加可能な教材・教具の活用と多様な場の設定

<教材配置図>  
・場をローテーションし、全ての活動を経験する。



①ドミノ倒し  
最初のドミノに軽く倒れていく。全てのベルが鳴る。ドミノを追視することも情報の取り入れが苦なくことで、全部が達成感が味わえる。

②空き缶倒し  
空き缶を縦に積み重ね、倒れ方も大きくように、視覚的な情報も、空き缶の倒れ感が味わえる。

③段ボール倒し  
段ボールを縦に積み重ねることで、高さが出て、倒れ方もダイナミックになる。倒せた実感がダイレクトに伝わり、達成感を味わえる。「押して倒す」→「壊れる」という因果関係を学ぶ段階のため、足も含め、自分の一番得意な動きで倒すことで実施した。

④ボウリングピン倒し  
本題材の最終目的であるボウリングゲームの前段階として、ピンを手で倒す体験ができるようにした。ステージ上に場を設定することで、倒れたピンが後ろのピンを倒す様子を間近でみることができる。

**Plan:** 改善前の授業の単元（題材）名、授業づくりの工夫を示しました。

**Do:** 改善前の授業の様子

**Check:** 改善前の授業の評価、  
◎は成果、▲は課題を示しました。

**Action:** Checkの課題について、授業改善シートを活用して検討した具体的改善策を示しました。

**Plan:** 改善後の授業の単元（題材）名、授業改善の内容を具体的に示しました。

- Check** ◎ベル音を目標にした「ドミノ倒し」に興味・関心をもつ生徒が多かった。「最初のドミノを倒してから、ベルが鳴るまでの時間差」が、「ボールを転がしてから変化がおこるまでの時間差の存在」がある「ボウリングゲーム」と共通しているため、第2次以降も主となる教材として使用していく。
- ▲ボウリングピン倒しでは、視線の位置に合わせてステージ上にピンを並べ、フロアから手を伸ばしてピンを倒す環境設定を行った。身体の向きがピンに正対することができない生徒にとっては、難易度の高い教材になってしまった。
- ▲ボウリングゲーム大会への参加に向けて、ボールを自分の力で転がすことができるような支援が必要である。
- Action** 改善のポイント  
・「ボウリングゲーム大会への参加」に向けて、小さな力でもボールを転がすことのできる教材・教具を作成する。  
・大型のテーブルを使用し、机上でボウリングを行えるように環境設定を行い、ピンに正対した姿勢がとれるようにする。  
・生徒の実態に応じ、ボールを押す力のレベルに合わせて、スロープの傾斜が調整できるような教材・教具を作成する。

After

- Plan** 改善後の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第3次「ボウリングをしよう」 ※14時間扱いの第12時
- 段階的な指導ができる教材・教具の作成  
・ボウリングゲーム大会への参加に向けて、ボールを転がす動作を段階的に指導できる。
- 「自分でできる動き」で操作可能な教材・教具の作成  
・生徒の実態（ボールを転がす力）に応じたスロープの傾斜の調整ができる。

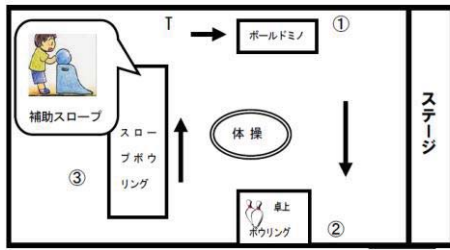


Do

○「ボールを使って倒す」段階での主体的に参加可能な教材・教具の活用と多様な場の設定

<教材配置図>

・場をローテーションし、全ての活動を体験する。



「応援ブック」の関連するページについて、前研究のキャラクター（なっとくん）が教えてください。

①ボールドミノ



スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P44～を参照



手で押していたドミノ倒しを改良した。ボールを押すことで、最初のドミノにあたり、連続的に倒れていく。

Do：研究協力員の具体的な改善の取組について、写真を示しながら紹介しました。

個に応じた教材・教具の活用



卓上ドミノ専用の補助具。最初のドミノに触れが止まるよう

②卓上ボウリング

個に応じた教材・教具の活用

竹ひご1本の段差



生徒の力に応じて傾斜を調整

Do

③スロープボウリング



スロープを活用することで、ボールを小さな力で押しても、スピードが出る。スロープの向きでボールの転がる方向も決まるので、ピンを狙いやすい。ピンまでの距離があるので、ボールを転がしてからピンが倒れるまでの時間差が実感できる。生徒の手の力に応じた補助具を活用した。

個に応じた教材・教具の活用



筋緊張等により押し出す動きが困難な生徒のために、紐を引くことでボールを転がすことができる教材・教具を作成した。

Check

◎「自分でできる動き」で「ボウリングゲーム大会」に参加することをねらい、「ボールドミノ」「卓上ボウリング」「スロープボウリング」の各活動における教材・教具を作成・活用した。自分が起こした動作で、物に変化を生じさせることを実感させることができたことで、多くの生徒が主体的に活動しようとする様子が見られた。

▲ボールドミノは他の活動と比較し、ボウリングの雰囲気を出せていなかった。ドミノの板をピンと見立てる（ピンが倒れて、更に後ろのピンを倒すイメージがもてる。）などの工夫があると更によかった。

Action

改善に向けて

ドミノ教材に「ボウリング」のイメージを追加することで更なる生徒の興味・関心を引き出せる可能性がある。

更なる改善



Check：改善後の授業の評価、◎は成果、▲は課題を示しました。

Action：次の授業の改善に向けての改善策を示しました。

事例における改善のポイントについて、なっとくんが解説しています。

児童生徒が自分でできる動きを生かして活動できる教材・教具を活用しましょう。主体的な活動を引き出し、意欲的に取り組めるでしょう。目標となる動きが引き出せるように、段階的に難易度を上げることが可能な教材・教具の工夫・改善をしてみましょう。



- 適切に評価することが難しい。
- 単元に関する実態を的確に把握するには、どうしたらいいですか。

考えられる要因は・・・

- 評価可能な具体的な言葉で目標が設定されていない。
- 児童の自立面の実態を把握できていない。
  - ・これから行おうとする学習に関する実態が把握できていない。

〈小学校 言語障害特別支援学級 算数科における改善実践例〉

Before


<b>Plan</b> <b>Do</b>	改善前の授業：単元名「わり算のひっ算」 ※11 時間扱いの第 4 時
	<p>&lt;個別の指導計画 短期目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○6～8の段の九九を練習して覚える。</li> <li>○10の補数を覚える。</li> </ul>
	↓
	<p>&lt;単元目標&gt; 11 時間扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数の相対的な大きさや既習の計算の仕方を基に、2, 3, 4 位数÷1 位数の解き方を進んで見いだそうとする。 (算数への関心・意欲・態度)</li> <li>○何倍かを求めたり、1 とみる大きさを求めたりするときに除法が用いられることについて数直線を用いて考える。 (数学的な考え方)</li> <li>○2, 3, 4 位数を1 位数でわる筆算の手順に基づいて、計算が筆算で確実にできる。 (数量や図形についての技能)</li> <li>○整数の除法において、被除数, 除数, 商及びあまりの間の関係について理解する。 (数量や図形についての知識・理解)</li> </ul>
	↓
	<p>&lt;本時の目標&gt; 第 1 時</p> <p>&lt;対象児童の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付いている語彙が少なく、文意を理解できないことがある。自分の考えや思いを言葉で説明することが難しい。</li> <li>・文章の音読は読み誤りが多く、内容を理解できないことがあるので、文章題には苦手意識がある。</li> <li>・かけ算九九を完全には覚えていない。四則計算はだいたいできるが、集中力に欠けるため誤りが多い。</li> <li>・板書してあることをノートに視写することは素早くできるが、慎重さに欠けるため誤字が多い。</li> <li>・集団生活にも適応でき、友達と仲良く遊ぶことができる。</li> </ul>
	↓

	<p>&lt;本時の目標&gt; ○3位数÷1位数の計算の仕方を考えようとする。(算数への関心・意欲・態度)</p>
<b>Check</b>	<p>▲全般的な実態が記載されている。本時の学習に関する実態を明確にした上で、目標を設定する必要がある。</p> <p>▲「～しようとする」という関心・意欲面のみの目標であるため、この時間に何ができればよいのかについて、目標の妥当性について検討し、行動目標で示したい。</p> <p>▲姿勢の悪さや落ち着きのない様子が見られること、言いたいことをきちんと言葉で伝えられないこと等から、自立活動を考慮した目標の追加設定等も検討する必要がある。</p>
<b>Action</b>	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態を正確に把握し、目標設定につなげたい。特に学習内容に関しての実態を調べておく。</li> <li>・具体的な行動や数値等を用いて児童の実態に応じた目標を設定し、誰が見ても評価できるようにする。</li> <li>・自立活動(心理的な安定)に関する目標を設定するようにする。</li> </ul> <p>&lt;仮説&gt; 実態を把握し、目標設定が適切であれば、正確な評価につながるだろう。また、授業の展開に生かすことができるだろう。</p>

After



・・・学習指導案集③の実践

<b>Plan Do</b>	<p>◎児童に合った目標設定を行い、適切な評価をするために、より正確な実態把握に努めた。 ※6時間扱いの第1時</p> <p>&lt;実態把握に関して工夫した点&gt;</p> <p>○本單元につながる既習事項に関して、観点別のレディネステストを実施し、児童があと少しでできそうなところや、苦手とするところを確認した。</p> <p>○本單元では、買い物の場面を多く利用するので、買い物の経験、おつりの出し方、金銭の扱い方について本人に聞いたり、実際にさせてみたりしてチェックした。</p> <p>○児童は集中力が持続しないので、学習に集中して取り組む時間を計測し、どんなときに集中できて、どんなときにできなくなるのかを観察した。</p> <p>○言語面では、発達検査や普段の会話の様子から言葉の理解力を把握した。</p> <p>○児童は交流学級で過ごす時間も多いため、集団の中での学習の様子を観察するとともに交流学級担任からも聞き取りを行った。</p> <p>&lt;目標設定に関して工夫した点&gt;</p> <p>目標に関しては、数値を示したり、具体的な行動の目標(計算できる、書くことができるなど)を設定したりして、誰が見ても評価できる目標設定を心がけた。また、どのような支援をすれば、児童が意欲を持続させながら学習できるか、また、どのような学習過程で単元の目標に到達するのかを考え、目標を設定した。</p> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>スタート応援ブック ～授業づくり編～ P24～を参照</p>  </div>
----------------	--

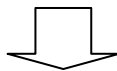


改善後の授業：単元名「式と計算」

＜個別の指導計画 短期目標＞

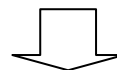
○短期目標

- ・九九表を見なくても簡単なわり算の計算ができる。
- ・10の補数が言える。
- ・時間内、離席せずに課題に取り組むことができる。



＜単元目標＞ 6時間扱い

- 課題の数値を簡単にしたり動作化したりすることで、問題場面を把握し、1つの式に表そうとする。  
(関心・意欲・態度)
- 問題場面を( )を用いた式や四則混合の式に表し、計算することができる。  
(数学的な技能)
- 学習の流れを知ること、見通しを持って学習に取り組む時間を延ばすことができる。  
【自立活動2-(1)】



＜本時の目標＞ 第1時

＜児童の実態＞

- ・買い物の経験は多く、必要なお金を出すことができる。
- ・文章題が苦手、課題を把握することが難しい。
- ・加減の計算は簡単な数値なら指を使って正確に行うことができる。
- ・物事に飽きやすく集中する時間が短いため、離席してしまうことがある。



＜本時の目標＞

- 問題場面を動作化し、おつりを求める式をノートに書くことができる。  
(数学的な見方や考え方)
- 数値を簡単にすることで、( )を使った式を正しく計算することができる。  
(数学的な技能)
- 学習の流れを知らせ、時間を設定することで20分は姿勢を崩さずに学習に取り組むことができる。  
(自立活動)

Check

- ◎レディネステストや観察、聞きとり等を通して、本単元に関する児童の実態把握を多面的に行ったことで、児童の特性や実態に基づいた適切な目標を設定し、有効な支援の手立てを講じることができた。
- ◎数値を示したり、場面を限定したりする等、具体的な行動目標を設定したことで、本時のねらいを意識した活動が展開できるようになった。また、児童にとっても、この時間の活動や目標がより分かりやすいものとなった。また、評価が明確となったことで、次時の学習の目標設定につながるものとなった。
- ◎児童の実態を踏まえ、自立活動に関する目標も設定したことで、自立活動にも十分配慮した教科学習を展開することができた。
- ▲( )の計算における実態も含め、具体的に指導案に明記できるとさらによかったと思われる。

<b>Action</b>	<p>改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価可能な具体的な言葉を用いるよう心がけたが、本時の授業を振り返るとさらに具体的なものにできることが分かった。指導案を立てる際に、さらに検討を重ねていきたい。</li> <li>○指導案作成段階では、授業日まで日数もあり、具体的な支援の手立てをつめられず、指導案に明記することができなかった。授業を振り返る際にも必要になるので、具体的な手立てを記載した指導案を授業前に差し替えるなどの工夫をしたい。</li> </ul>
---------------	--

これから学習する単元について、様々な情報を収集したり、試してみたりしながら、多面的に児童生徒の実態を把握しておくことが、適切な目標設定につながります。また、目標については、誰もが客観的に評価できるような行動の用語を用いたり、数値を示したりすることが大切です。実態を踏まえ、本時の45～50分で何ができるようになればよいかを十分検討しておくことが、よりよい授業づくりにつながります。詳しくは、「特別支援学級スタート応援ブック（授業づくり編）」の「実態把握・目標設定の工夫」のページをご覧ください。



- 児童の構音に関する実態を把握するには、どうしたらいいですか。
- 実態に応じた目標を設定するには、どうしたらいいですか。

考えられるアイディアは・・・

- 関係機関と連携して実態把握をしてみましょう。
- 指導で取り上げる音を絞りましょう。
- より具体的な目標を設定して、指導を進めましょう。

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P28～を参照



## 〈小学校 言語障害特別支援学級 自立活動における改善実践例〉

Before

<p><b>Plan Do</b></p>	<p>改善前の授業：題材名「サ行の練習をしよう」 ※12時間扱いの第5時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>＜個別の指導計画 短期目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○舌を平らにしたまま、母音を安定して言える。</li> <li>○「シ」「ス」を正しく発音することができる。</li> <li>○意欲的に会話等のコミュニケーションを取ろうとする。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>＜題材における目標＞ 12時間扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話をする楽しさを知り、意欲的に取り組もうとする。</li> <li>○口の前で発音することを意識して、「シ」が入った言葉を正しく発音することができる。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜本時の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○口の前で発音することを意識して、「シ」を正しく発音することができる。</li> <li>○ことば遊びを通して、発音する楽しさを知り、意欲的に取り組もうとする。</li> </ul> </div>
<p><b>Check</b></p>	<p>▲実態把握が不十分であるため、目標が高すぎたり、妥当性に欠けたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のみで「シ」を正しく発音することをねらうのは無理がある。</li> <li>・意欲的に取り組むことは、すでに達成できている。</li> </ul> <p>▲聞こえの状態を踏まえ、課題となる音を絞って指導していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が多岐に渡ってしまい、この時間に何をねらっているのかが不明確である。</li> </ul> <p>▲本題材から下ろした、より具体的で評価可能な目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもち、目標を達成したとするのか、評価があいまいである。</li> </ul>
<p><b>Action</b></p>	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚士と連携して、的確な実態把握をした上で、今後の指導方針について助言を受け、指導目標、内容を明確にする。</li> <li>・指導で取り上げる音の焦点化（出しやすい音から）を行う。</li> </ul>

Plan  
Do

◎専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただき、専門家の知見から実態把握をし、指導目標・内容を立てた。

○発音について

- ・イ列音・ウ列音が鼻咽腔構音になる。
- ・「キ・ギ」が「チ・ヂ」に置換することがある。

○言語聴覚士からの助言

- ・児童は補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力はあり、正誤音の聞き分けもできている。
- ・鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きい。
- ・今後は、呼気を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」（吹く学習）を意識的に取り入れていく。
- ・児童が取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていく。

○音の焦点化「キ」

- ・「キ」音について、鼻咽腔構音になったり、「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外の力行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導していく。
- ・「カ」行音は、構音発達基準が3歳であり、発達上比較的早い段階で獲得しやすい音である。

スタート応援ブック  
～学級経営編～  
P68を参照



改善後の授業：題材名「『キ』をつかったことばあそびをしよう」

※13 時間扱いの第7時

#### <個別の指導計画 短期目標>

○短期目標

- ・鼻漏れの有無を意識しながら呼気を口腔から出すことができる。
- ・「キ」音を短文レベルで正しく発音することができる。
- ・いろいろな活動場面を通して、ことばのやりとりを楽しむことができる。

○手立て

- ・「ブローイング学習」では、児童が興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼気を口腔から出す動作の定着を図る。
- ・「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につけながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、児童が正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図る。
- ・「キ」のつくことばを使ったゲームを取り入れる。

#### <題材における目標> 20 時間扱い

- 強弱をつけて呼気を口腔から出すことができる。
- 口形と舌の形を意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。
- ゲームを取り入れることで、話をする楽しさを知り、意欲的に取り組むことができる。

	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>&lt;本時の目標&gt; 第7時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;児童の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイング学習を通して、口から息を出したり吸ったりすることができるようになった。息の強弱や長短等を意識して吹くことができるようになってきた。</li> <li>・「キ」単音では、正しく発音できるようになってきた。無意味音節「キ」+子音では、子音がイ列音だと鼻咽腔構音になりやすい。</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;本時の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブローイングの学習を通して、強弱をつけて呼気を口腔から出すことができる。</li> <li>○口形と舌の形を意識して「キ」+無意味音節を発音することができる。</li> <li>○ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul> </div>
<p><b>Check</b></p>	<p>◎言語聴覚士との連携による実態把握と指導方針の策定</p> <p>言語聴覚士と連携し、専門的な知見から助言をもらうことで、児童の聞こえの状態を整理し、構音発達についての実態把握をすることができた。また、構音の実態から取り組みやすい指導対象音の焦点化を図ることができた。さらに、題材の目標から下した本時の授業に関する実態把握をすることで、児童の障害特性や発達レベルに合った学習目標・内容につなげることができた。</p> <p>▲目標の妥当性はだいぶ高まったが、より客観的に到達度が把握できるような具体的な表記を工夫する必要がある。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p>改善に向けて</p> <p>以前より具体的な目標になり、評価しやすいものにはなってきた。しかし、本時（45分間）で達成できる目標として、何をもってできたと評価するか、子どもにとっても成長が感じられる評価ができるかを踏まえ、数値化や具体的な姿をより想定した目標にしたい。</p>

構音に関する実態を的確に把握することは、大変難しいものです。ある程度の経験も必要になってきます。効果的な指導を行うためには、外部専門家や経験の豊富な方を活用し、助言をもらうことが重要です。自分一人で抱え込まずに、様々な資源を活用し、連携を図っていくとよいでしょう。

教育研修センターの特別支援教育課で実施している教職員相談の活用もお勧めします。専門家（言語聴覚士、大学教授等）から指導に関する助言をいただけます。



**Q：「外部専門家との連携とは？」**

専門の医師をはじめ、姿勢や歩行、日常生活や作業上の動作、摂食動作や発音、構音、コミュニケーション等について、心身の機能を評価し、その結果に基づいて指導を進めていくために、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）等からの指導・助言を得ることが大切です。情緒や行動面の課題への対応では、心理学の専門家等からの指導・助言も有効です。



○授業が45分（50分）で終わりません。

考えられる要因は・・・

○教員のことばによる指示や説明が多い。

○様々な視覚情報が入りすぎて集中して活動に取り組めない。

〈小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習における改善実践例〉

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P31～を参照

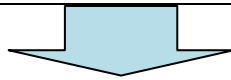


Before

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業について：単元名「牛乳パックでティッシュケースを作ろう」 ※5時間扱いの第2時</p> <p>○教室内の構造化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室を3つの活動スペースとして区切り，活動や状況に応じて場を決める。</li> <li>・授業の流れや作業手順等を図や文字で提示し見通しをもちやすくする。</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  <p>座席と黒板との距離が見やすい位置に設定した。</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【①机上学習時のスペース】</p> <p>正面の黒板</p>  </div> <div style="width: 30%;">  <p>授業の流れや作業の手順が，分かるように図や写真を活用した。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%;"> <p>【②リラックススペース】</p>  <p>リラックスやクールダウンが必要な時に安らげる場となるよう工夫した。</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【③作業スペース】</p> <p>壁面</p>  <p>席の正面に使用する材料と道具が取りやすいよう工夫した。</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>壁面は，児童の作品に小見出しを付け，見やすく整理して掲示した。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">④ スチールロッカーで仕切る</p>
<p><b>Check</b></p>	<p>ここでは，③作業スペースに着目する。</p> <p>○活動場所の構造化は，児童が学習に対する気持ちの切り替えがしやすくよかった。</p> <p>▲視覚情報の提示は，児童にとって授業の見通しや作業手順が分かるものであるが，児童の視界に入る掲示物等の情報が多すぎて，集中できない様子が見られた。その都度，教員が活動を促す場面が多く見られた。</p> <p>▲机上は，活動しやすいように整頓されているが，一つ一つの場面で使用する道具の出し入れや確認等で作業の中断がある。中断中に教員の指示が多くなっている。</p>

<b>Action</b>	<b>対象児童の実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示理解はできる。</li> <li>・文字情報よりは、図や写真を使った方が理解しやすく、見通しがもてれば一人で行える。</li> <li>・手先の巧緻性が低いため、器具の操作に苦手がみられ、活動に自信がない。</li> <li>・自分で判断し行動することに自信がもてない。</li> </ul> <b>改善のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動スペース周辺の視覚情報を整理する。</li> <li>・児童の座席周辺及び机上の場を構造化する。</li> </ul>
---------------	---

After



... **学習指導案集①の実践**

<b>Plan</b>	<b>改善後の授業について：単元名「お世話になった人におくりものしよう」</b> <b>※10時間扱いの第5時</b> <b>○教室の壁面の掲示物や活動中の児童の視界に入る視覚情報を整理する。</b> <b>○各活動において必要なときに必要な視覚情報を提示する。</b> （作業時の手順表は、活動ごとに提示する、終わった活動は手順表から外す） <b>○机上での活動時に使用する道具や材料は、教員の指示なしでも分かるように整理する。</b>
-------------	--

**Do**

自分で作業の確認を行うことで主体的な活動となる。

活動の手順を背面に置くことで視覚情報の調整を行った。

何も掲示してない白地のついたてを設置

児童の正面に、本時のねらいや活動時間を示したことで、本時のねらいや時間を意識して主体的に活動することができた。

壁面

Before

After

使用する材料と道具を分けて設置した。使用する材料には、使用する順番に番号を付けたことで使用する材料の見通しが立った。

整理された壁面でも、活動に合わせて情報調整ができるようにカーテンを設置した。

<b>Check</b>	◎作業手順の示し方（前後左右）の工夫によって主体的に取り組むことができた。 ◎使用する材料に番号を付けた、材料と道具を分けて設置したことで活動がスムーズに流れた。 ◎正面に本時のねらいを示したことで完成度を意識した丁寧な活動につながった。
--------------	---

<b>Action</b>	<b>改善に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内全体の構造化から児童周辺のスペースの構造化を図ったことで、児童が主体的に活動に取り組む姿が増えてきた。今後は、具体的な目標設定に留意する。</li> <li>・教員の説明や指示等のタイミングやその量について注意していく。</li> </ul>
---------------	--

- ・今回の改善では、教室内全体の構造化として、掲示物の貼り方の工夫に加え、活動場所の区切り方、児童への視覚情報の整理の工夫が見られました。構造化を図ることで、見通しがもちやすくなり児童の主体的な活動へつながります。
- ・今回新たに、机上の構造化を行いました。教員の言葉かけを少なくし、できるだけ児童が主体的に活動できる環境調整の視点で手立てを工夫したことで、一人で活動に取り組む様子が見られました。
- ・児童が自ら気付くことで、「できる」「できた」を実感し、児童の活動に対する意欲や自信の向上につながっていきます。



# 改善の視点 「場の工夫②」

○授業が45分(50分)で終わりません。

考えられる要因は・・・

・生徒が活動に見通しがもてないため、教員の言葉による説明や指示が多くなっている。

○教室内での活動の動線が整えられていない。

〈中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 美術科における改善実践例〉

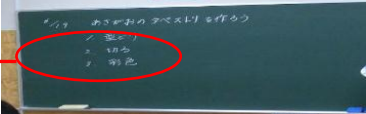

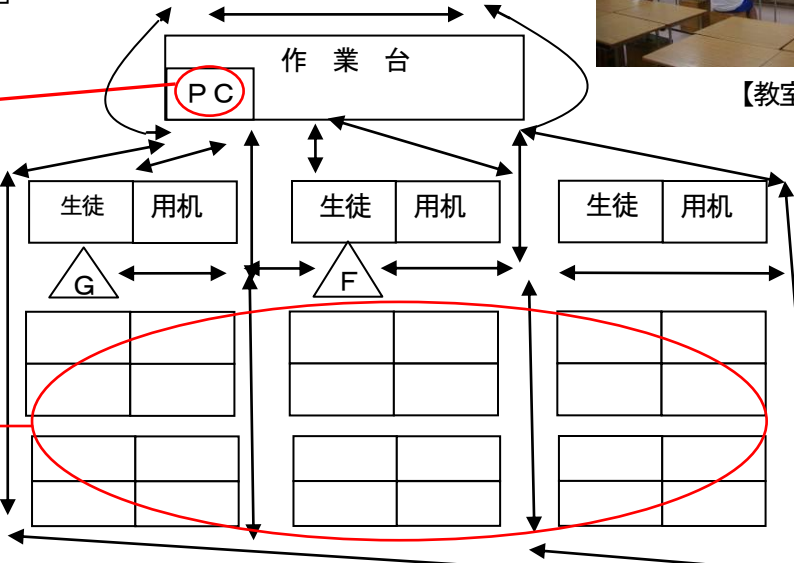

スタート応援ブック

～授業づくり編～

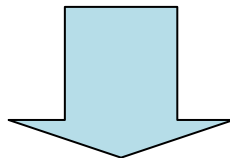
P31～を参照



Before

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業について：題材名「あさがおのタペストリを作ろう」※4時間扱いの第1時</p> <p>○成功しやすい題材を設定し，作品の制作を通して達成感を感じさせることで自己肯定感を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を引きやすいようにPCを活用して制作活動の手順を示す。</li> <li>・広い空間で学習することでリラックスができ，のびのびと活動できるようにする。</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<p>【 美術室全体を使用 】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>活動内容を示すことで授業の見通しがもちやすい。</p>  </div> <div style="width: 30%;">  <p>【教室全体写真】</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>←→は，教員と生徒の動線を示している。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>生徒の授業に対する興味関心を引き出すためにPCを活用している。</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>使用する機と使用しない機を明確に分けている。</p> </div> </div>
<p><b>Check</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ICT機器の活用は，興味を持たせることに有効であったが，機器やPCによる作品の提示への興味が強くなりすぎて，次の活動に移るのに時間がかかってしまった。</li> <li>▲汚れた水の取り替えの場面では，移動に時間を要することや途中でいろんな物に気が向いてしまうこと等により，主となる活動から気持ちがそれやすくなっている。</li> <li>▲授業終了後に，座席配置図に矢印で動線を記入してみると複雑さが明確になった。</li> </ul>

<b>Action</b>	<p><b>対象生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気がそれると、活動の修正に時間がかかる。</li> <li>・友達の行動や発言が気になりやすい。</li> <li>・手指の巧緻性が低い。</li> <li>・創作活動に自信がなく、教員に確認することや判断を仰ぐことが多い。</li> </ul> <p><b>改善のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に必要な場を構造化し、シンプル化を図る。(動線の工夫)</li> <li>・使用教材を工夫する。(見通しがもちやすいもの、扱いやすいもの)</li> <li>・提示資料を近くし、離席しなくても見やすくなる座席配置の工夫をする。</li> <li>・使用道具の個別化を図る。</li> </ul>
---------------	---



スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P31～を参照

After

・・・学習指導案集⑥の実践

<b>Plan</b>	<p>改善前の授業について：題材名「あさがおのタペストリを作ろう」※4時間扱いの第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○黒板に活動の手順と完成品を提示し、見通しを持たせる。</li> <li>○手順の写真や完成品が見やすいように、座席と黒板の距離を近くする。</li> <li>○使用する道具の置き場所は一カ所に決める。</li> </ul>	
<b>Do</b>	<p>改善後の授業：単元名「あさがおのタペストリと作ろう」 【 美術室 1/3のみ使用 】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>作り方の手順を写真にして提示したことにより、工程がより分かりやすくなった</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>使用する道具や材料を一カ所に置くことで、準備がスムーズになった</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>机                      生徒用机                      作業台</p> <p style="text-align: center;">G                                      F</p> </div> <p style="text-align: center;">===== これより後方は使用しない =====</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20%;"> <p>黒板と座席間には、何も置かないことにしたことで黒板に注目しやすくなった。</p>  </div> <div style="width: 20%;"> <p>ペットボトルや水入れペットを使用することで、離席せずに水を取り替えられ、活動の持続につながった。</p>  </div> <div style="width: 20%;"> <p>生徒の活動スペースを教室の1/3に限定することで、動線がシンプル化し、落ち着いた雰囲気を取り組めるようになった。</p>  </div> <div style="width: 20%;"> <p>手順やヒントとなる資料が見やすくなったことで主体的な取り組みとなった。</p>  </div> <div style="width: 20%;"> <p>染色した用紙を容器に乗せて乾かす工程を一つ入れたことで、創作活動に丁寧さが見られるようになった。</p>  </div> </div>	



<b>Check</b>	<p>◎教室の1/3のみを活動場所に限定したことで、動線が明確になり生徒の動きもシンプルになった。</p> <p>◎席を離れる活動が少なくなったため、活動に落ち着きが見られるようになった。</p> <p>◎必要な部材や道具を一カ所にまとめて置くことで、動線がシンプルになった。</p> <p>◎黒板に手順表を提示したことで、分からなくなった時に自分でその都度、確認することができた。また、作品の見比べもできたので、見通しがもちやすくなった。</p> <p>◎ペットボトルに予備の水を準備したことで、水道まで水を取り替えに行く必要がなくなり、作業の中断がなくなったため、活動に集中する時間が増えた。</p> <p>◎使用する道具を一人1セット準備したことで、自分のペースで作業に取り組むことができた。</p> <p>◎作品作りに集中することができ、授業のまとめがしっかりできるようになった。</p>
<b>Action</b>	<p>改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に作品作りに取り組めるようになると、観察場面が増えてきます。主体的な活動を目指しつつも、つつい不必要な言葉かけや指示を出してしまうことがあります。生徒の取り組みを「見守る」、生徒が思考している時は、「待つ」の姿勢が必要である。</li> </ul>

- ・生徒の学習意欲を高めるためには、一人一人の実態に応じた場の工夫が必要です。人的・物的な環境を整えたり、活動の場所を変化させたりして、集中して楽しく学習できるよう学習環境の調整が重要です。
- ・教員や生徒の動線が前後左右にバラバラに広がっていると、複雑に交差してしまい、移動する際に自由な動きを誘発してしまいます。当然、無駄な動きが生じて活動の中断や逸脱につながってしまいます。動線のシンプル化を目指しましょう。
- ・シンプルな動線をイメージしてシミュレーションすることは大切です。動線の見直しは、意図的な場の構造化を図るときのヒントにもなります。そのためにも、生徒一人一人の特性を理解し、行動の想定が重要です。併せて、場の構造化を図る際には、使用する教材・教具の精選も必要となってきます。
- ・生徒たちの動線を座席配置図に表すことで、動線の重なり気付きます。動線の重なりによって、活動に集中できなくなるときには、動線を分ける配慮が必要です。
- ・複数の生徒の支援を行う際には、全ての生徒が視野に入るような教員の位置を心がけましょう。



## 改善の視点 「導入・展開・まとめの工夫, 単元計画①」





- 児童が集中して取り組めるような授業展開を工夫したい。
- 分かりやすいまとめの板書ができるようにしたい。

考えられる要因は・・・

- ・本時では何を学習するのか, 児童が見通しをもてていない。
- ・教材・教具を用いるものの, 机上での単調な活動に終始してしまう。
- 活動の時間配分がうまくいかなかったため, 授業時間内にまとめができない。
- 児童の理解に応じたまとめを板書していない。


### 〈小学校 言語障害特別支援学級 算数科における改善実践例〉

Before

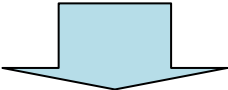
<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業：単元名「わり算のひっ算」 ※11時間扱いの第4時</p> <p>○3位数÷1位数で各位がわりきれぬ筆算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組めるように, 3桁の数字を位ごとに記入した数字カードや3枚の紙皿を用いて学習を進める。</li> <li>・活動後には, ごほうびに簡単なわり算ビンゴゲームを行うことで意欲を引き出す。</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<p>○自力解決では, いくつかある方法の中から数字のカードを使って3桁の数字を位ごとに3つに分けて答えを求めた。ノートには自分で解いた方法を書いている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>これまでにわり算の筆算の仕方は学習していたが, 数字カードを実際に分けて解いていた。これは, 導入でこれまでの学習内容を振り返らなかったことと, 「学習したことを使って」や「前のノートを見てもいいよ」などの言葉かけを行うことができなかったためではないかと思われる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 300px;"> <p>児童は, まだ九九表を見ながらわり算を行っていたので, 最後のゲームは簡単なわり算のビンゴゲームを行った。机上での単調な学習が続いた後であったため姿勢が悪くなったり, 立ち歩いたりして集中できなくなりました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 350px;"> <p>見やすく分かりやすい板書ではあるが, 既習事項の確認や本時のまとめがされていないため, 児童は, この時間に何を学習したのかが分かりにくいものとなってしまった。</p> </div>  </div>

<b>Check</b>	<p>▲設定した時間配分より、早い進行で最後のゲームの時間が長くなった。展開部（練習問題等）をより充実させてもよかった。まとめの時間は確保し、板書することで児童が学習したことを視覚的に確認できるようにしたい。</p> <p>▲目標が児童の実態に合っていなかったため、目標と活動の流れとの整合性が弱かった。導入の工夫、まとめの時間の確保、まとめを行うタイミング（ゲームとの関連）等について検討したい。</p> <p>▲導入を省き、すぐに課題に入ってしまったために、展開時に児童が既習事項を使おうとしなかった。</p> <p>▲机上での単調な活動が多かったため、児童は集中持続が難しく飽きてしまった。</p>
<b>Action</b>	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入において、既習事項（前時の復習等）を確認する場を工夫する。</li> <li>・集中して活動に取り組めるよう、操作や動きを取り入れた活動を工夫する。</li> <li>・展開部分が早く終わったときの活動や練習問題を行う時間の充実を図る。</li> <li>・児童に分かりやすいまとめ（板書）を必ず行う。</li> </ul>

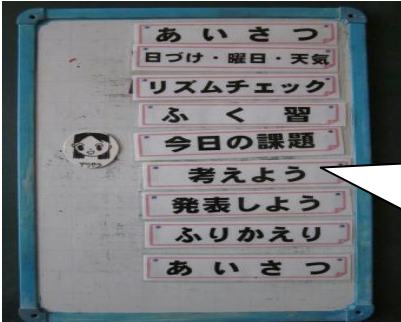
スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P32～を参照



After

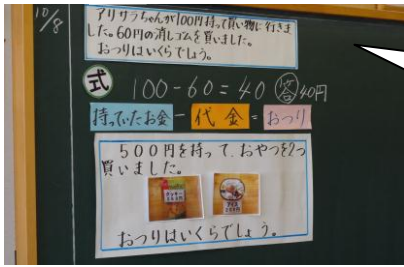


・・・学習指導案集③の実践

<b>Plan</b>	<p>◎導入・展開・まとめを工夫し、活動的な内容を設定することで、児童が集中して活動に取り組むことができるようにし、学習内容の定着を図った。</p> <p>○「導入」では、既習事項の復習を行い、本時の学習への見通しをもたせる。</p> <p>○「展開」では、自力解決を行い、自分の考えを発表する。</p> <p>○「まとめ」では、できるだけ児童が分かりやすい言葉でまとめて板書する。さらに定着を図るために「練習」を行い、最後に本時の授業を振り返る。</p> <p>以上の学習活動を視覚的に示しておく。</p> <p>○学習課題は児童の生活経験に合わせた内容にして興味をもたせるようにする。自力解決で具体物や半具体物を操作したり、交流学級と同じような方法で発表できるように自分の考えを前に出て発表したりするなど、体験活動の場面を随時取り入れる。また、分からなくても自分の力で考える時間を確保し、タイマーを用いて視覚と聴覚で分かるように設定する。振り返りは、2観点の簡単な振り返りカードを用いて自己評価を行い、分かったことを言葉で言う場面を設ける。</p>
<b>Do</b>	<p>改善後の授業について：単元名「式と計算」 ※6時間扱いの第1時</p> <p>①学習の流れをパターン化</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>算数科における問題解決学習の流れで、いつも大体同じパターンで学習を行っているが、落ち着きに欠ける児童の実態から、同じパターンであっても視覚的に流れを示し、今日の課題に取り組んでいるのかを分かるようにした。</p> </div> </div>

## ②導入時の復習（既習事項の確認）

児童は前の日に学習したことも覚えていないことが多く、新しく学習することに既習事項が生かせないことが多いため、必ず復習し、本時の学習に生かせるようにした。



本時に係わる内容の簡単な問題を解き、おつりを求めるためには減法で求めることを確かめ、ことばの式で表した。

## ③体を動かす（買い物の模擬体験）



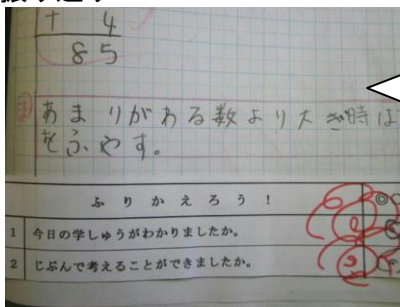
集中して取り組める時間が短いので、授業の中に操作活動や発表、物を取ってくるなど、立ったり座ったりする活動を取り入れている。本時は、教室にお店を設置し、買い物の模擬体験を行うことで、体を動かしながら興味をもって取り組めるようにした。

## ④練習時間の確保



練習時間を確保し、本時で学習した内容の定着を図った。見やすく記入しやすいワークシートにするとともに、数値を少し変えることで、本時の学習を生かして意欲的に取り組みやすいようにした。

## ⑤振り返り



簡単な振り返りカードを使い、本時の学習が理解できたかどうかチェックさせる。分かったことを自分の言葉で言うことで本時のねらいが達成できたか確かめる。児童が頑張っていたことを伝え、達成感を味わうことができたようにした。

## ⑥分かりやすい言葉でのまとめ



板書計画通りの言葉ではなく、児童の活動の様子を踏まえ、より分かりやすい言葉を使ってまとめを行い、板書した。



<板書計画>

10/8	<p>① 〇〇〇〇ちゃんが100円を持って買い物に行きました。お店で60円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。</p> <p>② <math>100 - 60 = 40</math></p> <p>ことばの式</p> <p>持っていたお金 - 代金 = おつり</p>	<p>① <math>\cdot ( )</math> は代金をまとめて表している。 ② <math>\cdot ( )</math> はひとまとまりと見て先に計算する。</p> <p>( ) のない式 <math>500 - 150 + 180 =</math></p>								
②	<p>500円を持っておやつを2つ買いました。</p> <table border="1"> <tr> <td>チョコ</td> <td>あめ</td> <td>クッキー</td> <td>アイス</td> </tr> <tr> <td>150円</td> <td>180円</td> <td>250円</td> <td>200円</td> </tr> </table> <p>おつりはいくらでしょう。</p> <p>組み合わせ</p> <p>チョコとあめ クッキーとアイス</p>	チョコ	あめ	クッキー	アイス	150円	180円	250円	200円	<p>③ 本児が自分で考えた式を板書する</p> <p>例) <math>500 - (150 + 180) = 170</math></p> <p>④ 170円</p>
チョコ	あめ	クッキー	アイス							
150円	180円	250円	200円							

Check

- ◎導入では、簡単な復習問題を提示し、課題を解決するための手がかりとなる言葉の式を掲示したことで、本時の学習に生かすことができた。
- ◎課題文を短くする、買い物場面を実際に動作化させる、数値を簡単なものにする等の工夫により、集中した意欲的な取組がみられた。練り上げも、なるべく誘導的な発問にならないようにすることを心がけ、児童と一緒に2つの式を1つの式にまとめた。その際に( )の意味は具体物を使ってイメージできるようにしたことで、理解を図ることができた。
- ◎終末は、児童に分かりやすい言葉でまとめをした。児童は、練習問題を行い、自分の力で1つの式に表し、解くことができた。振り返りは、カードに記入した後、今日の学習で分かったことを発表することができた。
- ◎予定していた時間で計画通り授業を進めることができた。児童は、終始、学習に集中することができ、姿勢も崩れることはなかった。
- ▲本時のねらいを考えると、中心の活動において児童の思考が滞った際など、児童の反応を見ながら、予定より時間をかけて理解を促すことが必要な場面も見られた。(予定した場面だけでなく、必要に応じて立ち戻ったり、教材を再提示したりすること)
- ▲練習問題では、( )の式の計算練習を繰り返し行い、理解の定着を図ってもよかったと思われる。



Action

改善に向けて  
終末に教員が分かりやすい言葉でまとめを行ったが、本時で学習した言葉を使って、児童自身がまとめを行うような支援を工夫することで、算数科で学習する言葉がより身に付くようにしていきたい。

児童生徒にとって、分かりやすい授業づくりをするためには、導入、展開、まとめのどれが欠けてもいけません。それぞれに大切な役割があり、教員の工夫が求められます。そのためには、ねらいをしっかりとおさえておくこと、児童生徒の好きなこと、得意なこと等、興味・関心を把握しておくこと、体験等を取り入れながら様々な活動を設定していくこと等が重要です。まとめ、振り返りの充実もますます求められています。





## 改善の視点 「導入・展開・まとめの工夫, 単元計画②」

- 授業が45分(50分)では終わりません。
- 国語や算数(数学)の授業で, 通常の学級と同じ時数では, 単元が終わりません。

考えられる要因は・・・


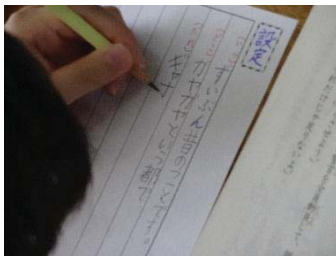

- 児童生徒の実態に応じた授業内容, 目標の設定になっていないこと。
- 通常の学級と同じ目標や単元計画になっていること。

〈小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 国語科における改善実践例〉

Before

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P32～を参照



<b>Check</b>	<p>改善前の授業：単元名 物語の構成に気をつけて読もう ※6時間扱いの第4時 「世界でいちばんやかましい音」</p> <p>▲通常の学級で実施している年間指導計画を参考に単元計画, 授業構成を行ったために時間にゆとりがなくなりました。児童の実態に合った計画で授業を展開すべきだった。</p> <p>▲本時の授業内容に関する児童の実態把握が不十分で目標が高すぎたために, 課題が終わらなかった。その時間内に達成できる, 児童の実態に応じた目標を設定したい。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>時間にゆとりがなかったために, 「書く」活動のみに終始してしまい, 課題も終わらなかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>目標が高すぎたために, 見通しをもって意欲的に取り組むことができなかった。集中力も途中で切れてしまった。</p> </div> </div>
<b>Action</b>	<p>児童の実態に応じた単元計画・授業計画を立てる。 その時間に達成できる児童の実態に応じた目標を設定する。</p>

After

単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう「注文の多い料理店」  
※13時間扱いの第9時

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P21～を参照



・・・学習指導案集④の実践


<b>Plan</b>	<p>対象児童の「国語科」における実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の項目ごとに実態を把握した。</li> <li>○チェックリストを用いることで具体的な項目による実態を把握した。</li> <li>○チェックリストで把握した児童の実態を項目ごとに表にまとめた。</li> </ul>
-------------	---

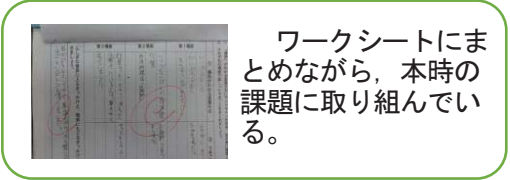
項目	国語への関心・意欲・態度	能力	言語についての知識・理解・技能
A 話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味がある内容や自分で体験したことなどについては、自分から話したり聞いたりしようとする。</li> <li>相手に分かるように話そうとしたり、大事なことを落とさないように聞こうとする態度はあまり見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事柄については興味をもって聞いたり、質問をすれば、自分から話することができる。</li> <li>視覚優位のために耳からの情報が入らず、大事なことを聞きもらすことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手やその場の状況に応じて適切な音量や速さ、丁寧な言葉で話すことができる。</li> <li>文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり話したりすることが難しい。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書を写したり、教科書を視写したりするのは、時間はかかるが丁寧に書こうとする。</li> <li>日記や作文などは、写真や絵などの手立てがあると自分から書こうとするが、書くように促されただけでは活動が滞ってしまうことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語の関係を意識しながら、短い文章を書くことができる。</li> <li>書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、書く順序を考えたりして文章を書くことは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の大きさや形を整えて書くことができ、下学年の漢字は約7割、当該学年の漢字は約半分程度、書くことができる。</li> <li>会話文の書き方や改行の仕方を理解して文章を書くことは難しい。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の時間を好み、課題が早く終わったときには進んで本を読もうとする。</li> <li>興味が偏っていたり、絵ばかり追っていたりする傾向がみられ目的に応じて読もうとする態度は見られない。</li> </ul> <div data-bbox="333 1037 643 1279" data-label="Image"> </div> <p>クイズや迷路の本、まんが形式の本を好んで読むことが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書はすらすら音読できる。やさしい読み物であれば、だいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることはできる。</li> <li>物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方、情景などを想像しながら読むことは苦手である。</li> </ul> <div data-bbox="753 1093 991 1267" data-label="Image"> </div> <p>挿絵や表情カード等を手がかりにすると読むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字を、読むことができる。</li> <li>語句の意味や言葉の使い方を理解することが難しい。</li> </ul> <div data-bbox="1101 954 1417 1184" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1101 1211 1417 1442" data-label="Image"> </div>

単元の目標 (当該学年の目標 ~~当該学年の目標を一部変更~~ 下学年教材)

特別支援学級における単元の目標	通常の学級における単元の目標
(1) 物語の楽しさが分かり、宮沢賢治の他の童話を 読もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)	(1) 物語に興味をもって、おもしろさの工夫を探 しながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
(2) 登場人物の言動を具体的にイメージし、その時 の気持ちを読み取ることができる。 (読むこと)	(2) 構成や文章表現の工夫などから、物語のおも しろさを読み取ることができる。 (読むこと)
(3) 視覚的な教材や動作化を通して、文中の語句や 表現について、意味を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	(3) 独特な言葉の使い方や、表現上の工夫をとら えることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

児童の実態に合わせ単元計画を見直した。

次	特別支援学級での単元計画 (13時間扱い)	通常学級の単元計画 (9時間扱い)
1	1 音読の練習をする。 2 難しい言葉の意味を確かめる。	② 1 物語を読んで初発の感想を交流する。 ①
2	3 登場人物や背景を確かめながら、簡単な感想をもつ。 4 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認、だいたいのあらすじをつかむ。	② 2 「設定」「展開」「山場」「結末」の四つの部分に分けて物語の構成をとらえる。 3 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認する。
3	5 第1場面を読んで、山奥で道に迷う二人の紳士の様子を読み取る。 6 第2場面を読んで、西洋料理店を見つけ喜ぶ二人の様子を読み取る。 7・8 第3場面を読んで、戸に書かれた注文に応える二人の様子や気持ちを読み取る。 9 第4場面を読んで、料理店から逃げだそうとする二人の様子や気持ちを読み取る。(本時)	③ 4 戸に書かれている言葉や二人の紳士の心情について読み取る。 5 物語全体を通して二人の紳士の変化を読み取る。 6 表現の工夫やおもしろさをとらえる。
	<p>児童にとって分かりやすい目標</p> <p>二人の紳士の様子や会話文から、逃げ出したい気持ちを想像し、吹き出しに書くことができる。</p> <p>実態に応じた課題設定</p> <p>「第4場面の二人のしんしの気持ちを考えて、ふき出しに書いてみよう。」</p>	<p>漠然とした目標設定</p> <p>二人の紳士の様子や会話文から、逃げ出したい気持ちを想像することができる。</p> <p>実態より高い課題設定</p> <p>「第4場面の二人のしんしの気持ちを考えよう。」</p>
	10 第5場面を読んで、泣くこと以外何もできない二人の様子や気持ちを読み取る。 11 第6場面を読んで、助かるが紙くずのようになった顔が元に戻らない二人の様子や気持ちを読み取る。	<p>板書を確認しながら、個人で課題を解決している。</p> 
4	12・13 宮沢賢治の他の作品を読む。 ②	7 表現の工夫やおもしろさを解説ノートにまとめる計画を立てる。 ③ 8 解説ノートを書く。 9 解説ノートを交換して読み合い、感想を交流する。



## 対象児童の実態に応じた目標設定

「気持ちをふき出しに書くことができる」という分かりやすく具体的な表現を使った目標を設定した。

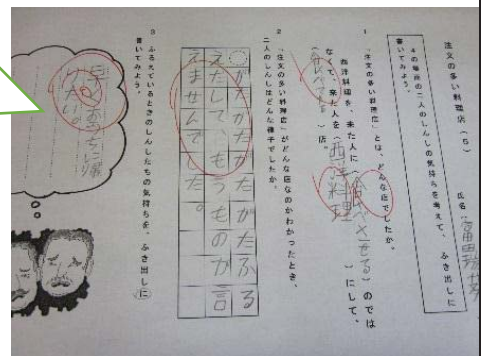
児童は、見通しをもつことができ、意欲的に学習や活動に取り組むことができた。

また、客観的な観察や評価がしやすいことにつながった。



## 対象児童の実態に応じた課題設定

書く作業に時間がかかるという児童の実態から、登場人物の気持ちに気付くための会話や行動を書き込めるようなワークシートを活用した。書き込み式にすることで、「気持ちをふき出しに書く」という課題を達成することができた。



児童生徒の実態に合わない無理な授業構成



国語科の各領域ごとに児童の能力や習得状況をチェック





児童ができることや不得意なことを把握することで、児童に応じた目標を設定することができた。

## 児童が「理解しやすい」手立て

- ・視覚的にとらえる場面を設定した。
- ・挿絵やセンテンスカードを使ってあらすじの振り返りをした。
- ・また、文中に出てくる指示語が何を指しているかを丁寧に押さえることでイメージすることができた。





<p><b>Check</b></p>	<p>○「本時の流れ」カードを机上に貼り、確認することで見通しをもって活動することができた。</p> <div data-bbox="295 257 1029 560" style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p>普段の授業では、黒板に掲示して授業の流れを確認しているが、本時では、板書構成の関係で机上に貼付した。45分の中で何をやるかが分かり、安心して取りかかることができた。</p>  </div> <div data-bbox="1114 168 1417 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;学習のじゅんじゆ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3の場面のあらびをにしろめる。</li> <li>2. 4の場面を音読する。</li> <li>3. ことばの意味をにしろめる。</li> <li>4. ワークシートに書きこむ。</li> </ol> </div> <p>○得意な音読の活動を取り入れることで、自信をもって読むことができた。</p> <p>○ワークシートにしたことで、進んで書こうとする意欲が見られた。書き込み式のワークシートを活用することで苦手意識の軽減を図ることができた。学習意欲を持続することができた。</p>  <p>○表情カードを活用することで、視覚的に「気持ち」を理解することができた。</p> <p>○「ふりかえりカード」に記入することで、次時への意欲をもつことができた。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p>児童の実態に応じた題材を選択する。          児童主体の学習・活動ができるような学習形態を工夫する。          動作化や劇化、ペープサートなど取り入れ、意欲的に取り組める内容を工夫する。</p>

1時間の授業を計画する際に、導入・展開・まとめの一連の流れを工夫することは、活動への意欲づけや集中力の持続、学習目標の達成のために重要なポイントになります。

この事例では、授業の工夫のために各単元に関する丁寧な実態把握を行いました。これから行う授業に関する実態を丁寧に把握しておくことで、的確な目標が設定でき、指導の手立てを講じることが出来ます。実態把握の具体的な手立てとして、チェックシートを用いて、国語科の各領域ごとに児童の能力や習得状況をチェックしました。こちらのチェックシートも是非参考にしてください。

また、特別支援学級等における教科指導の際には、通常の学級の単元目標や単元計画をそのまま実施するのではなく、単元における児童生徒の実態把握をもとに、個に応じた目標や単元計画を設定しましょう。個に応じた評価につながり、計画した時数で単元を終了することができるので、達成感を味わわせることもできます。

次のページからは、「中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 数学科」と「特別支援学校 聴覚障害 高等部 国語科における改善実践例」を紹介します。

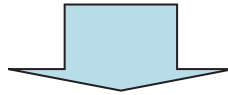


〈中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 数学科における改善実践例〉

Before

<b>Check</b>	改善前の授業：単元名「1次関数」 ▲個に応じた指導を心がけて、丁寧な指導を行ったが、通常の学級と同じ時数では終わらず、目標も達成できず、評価も低くなってしまった。	※11 時間扱い
<b>Action</b>	単元における生徒の実態把握を観点ごとに行う。個に応じた目標や単元計画を設定する。	

After



Plan

・・・学習指導案集⑤の実践

対象生徒の「数学科 比例」における実態

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で、比例の関係に興味をもち、表を用いて考えようとする。</li> <li>座標、関数、比例などの数学的用語に興味を示し、意味を理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例の関係を表にし、<math>x</math>の値が1ずつ増加するときの<math>y</math>の値の変化を見いだすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例の関係を、表やグラフなどに表すことができる。</li> <li>座標平面図に、座標をプロットし、平面上に点を取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例の特徴を理解している。</li> <li>伴って変わる二つの数量の関係を理解している。</li> </ul>

単元の目標 (当該学年の目標 当該学年の目標を一部変更・下学年教材)

特別支援学級における単元の目標	通常の学級における単元の目標
(1) 日常生活において、具体的な事象の中から関数関係にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、事象の中にはいろいろな関数があることを知ろうとする。 (数学への関心・意欲・態度)	(1) さまざまな事象を1次関数としてとらえたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり、判断したりしようとする。 (数学への関心・意欲・態度)
(2) 具体的な事象のなかの1次関数の関係にある数量に着目し、1次関数の特徴を考えることができる。 (数学的な見方や考え方)	(2) 1次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりすることができる。 (数学的な見方や考え方)
(3) 1次関数の関係を、表やグラフを用いて、的確に表す技能を身に付けることができる。 (数学的な技能)	(3) 1次関数の関係を、表、式、グラフを用いて的確に表したり、数学的に処理したり、2元1次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表したりすることができる。 (数学的な技能)
(4) 「傾き」「切片」の数学的用語を理解し、1次関数のグラフをかくことができる。 (数量・図形などについての知識・理解)	(4) 事象の中には1次関数としてとらえられるものがあることや1次関数の表、式、グラフの関連などを理解することができる。 (数量・図形などについての知識・理解)

単元の指導計画

次	特別支援学級での単元計画 (11時間扱い)	通常学級で実施する際の単元計画 (11時間扱い)
1	1 学習の見直しをもつ	① 1 学習の見直しをもつ ①
2	2 関数 ・具体的な事象の中にいろいろな関数があることを知る。 3 1次関数 ・比例の関係を含む新しい関数について調べる。 4 1次関数 ・ $y$ は $x$ の1次関数である。 5 1次関数の値の変化の様子 ・ $x$ と $y$ の関係を表に表す。 $y = 2x$ $y = 2x + 5$	④ 2 関数 ・関数の意味を理解し、比例でも反比例でもない関数があることを知る。 3 1次関数 ・ $y$ は $x$ の1次関数である。 ④ 4 1次関数の値の変化の様子 ・1次関数において、 $x$ の値の変化にともなって、対応する $y$ の値がどのように変化するかを理解する。 5 変化の割合 ・変化の割合の意味を知る。
3	6 1次関数のグラフ(1) ・1次関数のグラフについて調べる。 7 1次関数のグラフ(2) ・「傾き」「切片」の数学的用語を理解する。 8 右上がりの1次関数のグラフのかき方 ・2点A,Bを通る直線をかく。 9 右下がりの1次関数のグラフのかき方 ・2点A,Bを通る直線をかく。	④ 6 1次関数のグラフ(1) ・1次関数と比例のグラフの関係、切片を理解する。 7 1次関数のグラフ(2) ・グラフの直線の傾き、直線の式を知る。 ⑤ 8 1次関数のグラフのかき方 9 1次関数の式の求め方 10 1次関数の表・式・グラフ
4	10 練習問題プリント 11 練習問題プリント、まとめ	② 11 練習問題 ①

この事例では、11時間扱いの時数は変更せずに、目標と学習内容を一部変更しています。



〈特別支援学校 聴覚障害 高等部 国語科における改善実践例〉

Before

<b>Check</b>	改善前の授業：単元名 小説を読む（四）「注文の多い料理店」 ▲時間内に指導案で計画を立てたところまで終わらなかった。
<b>Action</b>	単元における生徒の実態把握を観点ごとに行う。時数を増やした学習計画を立てる。



After

単元名 文化を見つめる「進化の隣人サル」の文化行動」

Plan

・・・学習指導案集⑦の実践

対象生徒の「国語科」における実態

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手と話題を共有したいという気持ちが強いが、意思の疎通がうまくいかないと分かったふりをすることがある。</li> <li>自分から進んで本を読んだり、文章を書いたりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と手話や指文字でコミュニケーションをとることは困らない。</li> <li>適切な文章を考え、口話で誰にでも分かるように話したり、説明したりすることは難しい。</li> <li>口話のみの理解は難しく、手話等の補助手段が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験したことや、簡単な感想は書くことができるが、自分の考えをまとめたり深めたりして、まとめた文章を書くことは難しい。</li> <li>相手や目的に応じて適切な表現を考えることは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙が少なく意味の分からない語句は漢字から意味を類推しようとする。</li> <li>書かれていないこと（人物の心情や作者の意図など）を考えたり推論したりするのは苦手で、具体例や補足説明を必要とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助詞・助動詞の欠落や誤使用、動詞・形容詞の誤活用が多い。音韻があいまいなため、表記の際に文字が抜けることがある。</li> <li>漢字の書き順が定まらず一画欠けたりする。</li> <li>慣用句の知識に乏しい。</li> </ul>

単元の目標 （当該学年の目標・当該学年の目標を一部変更・下学年教材）

対象生徒の指導における単元の目標	通常の学級における単元の目標
(1) 教材を通して、文化についての見方や考え方を広げようとする。 (国語への関心・意欲・態度)	(1) 日常で体験している文化について、あらためて興味・関心を抱こうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
(2) 中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読むことができる。 (読むこと)	(2) 文章の構成や内容を大まかに読み取る習慣を身につけ、評論文を読解することができる。 (読むこと)
(3) 表現したり理解したりするために必要な語句を増やすことができる。 (言語に関する事項)	



次	対象生徒の指導の際の単元計画 (8時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (4時間扱い)
1	1 学習の見通しをもつ	① 1 学習の見通しをもつ
2	2・3 語句の意味を確認しながら全文を音読し、本文を5つの意味段落に分ける。  4 幸島のサルのエモ洗い行動に対する筆者たちの考えを把握する。  5 文化の定義から幸島のサルの行為を見直し、サル社会にも食文化があることを読み取る。(本時)  6 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解する。  7 人間の文化と文明の進展を理解した上で、文化のあり方を考える。	② 2 全文を音読し、幸島のサルのエモ洗い行動に対する筆者たちの考えを、把握する。 ③ 3 文化の定義から幸島のサルの行為を見直し、サル社会にも食文化があることを読み取る。  ④ 4 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解し、文化と文明の進展とそのあり方を考える。
3	8 本文中の語句を使って短文を作る。	①

この事例では、時数を4時間から8時間扱いに変更しています。さらに目標と学習内容を一部変更しています。



## 改善の視点 「発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫」

○授業中、教員の指示や説明が多くなってしまいます。効果的な言葉かけにするためには、どうすればいいですか。

考えられるアイディアは・・・

○事前に発問や賞賛の計画を立てましょう。

○意図的な発問を心がけましょう。

・主体的な活動を促すように、見通しがもてるようにしましょう。

### 〈中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 美術科における改善実践例〉

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業について：題材名「あさがおのタペストリを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作業内容を黒板に示し、活動の見通しがもっているか確認する。</li> <li>○作品のイメージが膨らんだところで発表できるようにする。</li> <li>○作業の途中の様子を見て賞賛を行い、自信につなげる。</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<p>○導入で、内容確認と本時の流れの説明を行い、活動に見通しをもたせた。</p> <div data-bbox="300 884 766 1191" style="display: inline-block; vertical-align: top;"> </div> <div data-bbox="842 900 1433 1332" style="display: inline-block; vertical-align: top; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で、本時の活動の流れを板書に示し、見通しをもつことができるようにした。</li> <li>・初めて見る作品であるため、生徒の興味・関心を引きつけるきっかけになった。</li> <li>・本時に作成する作品の完成品を示すことで、何を作るのか見通しをもちやすくした。</li> <li>・完成品を示しながら、大まかな作り方を説明したことで、活動意欲を高めた。</li> </ul> </div> <p>○動きが止まったときには、その都度指示を出すようにした。</p> <div data-bbox="300 1451 737 1780" style="display: inline-block; vertical-align: top;"> </div> <div data-bbox="842 1451 1433 1960" style="display: inline-block; vertical-align: top; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が止まったときには、指示や説明を随時行っていた。</li> <li>・教員の指示や説明が多くなったことで、生徒は受け身の活動となった。</li> <li>・できないとき、分からないときは、すぐに教員に確認する場面が増えてきた。</li> <li>・教員が実際に実演することで、具体的なやり方が分かり活動に戻ることができた。</li> <li>・できたところを賞賛したことで、活動への意欲が高まった。</li> </ul> </div>

<b>Check</b>	<p>▲発問計画があいまいである。(発問, 指示, 説明のねらいが定まっていない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何に気付かせ, 何を理解させたいのか。(考えさせたいのは何か)</li> <li>・どのくらい理解したか, 何を考えているのかの確認をどのタイミングで入れるか。</li> <li>・本時では, 生徒をどのように動かしたいのか。</li> <li>・生徒自ら気付くためには, 発問の順番をどうするか。</li> </ul> <p>▲発問や説明, 指示など, 言葉が長いと内容を理解することが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの発問に一回答。一つの指示に一行動となるよう, 文言の構成を事前に考える。</li> </ul> <p>▲動きが止まっているときは, 考え中か困っているのか吟味が必要である。</p> <p>▲教員の指示が多くなることで, 発問の意図や賞賛のタイミングにズレが生じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる会話になりがちで, 生徒の集中も切れてしまう。</li> </ul>						
<b>Action</b>	<p>対象生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉による指示の理解ができ, やることが分かれば一人で行うことができる。</li> <li>・手順表などの視覚情報の理解ができるが, 見通しがもてないと不安に陥りやすい。</li> <li>・手指の巧緻性が低いいため, 力の加減を調整することに苦手意識がある。また, 道具の操作も苦手なことから活動には消極的である。</li> <li>・失敗ややり直しの経験が多いため, 自信をもって活動に取り組むことができない。</li> <li>・2名の生徒は, お互いをライバル視しており, 相手の行動が気になって集中することが難しい。</li> </ul> <p>改善のポイント</p> <p>【発問計画】</p> <table border="1" data-bbox="296 1003 1398 1182"> <thead> <tr> <th data-bbox="296 1003 687 1048">導入時</th> <th data-bbox="687 1003 1038 1048">展開時</th> <th data-bbox="1038 1003 1398 1048">終末時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="296 1048 687 1182"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を引き出す発問</li> <li>・課題に気付かせる発問</li> <li>・めあてを明確にする発問</li> </ul> </td> <td data-bbox="687 1048 1038 1182"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深める発問</li> <li>・内容理解を確認する発問</li> <li>・めあてに迫る発問</li> </ul> </td> <td data-bbox="1038 1048 1398 1182"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を想起させる発問</li> <li>・まとめにつながる発問</li> <li>・次時につながる発問</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>【思考を深める発問】</p> <p>○生徒が「はい」や「いいえ」で答えがすんでしまう単調で閉ざされた発問はさける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単調な発問のやりとりは, 教員の指示や説明が多くなりがちである。生徒の主体性につながる発問の工夫が必要である。</li> </ul> <p>○本人に気付かせる発問, 思考を深める発問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この色が組み合わせると, どんな色になると思う？」</li> <li>・「ここでは, 何に注意してやりますか？」</li> <li>・「この活動の中で, 一番やりにくいと思うところは, どの活動？」</li> <li>・「ここで工夫したところは何？」</li> <li>・「ここまでの活動で難しいと感じたところはどこ？」</li> </ul> <p>○発問に対しての, その答えにどう切り返していくか, 事前に想定しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の回答が教員の意図するものでなかったときには, 更に, 気付かせるための発問が必要である。その際は, 簡単に答えが見いだせる発問から徐々にヒントを出しながら答えが見いだせるような工夫が必要である。</li> </ul> <p>○生徒に考えさせる時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は発言を減らし, 発問後は生徒に考えさせる時間をとる。(沈黙の間)</li> <li>・生徒が思考したり活動したりしているときに, それを妨げるような問いかけや指示は極力出さない。</li> </ul> <p>○発問の順番性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の思考を段階的に深めていく。</li> </ul>	導入時	展開時	終末時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を引き出す発問</li> <li>・課題に気付かせる発問</li> <li>・めあてを明確にする発問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深める発問</li> <li>・内容理解を確認する発問</li> <li>・めあてに迫る発問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を想起させる発問</li> <li>・まとめにつながる発問</li> <li>・次時につながる発問</li> </ul>
導入時	展開時	終末時					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を引き出す発問</li> <li>・課題に気付かせる発問</li> <li>・めあてを明確にする発問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深める発問</li> <li>・内容理解を確認する発問</li> <li>・めあてに迫る発問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を想起させる発問</li> <li>・まとめにつながる発問</li> <li>・次時につながる発問</li> </ul>					

<p><b>Plan</b></p>	<p>○図や写真などを活用することで、創作活動の手順が分かり、「今」、「次は」何をすればよいのか等、生徒自身で確認ができる教材を用意する。</p> <p>○自己選択、自己決定につながるような発問をする。</p> <p>○活動に集中できるように授業に必要なものは、視界に入らないよう整理する。</p> <p>○生徒の些細な一言やつぶやきに対して、賞賛の言葉を多く入れていく。</p> <p>○生徒の安心感につながる言葉かけをする。</p> <p>○賞賛や発問は、生徒の表情の変化が読める正面から行う。</p>
<p><b>Do</b></p>	<p>【興味・関心を引きつける発問例】</p> <p>○提示資料をヒントに</p> <div data-bbox="284 721 598 969"> </div> <div data-bbox="630 616 1428 1019"> <p>教員：前回の作り方と違うところはどこでしょう？</p> <p>生徒：絵の具じゃなくて、サインペンでしょ。</p> <p>教員：そうだね。前回使ったものよく覚えていたね。すごいね。サインペンを使うとどうなると思う？</p> <p>回答：簡単にできそう。描きやすいと思う。</p> <p>教員：そうだね。サインペンは、絵具よりも簡単に描きやすいかも。すごいね。よくそこに気がついたね。</p> <p>教員：サインペンと絵具では、色の付き方で違いがあると思う？</p> <p>(沈黙)</p> </div> <div data-bbox="284 1048 1444 1326"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違い探しや前回との相違点を考えさせたことで活動への興味をもてた。</li> <li>・生徒の回答に対して常に肯定的な応答・賞賛「そうだね」「すごいね」を入れたことで生徒は、無意識に安心と自信を感じさせる表情に変わっていった。</li> <li>・生徒の回答で「簡単そう」は、積極的な気持ちの現れと捉えた。応答で、生徒の言葉を復唱したことで生徒は自分の考えに自信が持てるようになった。</li> <li>・色の付き方の違いに意識を向け、さらに沈黙によって思考を深める効果があった。</li> </ul> </div> <p>○自分のめあてを明確にする。(本人の気づきの中から、本時の個人目標へ導く)</p> <div data-bbox="284 1451 598 1686"> </div> <div data-bbox="630 1451 1428 1944"> <p>教員：今日の活動の中で、自分が苦手そうなところ、難しいと思うところを一つあげるとしたらどこだろう？</p> <p>生徒：丸を書くときの色の順番と組み合わせかな。</p> <p>教員：理由は？</p> <p>生徒：よく分からないけど、水がしみこんだときの色のイメージが分からないから。</p> <p>教員：どうしようか？</p> <p>生徒：やっぱり、試しながらやってみるしかない。</p> <p>教員：すごいね。今日の工夫するところ決めているんだ。</p> <p>今日の頑張るところはどこにする？</p> <p>生徒：出来上がる色を考えて作品を作ることかな。</p> </div>



- ・自分が苦手と思うところや難しいと思うところを問う発問は、生徒自身が思ったところを答えればよい。その回答に間違いはないため、生徒は安心して答えることができる。そして、生徒は、本時の課題意識をもつところにつながっている。
- ・応答では、理由を問うことで、本人の失敗に対する不安を読み取ることができた。
- ・回答では、「よく分からない」であったが、その後の発言で、なんとなくのイメージはもっていることが分かる。そこで、課題解決に気付かせる問いを行ったことで生徒は、その後の活動を確認することができた。
- ・自分のやるべきことに明確に気付けことで本人の本時のめあてを確認することができた。

【具体的な関わり方】

○ことばをかける際は、生徒の目線に合わせる。



生徒の目線に合わせて応答や賞賛することで、生徒の表情の変化が分かり、その都度、ことばかけの内容を意識することができる。

○生徒の思考に働きかける発問をする。



何色にするのか迷っているので、「使いたい色をとって見せて」と具体的な色をとらせてイメージを膨らませる。「今、迷っている色は？」生徒の回答から更に、本人のイメージに迫る発問を行う。注意点は、誘導にならないこと。



最終的に作りたい色について色相環をヒントに自分で色の組合せを考える場面を設け、使用する色の決定を促す。自己選択・自己決定に導く発問を繰り返し行うことで、自分の判断に自信がもてるように働きかけること。

<b>Check</b>	<p>◎見通しがもちやすい教材を提示したことで、この時間にやるべきことは何かが具体的で分かりやすくなった。</p> <p>◎分かりやすい教材を活用したことで、生徒の主体的な活動となった。</p> <p>◎提示した教材をヒントに自己選択・自己決定する場面が多くなった。</p> <p>◎教員の発問の掘り下げで、生徒の考えが見えるようになり、評価しやすくなった。</p> <p>◎相槌や賞賛を多く入れたことで、生徒の情緒面の安心につながり、学習への意欲や活動の持続につながった。</p>
<b>Action</b>	<p>改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AとBの生徒に関わるバランスに気をつける。</li> <li>・ 生徒の思考に働きかける「発問」と行動に働きかける「指示」の区別を明確にする。</li> </ul>

### 【ねらいを明確にした発問】

○発問とは、意図的な関わりです。生徒の立場に立ち、発問を工夫することで教員の意図が生徒に伝わり、分かりやすい授業の展開となります。

- ・ 学習のねらいに沿った発問計画を立てましょう。
- ・ 場合によっては、発問をした後の沈黙が必要なときがあります。生徒が考えているときは、間をとって待ちましょう。
- ・ 回答が出にくいときは、説明を加え、答えやすい発問に変えましょう。
- ・ 生徒が考えている時や活動している時に、妨げとなるような指示や発問は避けましょう。
- ・ 発問は、短く端的に行いましょう。

### 【意欲を高める応答・賞賛】

○肯定的な応答は、生徒の自発的な考えに安心感を与え、その後の活動に積極性をもたらします。

- ・ 「そうですね」「なるほど」「だから」等の次の発問につながる応答にしましょう。
- ・ 生徒の回答に「・・・って?」「・・・なんだ?」等の疑問詞でつなぐことで、生徒の思考を深めましょう。



# 「特性に応じた支援①」

○児童生徒が45（50）分間の授業に集中して取り組むことができません。

○児童生徒の意欲的に活動できる工夫が知りたい。

考えられる要因は・・・

○生徒が得意なことや好きな活動を取り入れていない。

・生徒に活動の見通しをもたせていない。

・単元における生徒の実態把握が不十分である。

〈中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 数学科における改善実践例〉

Before

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P113～を参照



Plan

改善前の授業について：単元名「比例」 ※10時間扱いの第3時

○興味・関心を高めるための工夫

・アニメのキャラクターの取り入れ

・ゲーム的要素の取り入れ

Do

○導入では、問題の中に、生徒の好きなアニメのキャラクターのカードを取り入れることで、興味・関心を高め、黒板に注目できるようにした。

（問） 1枚100円のシール（アニメキャラクターカード）をx枚購入するときの代金をy円とする。xとyの関係を表に表しなさい。



x (枚)	1	2	3	4	5
y (円)	100	200			

アニメのキャラクターカードを掲示した。



○授業後半、「座標の位置が分かる。」ことをねらいとした座標のプロットの練習では座標オセロゲームを取り入れることで意欲的に活動できるようにした。

（座標オセロゲームのルール）

- ・二つのさいころを同時に投げる。
- ・白いさいころの出た目がx座標、黒いさいころの出た目がy座標とし、座標平面上に自分の色のコマをプロットする。
- ・オセロゲームのように自分の色のコマで相手のコマを挟むとリバースできる。

ゲームを楽しむ中で、座標のプロットの方法が理解できた。



○座標オセロゲームで練習した座標のプロットの方法を定着させるために、練習問題のワークシートを作成した。

練習問題 次の点の位置を座標平面上に示す。


P(3, -2) Q(-3, -2) R(0, 5) S(-3, 0)

授業の後半であり、集中力も低下していた。机上での学習が連続したために、ワークシートに取り組むことができなかった。






<b>Check</b>	<p>◎座標ビンゴゲームには、意欲的に取り組んでいた。楽しみながら活動したことで、集中も持続し、座標のプロットの方法も理解できていた。</p> <p>▲アニメカードを掲示することにより、黒板に注目させることはできたが、その後が言葉での聴覚情報のみの説明になってしまったために、注意の持続が難しかった。</p> <p>▲ワークシートの時間については、座席に座ったままでの学習が連続したために集中の持続ができないようだった。励ますような言葉かけをすることで意欲を喚起しようとしたが、取り組む姿は見られなかった。1枚に多数の問題があったことも意欲の低下につながったようだ。</p>
<b>Action</b>	<p><b>改善のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメカードの活用は効果的であるので、黒板に掲示することで注目させ、その後学習に関する視覚的な教材を連続して掲示する。</li> <li>・座標ビンゴゲームに意欲的に取り組めたので、ゲームの要素を取り入れた活動を行う。</li> <li>・座席に座ったままでの学習だけでなく、身体の動きを伴う活動を取り入れることで、集中の持続を図る。</li> </ul>






After



・・・**学習指導案集⑤の実践**

<b>Plan</b>	<p><b>対象生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座席に座ったままの学習では、集中の持続時間は15分程度である。</li> <li>・視覚優位である。聴覚的な情報は、不注意のために聞き逃してしまうことがある。</li> <li>・手先の巧緻性が低いため、器具の操作に苦手さがみられる。</li> <li>・アニメやゲームへの興味・関心が高い。</li> </ul> <p>○視覚的な教材の活用（拡大した掲示物、ヒントカード、言葉カード、テープ等）</p> <p>○興味・関心のある活動（座標ビンゴゲーム）</p> <p>○身体の動きを伴う活動（黒板を使った活動）</p>
<b>Do</b>	<p><b>改善後の授業：単元名「1次関数」 ※11時間扱いの第8時</b></p> <p><math>y = 2x</math>のグラフをかく。</p> <p><math>y = 2x + 5</math>のグラフをかく。</p> <p>○視覚的な教材の活用</p> <p>導入では、好きなアニメのキャラクターのカードを黒板に提示した。生徒の注意が向けられているのを確認しながら、本時の課題、拡大した座標平面図、「傾き」、「切片」などの数学的用語の言葉カード等を掲示して説明した。言葉カードを活用することで、板書する時間が省けるので、その間に注意がそれるのを防ぐことができた。細かい部分を分かりやすくするために、拡大した座標平面図を活用することで、教科書やワークシートの図よりも集中して見ることで、テープを座標平面図上に傾けて掲示することで、グラフは右上がりの直線であることのイメージを与えることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="375 1709 817 2036">  </div> <div data-bbox="1082 1173 1430 1317" style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>スタート応援ブック ～授業づくり編～ P39～を参照</p>  </div> <div data-bbox="874 1709 1316 2036">  </div> </div>



<p><b>Do</b></p>	<p><b>○興味・関心のある活動</b></p> <p>生徒がゲーム的な活動を好むことからその要素を取り入れ、座標の意味を「座標ビンゴゲーム」で確認した。白と黒のさいころをふり、白をx座標、黒をy座標とし、コマをプロットする。縦・横・斜めいずれかに4つ並ぶと勝ちとなる。楽しめるように工夫したことで、授業参加への意欲を高めることができた。ルールを視覚的な教材で掲示したことで、ゲームの途中でも確認し、戸惑うことなく活動することができていた。</p>   <p><b>○身体の動きを伴う活動</b></p> <p>黒板を使った活動を多く取り入れることで、集中を持続させることができた。拡大した座標平面図にシールで座標にプロットする活動にも意欲的に取り組んでいた。手先の巧緻性の低い生徒にとっては、ノートやワークシート上での細かい作業に比べ、拡大した座標平面図上にシールを貼ったり、安定した磁石つきものさしでグラフをかいたりすることの方が容易であり、意欲的に活動ができた。また、ひとつの問題で1枚のシートを使用した。解答が視覚的にとらえやすく、意欲も喚起できた。</p>   
<p><b>Check</b></p>	<p>◎アニメのキャラクターのカードで注意を喚起し、連続的に視覚的な教材を提示していったことが生徒の集中の持続につながり、50分間の授業に最後まで取り組むことができていた。</p> <p>◎黒板を使った活動を取り入れたことも、意欲の向上につながった。</p> <p>▲活動の見通しがもてていない。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p>改善に向けて</p> <p>50分の授業に集中して参加できるように、活動の見通しがもてるような支援を取り入れる。視覚的な表示（活動の順序、タイムタイマー等）ができるとよい。</p>

児童生徒の特性に応じた支援を考えましょう。課題の提示や活動の際の支援の手立てとして、聴覚的な指示に加えて視覚的な教材を活用しましょう。興味・関心の高い活動の取り入れや、身体の動きを伴う活動も、意欲の向上や集中の持続につながります。



# 「特性に応じた支援②」

○聞くことが苦手な生徒に対して、学習支援上の配慮を知りたいです。

考えられるアイデアは・・・





- 特性による学習上の困難さを把握しましょう。
- ・困難を克服できるような支援の手立てについて考えましょう。

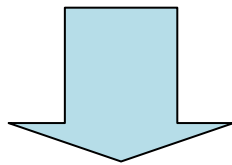
〈特別支援学校 聴覚障害 高等部 国語科における改善実践例〉

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P37～を参照



Before

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業について：小説を読む（四）「注文の多い料理店」 ※8時間扱いの第5時</p> <p>支援の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文に明示されていない内容を考えることができるように視覚的な教材を活用することで、授業内容を理解することができるようにする。</li> <li>○話しことばを文字で再提示することで、あいまいな音韻を理解することができるようにする。</li> </ul>	
<p><b>Do</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拡大した本文に、傍線を引いたり説明を書き込んだりすることで、視覚的に確認することができるようにした。</li> <li>○指文字を使って音韻を確認することで、正しいことばや文章を身に付けることができるようにした。</li> <li>○「どんな」「どのように」など、考えを促す発問をした。</li> </ul>	
<p><b>Check</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲聞くことの苦手さがある場合、言語の習得が未熟になりやすい。それを踏まえた上での配慮が足りず、人物像の読み取りに時間がかかってしまった。</li> <li>▲目標として、具体的な行動を設定していなかったため、どのように評価すればよいか、難しさを感じた。また目標と評価の一体化ができなかった。</li> <li>▲学習内容が広がってしまい、計画通りに進めることができなかった。</li> </ul>	
<p><b>Action</b></p>	<p>対象生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや意見を、適切なことばを使い、正しい文章で表現することが難しい。</li> <li>・文章をある程度のまとまりで覚えて、書き写すことができない。</li> <li>・自分から進んで本を読んだり、文章を書いたりすることが難しい。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="284 1574 550 1848" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>見たことや聞いたことなど、自ら体験したことを文章で表すことに時間がかかる。</p> </div> <div data-bbox="558 1568 837 1881">  </div> <div data-bbox="853 1568 1204 1836">  </div> <div data-bbox="1212 1574 1420 1836" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>板書を、単語や文節単位で書き写すことが多い。</p> </div> </div> <p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の教科に関する<b>実態把握</b>を評価の観点ごとに行い、より細かい視点でみる。</li> <li>・正しい文章表現を身に付けることができるよう、視覚的な教材を用いたり、指文字を併用したりする支援を行う。</li> </ul>	



Plan		○ 実態把握による目標設定				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手と話題を共有したいという気持ちが強い。意思の疎通がうまくいかないときに、分かったふりをするところがある。</li> <li>自分から進んで本を読んだり、文章を書いたりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と手話でコミュニケーションをとることは困らない。</li> <li>口話で誰にでも分かるように話したり、説明したりすることは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験したことや、簡単な感想は書くことができるが自分の考えをまとめたり、深めたりして文章を書くことは難しい。</li> <li>相手や目的に応じて適切な表現を考えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙が少なく、分からない語句は漢字から意味を類推しようとする。書かれていないこと（人物の心情や作者の意図など）を、考えるのは難しく、具体例や補足説明を必要とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助詞、助動詞の欠落や、誤使用、動詞・形容詞の誤活用が多い。音韻があいまいなため、表記の際に文字が抜けることがある。漢字の書き順が定まらず一画欠けたりする。</li> </ul>	
<p>実態把握を国語の評価の観点ごとに行うことで、課題を明らかにし、目標を設定した。</p>						
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
国語総合 (評価の観点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語や言語文化に対する関心を深め国語を尊重してその向上を図り進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き（読み）取ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読み取りして、自分の考えを深め発展させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	
実態をふまえた目標設定	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい音韻を意識し、音読や発言をすることができる。</li> <li>○文章中の語句の意味を正しく理解し、内容を読み取ることができる。</li> </ul>					



- 少ない語彙, 難語句の理解を助ける支援 (選択肢の提示, 語句の確認表)
- 心理的な抵抗への支援 (図式化, 発言メモ)
- 視覚的な支援 (拡大本文, 地図や写真)
- 書字活動への支援 (ワークシート)
- あいまいな音韻への支援 (口話と指文字の併用)

スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
⑤特性に応じた支援  
P39～を参照



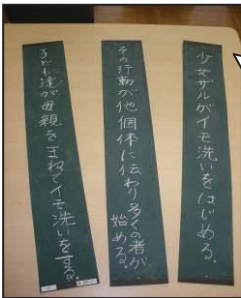
Do

改善後の授業:

単元名 文化を見つめる「進化の隣人サルの文化行動」※8時間扱いの第5時

- 少ない語彙や難語句の理解を助ける支援

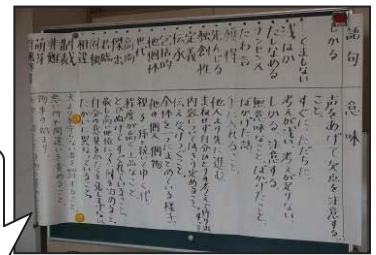
選択肢の提示



適切なことばが見つからず発言できない場合には, 選択肢から選べるようにした。

普段は使わない, 理解が難しいことばを, 繰り返し確認できるようにした。

語句の確認表



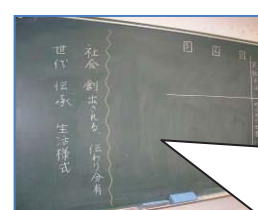
- 心理的な抵抗への支援

内容を図式で表す



長文の読解に苦手意識をもつことから, 心理的抵抗を減らすため, 内容を図式化して提示した。

発言をメモする



発言やキーワードをメモし, 文章化する負担を減らすようにした。

- 視覚的な支援

拡大本文



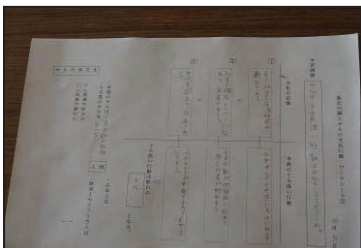
生徒が教員の口形や手話を見ながら本文を確認できるようにした。また必要に応じて漢字にふりがなをつけたり, 注目させたい箇所に線を引いたりできるようにした。

文化を表す絵や写真など



- 書字活動への支援

ワークシートの活用



板書を書き写すのに時間がかかるため, あらかじめワークシートを作成し, キーセンテンスやまとめの文のみを書くようにした。また書き写す時は, 文をまとまりで覚えてから書くように指示した。

- あいまいな音韻への支援

指文字の併用

生徒が音読・発言する時は, 指文字も使うように指示し, 漢字の読みや音韻の間違いを修正できるようにした。





Check		関心・意欲・ 態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が「分かる・理解できる」経験を通して自分から文章を読んだり、考えようとしたりする態度が見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す言葉を指文字でも表示させたことで音韻があいまいな語句を見つけ、訂正することができた。発言やキーワードを板書し負担を減らしたことで単語ではなく文章で発言することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを活用することで書く時間を短縮することができた。板書を覚えてから書くという姿が見られ、時間短縮につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を図式化したり、選択肢を用意したりしたことで内容を適切に読みとることができた。自信を持って答える様子が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「語句の確認表」で繰り返し確認したことで表を見なくても語句の意味を答えられるようになった。</li> </ul>
<p>▲文脈から内容を読み取るようにしたため、構文（統語）については理解を問わなかった。確認が必要と思われる構文（例：受動文など）については取り上げて、指導ができるとよかった。</p>						
Action	<p>改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から生徒が苦手とする構文を取り上げて、理解の確認や指導を行うことで、言語力の更なる伸長につながるだろう。</li> <li>・文や文章で答えようとせず、単語を発して終わりにする傾向がある。繰り返し指導するとともに、授業中にできるだけ言葉を使って話をする時間を設けることを意識したい。</li> </ul>					

聞くことが苦手な生徒の中には、見えないものの関係性を推論することの困難さがみられることがあります。思考を促すような発問を投げかけるとともに、必要な基礎的知識を補う必要があるでしょう。

聞くことが苦手な生徒が書いた文章には、助詞・助動詞の欠落や誤用、動詞・形容詞の誤活用、語順の誤りなどが見られる場合があります。話したり書いたりする活動はもとより、学校生活全般において、正しい日本語が身に付けられるような指導を常に意識してみましよう。



# 「教材・教具の工夫①」

- 児童がより興味関心をもって取り組める教材・教具を開発したい。
- 既存の教材・教具（構音指導用）が児童の実態に合っているか心配です。
- 教材・教具がマンネリ化してしまい、児童の意欲が引き出せません。

考えられる要因は・・・

- 既存の教材・教具ありきで、児童の興味・関心に合わせたものとなっていない。
- ・児童の短期目標を踏まえた教材・教具の活用になっていない。

〈小学校 言語障害特別支援学級 自立活動における改善実践例〉

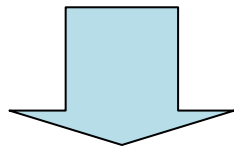
スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P94～を参照



Before

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業：題材名「サ行の練習をしよう」 ※12時間扱いの第5時</p> <p>○意欲的に取り組めるようにするための教材・教具の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シ」音を正しく発音することができるようにするための様々な教材・教具（構音指導用）の活用</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<p>○毎回、下記に示す活動を带状に設定し、様々な教材・教具を取り入れ、学習を進めた。</p> <p>①口・顎・舌の体操</p> <div data-bbox="336 949 673 1200"> </div> <div data-bbox="798 949 1401 1099"> <p>教員の口元を模倣しながら、口・顎・舌の体操を行った。自分の口元の動きについて、鏡を見て確認できるようにした。</p> </div> <p>②吹く・吸う練習（ストロー、シャボン玉、風船、呼気練習器等）</p> <div data-bbox="336 1249 673 1487"> </div> <div data-bbox="798 1294 1401 1444"> <p>コップに入れた水をストローでブクブクと吹くことで、泡の出方を視覚的に捉えて、呼気の強弱を意識できるようにした。</p> </div> <p>③発音の練習（母音、「シ」音の練習、単音の練習「シ」ばかり言葉等）</p> <div data-bbox="336 1554 673 1805"> </div> <div data-bbox="798 1576 1401 1727"> <p>「シ」音が入る言葉の練習を行った。小さなホワイトボードを活用し、ランダムに指さしながら、楽しんで取り組めるようにした。</p> </div> <p>④聞き分けの練習（音遊び、音の拾い出し、異同弁別、位置弁別、正誤弁別等）</p> <p>⑤音読、ことば遊び（すごろく、発音じゃんけん、サイコロトーク等）</p>



<b>Check</b>	<p>◎対象児童は、素直で何事にも落ち着いて取り組める児童であったので、どの教材・教具にも真面目に集中して取り組むことができていた。ただ、既存の教材・教具が中心であり、機械的・訓練的に活動を進めがちになり、受身的な活動になってしまっている。</p> <p>▲児童がより意欲的に活動に取り組めるように、児童の興味・関心に合った教材・教具を新たに作成し、指導のバリエーションを増やしたい。</p> <p>▲難聴である児童の実態に合った教材・教具、ねらいを踏まえた効果的な教材・教具を開発したい。</p>
<b>Action</b>	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味・関心をもち、意欲的に取り組める「吹く練習」教材・教具の開発</li> <li>・児童の知識や語彙量を生かして本人と一緒に作る教材・教具の開発</li> <li>・声出しの種類（口形）や大きさ、長さが視覚的に分かる教材・教具の開発</li> </ul>



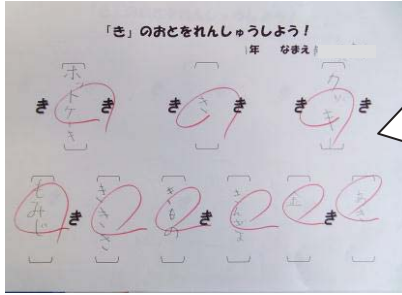
スタート応援ブック  
～授業づくり編～  
P44～を参照

After

・・・学習指導案集②の実践

<b>Plan</b>	<p>児童の実態に合った、児童が興味・関心を示し、主体的に取り組める教材・教具の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ブローイング教材」の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練的にならず、ゲーム遊び感覚でできるものにする。</li> <li>・本人を登場させることで興味・関心をもち取り組めるものにする。</li> <li>・「吹く」動作のフィードバックが容易に得られるものにする。</li> </ul> <p>回転の速さ・回転数等が視覚的に理解でき、『息の強弱・長短』の練習になるもの</p> </li> <li>○「無意味音節練習ワークシート」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の知識や語彙量を生かして本人と一緒に作ることができるものにする。</li> <li>・児童の活動の様子を踏まえ、問題の数、音節の長さ等を修正できるものにする。</li> </ul> </li> <li>○「ICレコーダーの活用」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の声を録音して、正しく発音しているかどうかをフィードバックする。</li> <li>・レコーダーを耳元につけることで、自分の発音の正誤を確認できるようにする。</li> </ul> </li> </ul>
<b>Do</b>	<p>改善後の授業について：題材名「『キ』をつかったことばあそびをしよう」 ※13時間扱いの第7時</p> <p>① ブローイング教材</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>ストローで息を吹きかけることで、児童自身や担当教員の模型が鉄棒を回転する仕組みになっているので、児童はとても興味・関心を示し、主体的に取り組むようになった。回転の速さや回転数を伝えることで、自然に息の強弱をするようになり、楽しい活動の中で「口から息を出して発音する」ことができるようになってきた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 20px;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>水の泡と異なり、呼気の強弱により発砲のボールの動きが様々に変化することで、笑顔で楽しんで取り組めるようになった。</p> </div> </div>

② 無意味音節練習ワークシート



対象音「キ」の前後に、児童が好きな言葉を入れることで、児童自身が無意味音節の問題を作れるようにした。学習したばかりの言葉や児童が好きな食べ物やキャラクターの名前を入れられるので、児童は問題作りに意欲的に取り組んでいた。また、偶然にできる無意味音節のおもしろさを感じ、難しい言い回しの音節でも大きな声で正しく発音しようとする姿が見られた。

③ 口腔模型



口腔模型を使って構音方法を視覚的に示し、ポイントを「舌の奥を上につけて言う」「口から息を出す」のように言語化して伝えた。また、児童自身もポイントを唱えながら口腔模型を操作し、さらに自分の口腔でも確認するようにした。

④ ICレコーダーの活用



正しく発音できているかどうかを児童自身が確認できるようにした。ICレコーダーを右耳に近づけて録音した自分の音を聴くことで、正しい「キ」と鼻咽腔構音化した「キ」の違いを確認できるようになり、語音弁別の向上や正しく発音しようとする意欲につながった。

**Check**

◎教材・教具の工夫による児童の楽しい活動を通じた構音の向上  
 児童や身近な人を取り入れたブローイング教材や、児童の語彙量を生かしたワークシート、口腔模型などを取り入れることで、児童がさらに意欲的に取り組むことができ、楽しい活動を通して、「キ」の発音の改善につながった。  
 ▲学習のまとめ・ふりかえりでは、ICレコーダーで自分の発音を聞くにとどまった。自己評価の工夫があるとさらによかった。

**Action**

改善に向けて  
 ICレコーダーの活用では、文字や記号などを使って、学習のめあてに対して、どうだったのかを客観的に自己評価できる機会を工夫し、次時への活動につなげていきたい。

構音指導に関する既存の教材・教具は様々あり、それぞれ有効なものですが、訓練的になりすぎず、常に児童生徒が興味・関心をもって取り組めるように改善していくことが大切です。その際、ねらいを踏まえて、なぜ、その教材・教具を活用するのかについての根拠を明確にしておくことが大切です。





## 改善の視点 「教材・教具の工夫②」

- ゲーム的な活動を取り入れていますが、児童生徒が主体的に活動に参加できません。
- 児童生徒の実態がさまざま、同じ活動に取り組むことができません。



考えられる要因は・・・

- 段階的な指導ができる教材・教具の作成や場の工夫ができていない。
- 「自分でできる動き」で操作可能な教材・教具となっていない。
  - ・興味・関心を高める教材・教具になっていない。
  - ・ゲームのルールが理解できていない。

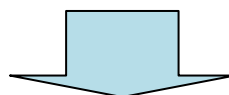
### 〈特別支援学校 肢体不自由 高等部 自立活動における改善実践例〉

Before

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第1次「手を使って倒してみよう」 ※14時間扱いの第2時</p> <p>○主体的な活動を引き出すための工夫 ・ボウリングゲーム大会への参加に向けて、段階的な指導が可能な場を設定するための教材・教具の作成と活用</p>
<p><b>Do</b></p>	<p>○「手で倒す」段階での、主体的に参加可能な教材・教具の活用と多様な場の設定</p> <div data-bbox="339 1032 746 1308" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;教材配置図&gt; ・場をローテーションし、全ての活動を経験する。</p> </div> <div data-bbox="746 1032 1401 1308" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p>①ドミノ倒し</p> <div data-bbox="352 1346 788 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <div data-bbox="815 1346 1422 1682" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>最初のドミノに軽く触れるだけで、連続的に倒れていく。全てのドミノが倒れると、最後にベルが鳴る。ドミノが徐々に倒れていく様子を追視することも目標にできる。視覚的な情報の取り入れが苦手な生徒は、ベルの音を聞くことで、全部が倒れたことが実感でき、達成感が味わえる。</p> </div> <p>②空き缶倒し</p> <div data-bbox="371 1733 762 2029" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <div data-bbox="815 1756 1422 1989" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>空き缶を縦に積み重ねることで、倒しやすく、倒れ方も大きくなる。ドミノ倒しと同じように、視覚的な情報の取り入れが苦手な生徒も、空き缶の倒れる音を聞くことで、達成感が味わえる。</p> </div>

	<p>③段ボール倒し</p>  <p>段ボールを縦に積み重ねることで、高さが出て、倒れ方もダイナミックになる。倒せた実感がダイレクトに伝わり、達成感を味わえる。「押して倒す」→「壊れる」という因果関係を学ぶ段階のため、足も含め、自分の一番得意な動きで倒すことで実施した。</p> <p>④ボウリングピン倒し</p>  <p>本題材の最終目的であるボウリングゲームの前段階として、ピンを手で倒す体験ができるようにした。ステージ上に場を設定することで、倒れたピンが後ろのピンを倒す様子を間近でみることができる。</p>
<p><b>Check</b></p>	<p>◎ベル音を目標にした「ドミノ倒し」に興味・関心をもつ生徒が多かった。「最初のドミノを倒してから、ベルが鳴るまでの時間差」が、「ボールを転がしてから変化がおこるまでの時間差の存在」がある「ボウリングゲーム」と共通しているため、第2次以降も主となる教材として使用していく。</p> <p>▲ボウリングピン倒しでは、視線の位置に合わせてステージ上にピンを並べ、フローアから手を伸ばしてピンを倒す環境設定を行った。身体の向きがピンに正対することができない生徒にとっては、難易度の高い教材になってしまった。</p> <p>▲ボウリングゲーム大会への参加に向けて、ボールを自分の力で転がすことができるような支援が必要である。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p><b>改善のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボウリングゲーム大会への参加」に向けて、小さな力でもボールを転がすことのできる教材・教具を作成する。</li> <li>・大型のテーブルを使用し、机上でボウリングを行えるように環境設定を行い、ピンに正対した姿勢がとれるようにする。</li> <li>・生徒の実態に応じ、ボールを押し力のレベルに合わせて、スロープの傾斜が調整できるような教材・教具を作成する。</li> </ul>

After



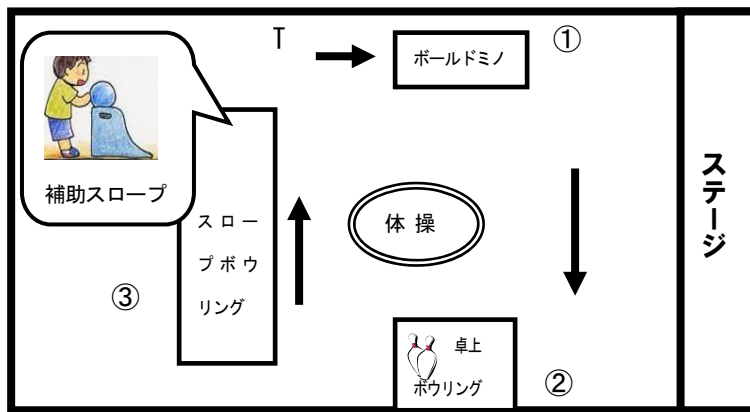
・・・学習指導案集⑧の実践

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善後の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第3次「ボウリングをしよう」 ※14時間扱いの第12時</p> <p>○段階的な指導ができる教材・教具の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウリングゲーム大会への参加に向けて、ボールを転がす動作を段階的に指導できる。</li> </ul> <p>○「自分でできる動き」で操作可能な教材・教具の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態（ボールを転がす力）に応じたスロープの傾斜の調整ができる。</li> </ul>
--------------------	---

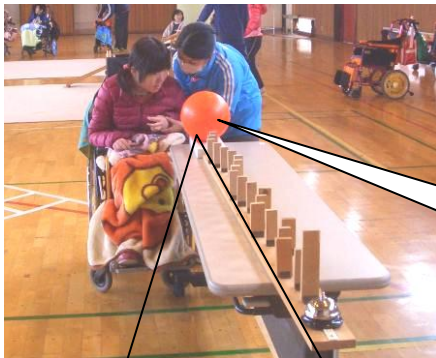
○「ボールを使って倒す」段階での主体的に参加可能な教材・教具の活用と多様な場の設定

<教材配置図>

・場をローテーションし、全ての活動を経験する。



①ボードミノ



スタート応援ブック  
 ~授業づくり編~  
 P44~を参照



手で押していたドミノ倒しを改良した。ボールを押すことで、最初のドミノに当たり、連続的に倒れていく。

個に応じた教材・教具の活用



卓上ドミノ専用の補助具。最初のドミノに触れる位置でボールが止まるようになっている。

②卓上ボウリング

個に応じた教材・教具の活用

竹ひご1本の段差



生徒の力に応じて傾斜を調整



ボウリングピン倒しを改良し、ピンに正対した姿勢での活動が可能になった。補助具を活用することで、ボールを自分の力で転がすことができる。

<p><b>Do</b></p>	<p>③スロープボウリング</p>  <p>スロープを活用することで、ボールを小さな力で押しでも、スピードが出る。スロープの向きでボールの転がる方向も決まるので、ピンを狙いやすい。ピンまでの距離があるので、ボールを転がしてからピンが倒れるまでの時間差が実感できる。生徒の手力に応じた補助具を活用した。</p> <p><b>個に応じた教材・教具の活用</b></p>  <p>筋緊張等により押し出す動きが困難な生徒のために、紐を引くことでボールを転がすことができる教材・教具を作成した。</p>
<p><b>Check</b></p>	<p>◎「自分でできる動き」で「ボウリングゲーム大会」に参加することをねらい、「ボールドミノ」「卓上ボウリング」「スロープボウリング」の各活動における教材・教具を作成・活用した。自分が起こした動作で、物に変化を生じさせることを実感させることができたことで、多くの生徒が主体的に活動しようとする様子が見られた。</p> <p>▲ボールドミノは他の活動と比較し、ボウリングの雰囲気を出せていなかった。ドミノの板をピンと見立てる（ピンが倒れて、更に後ろのピンを倒すイメージがもてる。）などの工夫があると更によかった。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p>改善に向けて ドミノ教材に「ボウリング」のイメージを追加することで更なる生徒の興味・関心を引き出せる可能性がある。</p> <p>更なる改善</p> 

児童生徒が自分でできる動きを生かして活動できる教材・教具を活用しましょう。主体的な活動を引き出し、意欲的に取り組めるでしょう。目標となる動きが引き出せるように、段階的に難易度を上げることが可能な教材・教具の工夫・改善をしてみましょう。





## 改善の視点 「チーム・ティーチング」

○チーム・ティーチングで授業を行う際に、事前の打合せで共通理解を図っても、実際の授業では支援の手立てや評価が教員によって違ってしまいます。統一するためにも、何か工夫する方法はありますか？

考えられるアイディアは・・・





○授業中に支援の手立てや目標を確認する方法を考えましょう。

・事前に略案等で支援方法や役割を確認しましょう。

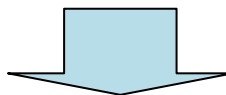
〈特別支援学校 肢体不自由 高等部 自立活動における改善実践例

Before

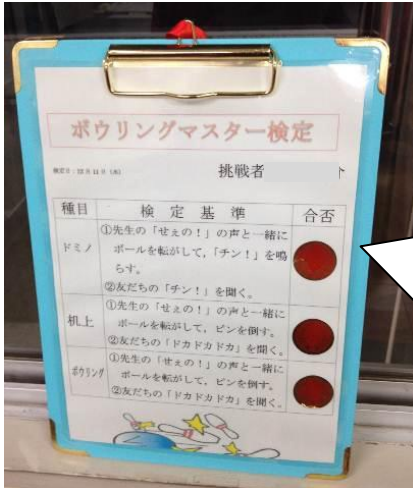
<p><b>Plan</b></p>	<p>改善前の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第1次「手を使って倒してみよう」 ※14時間扱いの第2時</p> <p>○T1とT2～T5の役割を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1（MT）が授業の進行を行い、全体の流れの指示をする。</li> <li>・T2～T5は各活動場所での活動の支援と次の場所へ移動する際の支援を行う。</li> </ul>
<p><b>Do</b></p>	<p>○場の設定と教員の配置</p> <div data-bbox="303 963 734 1299"> <p>①進行：T1（MT） ②ドミノ倒し担当：T2 ③空き缶倒し担当：T3 ④段ボール倒し担当：T4 ⑤ボウリングピン倒し担当：T5</p> <p>※ → は活動のローテーション</p> </div> <div data-bbox="750 963 1420 1299"> </div> <div data-bbox="303 1366 798 1657"> <p>①進行：T1（MT）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備体操の指示</li> <li>・活動の説明</li> <li>・ローテーションの合図</li> <li>・全体の把握</li> <li>・活動の評価</li> <li>・MVPの選出と発表、活動のまとめ</li> </ul> </div> <div data-bbox="335 1668 782 1993"> </div> <div data-bbox="941 1388 1388 1724"> </div> <div data-bbox="877 1747 1308 1948"> <p>スタート応援ブック ～授業づくり編～ P49～を参照</p> </div>


	<p>②ドミノ倒し：T 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長机上のドミノの設置</li> <li>・活動の支援, 評価</li> <li>・次の活動場所への誘導</li> </ul> 	<p>③空き缶倒し：T 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き缶の積み上げ</li> <li>・活動の支援, 評価</li> <li>・次の活動場所への誘導</li> </ul> 
	<p>④段ボール倒し：T 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールの積み上げ</li> <li>・活動の支援, 評価</li> <li>・次の活動場所への誘導</li> </ul> 	<p>⑤ボウリングピン倒し：T 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ上にピンを並べる。</li> <li>・生徒の活動位置の確認</li> <li>・活動の支援, 評価</li> <li>・中央への誘導</li> </ul> 
<b>Check</b>	<p>◎ T 1～T 5 までの役割分担が明確であり、活動がスムーズであった。</p> <p>◎ 生徒一人一人に応じた活動位置の確認ができていた。自分の得意な力が十分発揮できたため、「倒す」という目標はほぼ達成できた。</p> <p>▲ 全体的に難易度が下がってしまい、ほとんどの生徒が容易に倒すことができていた。押す対象までの距離や押す部分の高さを個に応じて設定することが必要であった。</p> <p>▲ 個に応じた言葉かけ、生徒ごとに適した課題や支援方法を明確にし、教員間で共通理解を図る必要がある。</p> <p>▲ MVP の選出の際に評価が分かれていた。絶対評価なのか相対評価か、評価方法の統一が必要であるのと同時に、活動ごとに明確な個に応じた目標や評価の設定が必要である。</p>	
<b>Action</b>	<p><b>改善のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する活動場所にどの生徒が来ても、教員が目標や評価、支援方法が確認できるようにする。</li> </ul>	

After



・・・学習指導案集⑧の実践

<b>Plan</b>	<p>○検定カードの作成（各活動場所で個に応じた目標、支援方法、評価の観点を確認できる。）</p>
<b>Do</b>	<p>改善後の授業：題材名「たおして遊ぼう」・第3次「ボウリングをしよう」 ※14 時間扱いの第 12 時</p> <p>○検定カード（ボウリングマスター検定）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定カードには、生徒一人一人の本時の目標を、本人が分かる言葉で記入する。活動場所には生徒が持参する。</li> <li>・各活動場所の担当教員が生徒と一緒に目標を確認する。</li> </ul> <p>例：先生の「せえの！」の声と一緒にボールを転がして「チン！」を鳴らす。</p> </div> </div>

<p>① T1が、検定カードを提示して、活動内容や目標の説明をする。</p> 	<p>②各活動場所には生徒が持参する。</p> 
<p>③生徒と教員と一緒に読んで確認する。</p> 	<p>④検定カードを使って、教員間で支援の引き継ぎや確認をする。</p> 
<p>⑤検定カードを使って、ボウリングマスターの認定をする。</p> 	<p>⑥ボウリングマスター実演発表と活動のまとめをする。</p> 
<b>Check</b>	<p>◎検定カードを使用したことにより、生徒個々の具体的な目標を活動の流れの中で確認することができ、全ての教員が共通理解した上で支援にあたることができた。</p> <p>◎授業のまとめで行う評価の発表では、各生徒の個に応じた目標からの絶対評価で本時の様子を伝えることができていた。</p> <p>▲検定カードは文字を中心に作成したため、生徒によっては内容が理解しにくいものになっていた。</p>
<b>Action</b>	<p>改善に向けて      写真を載せたり、色の使い方に工夫を加えたりすれば、生徒にも分かりやすい検定カードに改善できる。</p>

ティーム・ティーチングで授業を行う際には、個に応じた目標、評価や支援の方法の共通理解が必要です。カードを活用することで、授業中でも確認することができます。教員間での支援の引き継ぎも明確になります。生徒にとっても、目標の確認や自己評価がしやすくなります。





○1時間ごとや単元・題材ごとの妥当な評価や評価方法がわかりません。

○児童に学習の達成感を味わわせるにはどうすればいいですか。

考えられる要因は・・・

○児童の個に応じた自己評価の方法になっていない。

・教科や領域に合った目標（学習を通して何をねらうのか）の設定になっていない。

## 〈小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習における改善実践例〉

スタート応援ブック

～授業づくり編～

P54～を参照



Before

### Plan

改善前の授業について：単元名「牛乳パックでティッシュケースを作ろう」

○具体的な目標を設定した。

※5時間扱いの第2時

#### 2 単元の目標

- 作り方の手順を一人で確認しながら、手順に従って、創作活動を進めることができる。
- 作り方の手順に従って、最後まで一人で集中してペン立てを完成させることができる。
- 型紙に沿って牛乳パックや色画用紙にまっすぐに線を引き、型をとることができる。

創作活動の技術面のみ目標となっており、具体的な表記になっていない。生活単元としてのねらいが見えない。

#### 4 本時の個別目標

- 作り方の手順に従ってティッシュケースを作ることができる。
- 型紙にそって牛乳パックにきちんと線を引いて型を作ることができる。
- 線に沿ってはさみできちんと切ることができる。
- お世話になった人に心をこめてメッセージを書くことができる。

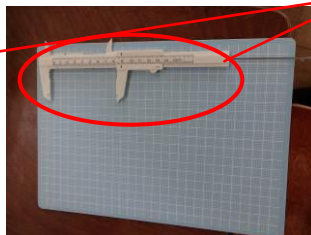
具体的な目標とあるが、この段階では曖昧な評価となっている。何をもちて「できた」と評価するか、具体的な基準が必要である。

○授業の最後に振り返りの時間を設定した。

- ・自己評価として「上手くできたところ・失敗したところ」の両面から発表できるようにする。


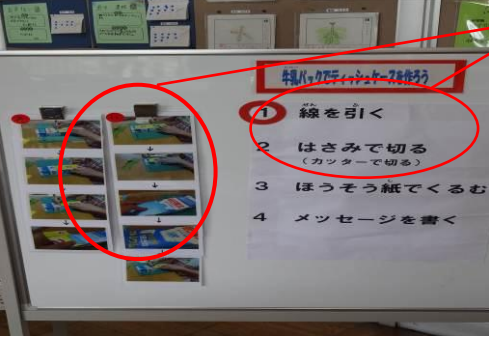
振り返りの時間は、次時につなぐ大切なところである。本人が本時の学習を振り返り、自己評価することで次時の目標を具体的に設定することができる。

○一人で活動できるように補助具を用意した。

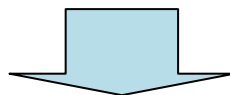


- ・作り方の手順が数字で分かりやすく表示してある。
- ・線を引きやすい道具が使用されている。
- ・使用する教材や道具を工夫したことで、評価の視点が、それらを使って「上手に作ることができたか」という技術面になってしまった。



<p><b>Do</b></p>	<p>○補助具が有効に活用できた。</p>  <div data-bbox="842 203 1417 506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合った、補助具を作成したことで創作活動に児童が主体的に取り組むことができた。</li> <li>・創作活動の流れと手順表を児童の近くに提示したことで、活動全体の見通しがもちやすくなった。</li> <li>・児童の近くに配置したことで、分からないときにすぐに確認することができた。</li> <li>・生活単元学習のねらいが分かりにくい。</li> </ul> </div> <p>○活動の流れを図や文字を使って示すことで、振り返りの時間にヒントとして活用できた。</p>  <div data-bbox="842 600 1417 819" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順の写真をヒントにして、発表の際にどこの部分が難しかったのか発表することができた。</li> <li>・文字で活動を示したことで、発表する際にヒントとして活用することができ、「・・・できた。」とスムーズな発表につなげることができた。</li> </ul> </div>
<p><b>Check</b></p>	<p>▲技術的な目標が中心となり生活単元学習のねらいがあいまいとなっている。</p> <p>▲活動内容を想起させることはできたが、感想発表となってしまった。</p> <p>◎児童が見通しをもって取り組めるように教材が工夫されている。</p> <p>◎児童が自己評価する際に、本時の学習を振り返りやすいように手順表が提示してある。</p>
<p><b>Action</b></p>	<p><b>対象児童の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示が理解できる。</li> <li>・手先の巧緻性が低いため、器具の操作に苦手さがみられる。</li> <li>・学習を振り返る時、「・・・やった」「・・・ができた」等、その時の活動の様子を発表することができる。</li> </ul> <p><b>改善のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定は、具体的な行動目標とする。</li> <li>・児童の変容が分かる、継続性のある評価表を作成する。</li> <li>・児童の実態と生活単元学習のねらいに合わせて、目標・活動・手立てを一貫性のあるものにする。</li> <li>・児童が、自分の活動を振り返りやすい評価用のワークシートの工夫をする。</li> </ul>

After



・・・**学習指導案集①の実践**

<p><b>Plan</b></p>	<p>改善後の授業について：単元名「お世話になった人におくりものをしよう」</p> <p style="text-align: right;">※10 時間扱いの第5時</p> <p>○授業全体を最後に振り返ることが難しいため、活動中に自己評価の場面を設定する。</p> <p>○児童が、前回の自己評価と見比べができるような、ワークシート式の自己評価カードを活用する。</p> <p>○教員も児童用の自己評価カードと同じ項目に沿って評価を行う。</p>
--------------------	--

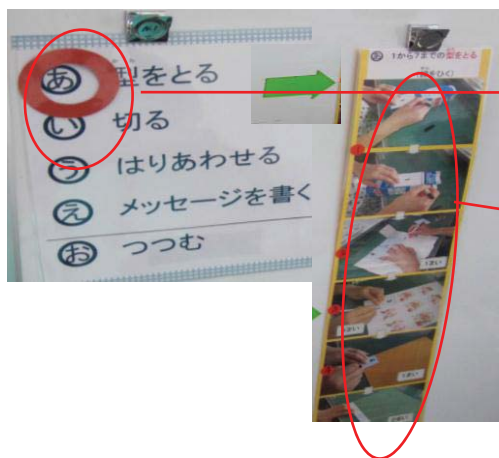
## ○生活単元学習としての目標の見直しをした。

## 2 単元の目標

- なぜ、感謝するのか。「いつも・・・で」「・・・の時」「・・・してくれた」「うれしい」「たのしい」「ありがとう」のキーワードを使い、その人との関わりについて説明することができる。
- 創作活動中は、もらう側の立場になって、プレゼントを作ることができる。
- 制作手順を一人で確認しながら、作り方の順番に従って、最後まで一人で集中してペン立てを完成させることができる。
- プレゼントする相手を意識して、感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。

## ○児童が、活動を振り返りやすい自己評価カードを作成した。

- ・自己評価カードは、段階的に具体的な項目が示され、前回までの評価と比較できるような工夫をしたことで、児童にとって自己目標の設定がしやすくなり、活動の意欲向上につながった。
- ・教員が、児童と一緒に確認しながら評価することで、次時の目標に気付かせる発問が見られた。
- ・振り返る際に、自己評価カードに完成モデルの写真を添えることで、作品の完成度に関してより具体的に「〇〇の部分はよくできたが、△△の部分に気をつけたい」等、本人の気付きにつながり、次時につながる分かりやすい振り返りとなった。
- ・具体的な自己評価カードの活用は、児童が達成感を味わうことができ、活動全般に自信が見られるようになった。



- ・どこを振り返っているのかが、視覚的に分かるように、手順表に赤丸を付けてある。
- ・今行っていた工程は、どの活動であったかが、分かるように写真を活用した工程表となっている。

活動ごとに児童と教員と一緒に評価を行った



前回までの評価と比較できる自己評価表を活用した



○評価観点が具体的に示されている。

- ・生活単元学習としての目標と教科（図工）としての目標の区別ができるようになった。
- ・単元計画に沿った、評価表を作成したことで、授業のねらいと活動に一貫性が見られるようになった。
- ・評価の観点が明確になったことで、目指す児童像もイメージできるようになった。
- ・教員が、児童用の評価カードと同じ項目の評価カードに記録を付けることで、児童の伸びたところや苦手なところなどの変容がつかみやすく、次時につなげることができる評価となった。

【教員用評価カード】

【記録用評価カード】

担当児童 F. R  
お世話になった人に贈り物をしよう

実施日時 H25年11月12日(火) 4校時  
実施場所 あおぞら学級

項目	内容	記録
型紙を切って紙を貼ることができる。	型紙に型をおさえてもらいながら、線を引くことができる。 型紙に型をおさえてもらいながら、まっすぐに線を引くことができる。	○
型を整理してカッターで切ることができる。	型紙に補助具を押さえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。 補助具を横って、ひとりでカッターで紙を切ることができる。	○
型紙に型をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。	型紙に型をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。 ひとりで型をおさえながら、カッターで紙を切ることができる。	○
型紙に型をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。	型紙に型をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。 ひとりで型をおさえながら、カッターで紙を切ることができる。	○
プレゼントを贈る写真を整理して、カードにメッセージを書くことができる。	○○先生(○○さん)にメッセージを書くことができる。 ○○先生(○○さん)に、お礼の言葉をそえてメッセージを書くことができる。	○
全体	じゅんぽんのカードを見ながら、ペン立てを作るすることができる。	○

気づいたこと、その他  
...1つ作業が終わり少し間が空いて。  
※お礼の言葉が書けたこと。  
※お礼の言葉をそえてメッセージを書くことができた。

【授業用評価カード】

名前  
お世話になった人におくりものをしよう

こうもく

項目	達成状況	
① 先生に型をおさえてもらいながら、まっすぐに線を引くことができる。	○	
② 型をつかって、ひとりでまっすぐに線を引くことができる。	○	
③ 型をつかって、ひとりで型をずらすずらすになぞることができる。	○	
④ 先生に補助具をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。	○	
⑤ 補助具を横って、ひとりでカッターで紙を切ることができる。	○	
⑥ 先生にじょうぎをおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができる。	○	
⑦ ひとりでじょうぎをおさえながら、カッターで紙を切ることができる。	○	
⑧ ひとりでじょうぎをおさえながら、カッターで紙を切ることができる。	○	
⑨ 先生(○○さん)にメッセージを書くことができる。	○	
⑩ 先生(○○さん)に、お礼の言葉をそえてメッセージを書くことができる。	○	
全体	じゅんぽんのカードを見ながら、ペン立てを作ることができる。	○

コメント欄に記入された内容が、記録用評価カードの項目と一致していることが確認できる。

- ・教員用と児童用の自己評価カードの項目を統一したことで、教員の見取りと児童の自己評価を客観的に見比べることができる。
- ・これまでの評価が記録として残るので、児童の課題に気づきやすくなっている。
- ・活動ごとに児童と教員が一緒に評価することで、○がついた評価項目の違いが見てくる。
- ・教員は、評価表にコメントを記録しておく。授業後、分析資料として活用できる。
- ・単元目標に沿った項目で設定してあるため、授業のねらいと活動内容の確認ができる。

【児童用評価カード】

名前 F. R  
お世話になった人におくりものをしよう

こうもく

項目	達成状況
① 先生に型をおさえてもらいながら、まっすぐに線を引くことができました。	
② 型をつかって、ひとりでまっすぐに線を引くことができました。	
③ 型をつかって、ひとりで型をずらすずらすになぞることができることができました。	
④ 先生に補助具をおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができました。	
⑤ 補助具を横って、ひとりでカッターで紙を切ることができました。	
⑥ 先生にじょうぎをおさえてもらいながら、カッターで紙を切ることができました。	
⑦ ひとりでじょうぎをおさえながら、カッターで紙を切ることができました。	
⑧ ひとりでじょうぎをおさえながら、カッターで紙を切ることができました。	
⑨ ○○先生(○○さん)にメッセージを書くことができました。	
⑩ ○○先生(○○さん)に、お礼の言葉をそえてメッセージを書くことができました。	
全体	じゅんぽんのカードを見ながら、ペン立てを作ることができました。

- ・児童が自己評価する際に負担と感じないように、項目の絞り込みがされている。
- ・これまでの自己評価が記録として残っているため、本人が客観的に自分の課題に気づきやすい教材となっている。
- ・評価の変化から次の時間に頑張りたいところが分かりやすくなっている。
- ・完成の写真を添えたことで、視覚的情報がヒントとなり、考えやすくなっている。

Check

- ◎評価の観点を明確にしたことで児童の活動を客観的に見ることができた。
- ◎活動の区切りで行う自己評価は、活動への集中が持続し、児童の意欲的な学習態度につながった。
- ◎児童が1時間の授業の中で自己目標と自己評価をチェック表にしたことで客観的に授業を振り返りやすくなった。
- ◎児童が、自分のできることに気づきやすく、主体的な活動につながり自立の意欲を高める

	<p>効果がある。</p> <p>◎活動の区切りで自己評価する場面を盛り込んだことで、教員側も児童の評価をその場で行うことができ、つまずきや苦手な活動を分析することができるようになった。</p> <p>◎気付いたことをコメントに示しておくことで、課題の分析がしやすくなり、多面的な実態の把握につながり、支援の手立てのヒントとなる。</p>
<b>Action</b>	<p>改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標を数値化することで、より具体的な評価となる。児童は、本時に何をがんばればよいのかが明確になる。児童の活動に対する意欲の向上につなげる。</li> <li>・毎時間の形成的評価のデータをもとに、単元のまとめとしての総括的な評価につなげていくことが重要である。</li> <li>・総括的な評価をもとに、指導上の課題を分析することで、授業改善へとつながっていく。</li> <li>・今後の日常生活にどのようにつなげていくのか、単元計画の見直しを行う。</li> </ul>

- ・児童自ら、「この時間で何を学習したのか」「何ができるようになったのか」「次の時間には何を目標にしたらよいか」等、自分の学習を振り返りながら、次の目標に気付けるような工夫がされていました。
- ・教員が1時間の授業の中で行う学習評価は、たくさんの目標をねらうのではなく、「この授業ではここを押さえさせたい」というポイントを2～3点ぐらいに絞り込むことが大切です。また、目標が達成されれば次の課題へ進み、数回やっても達成できない課題は、支援の方法を変えたり、目標を再検討したりすることが必要です。
- ・評価は、記録として積み重ねることが大切です。そのためには、継続的に活用できる評価表の作成が大切です。評価することが児童、教員にとって負担にならないように、ポイントを絞って、簡単にチェックできるものをつくりましょう。





# 学習指導案集

指導案を  
読んで  
なっとくん



研究協力員が第2回の授業の際に作成した学習指導案を紹介します。基本的に研究協力員の所属校の様式になっています。用語は「応援ブック」(授業づくり編P58～)を基準に統一しました。授業改善の取組が詳細に分かるように、対象とした児童(生徒)の個別の指導計画の短期目標と目標達成のための手立て、板書計画、座席図、教材・教具の工夫等を加えた細案としました。様式のスタンダードとして示すものではありません。全ての授業でこのような細案を作成していくことは難しいと考えますので、学習指導案の作成の参考にする際には、各学校の様式に合わせて、部分的に取り入れていただきたいと考えます。

自立活動の内容(区分・項目)との関連は【1-(1)】のように示しました。自立活動の内容につきましては、P60の資料1を参照ください。インクルーシブ教育システム構築に伴い、合理的配慮に関連する内容について、観点を「合理①-1-1」のように示しました。インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮の観点等につきましては、国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システムデータベースに示されています。P60～61の資料2, 3を参照ください。

## 学習指導案の教科・領域, 単元・題材名, 改善の視点

	校種	担当学級等	教科・領域	単元・題材名	改善の視点	ページ
①	小学校	知的障害特別支援学級	生活単元学習	単元名 お世話になった人におくりものをしよう	場の工夫 評価の工夫	62 ～66
②	小学校	言語障害特別支援学級	自立活動	題材名 「キ」をつかったことばあそびをしよう	実態把握・目標設定の工夫 教材・教具の工夫	67 ～71
③	小学校	言語障害特別支援学級	算数	単元名 式と計算	実態把握・目標設定の工夫 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	72 ～76
④	小学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	国語	単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう	実態把握・目標設定の工夫 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	77 ～80
⑤	中学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	数学	単元名 1次関数	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画 特性に応じた支援	81 ～86
⑥	中学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	美術	題材名 あさがおのタペストリを作ろう	場の工夫 発問・応答・賞賛などの 言葉かけの工夫	87 ～90
⑦	特別支援学校	聾学校・高等部	国語	単元名 文化を見つめる	導入・展開・まとめの工夫, 単元計画 特性に応じた支援	91 ～94
⑧	特別支援学校	肢体不自由・高等部	自立活動	題材名 たおして遊ぼう	教材・教具の工夫 ティーム・ティーチング	95 ～99

## 資料 1 自立活動の内容

- 1 健康の保持
  - (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
  - (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
  - (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
  - (4) 健康状態の維持・改善に関する事。
- 2 心理的な安定
  - (1) 情緒の安定に関する事。
  - (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。
  - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
- 3 人間関係の形成
  - (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
  - (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
  - (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
  - (4) 集団への参加の基礎に関する事。
- 4 環境の把握
  - (1) 保有する感覚の活用に関する事。
  - (2) 感覚や認知の特性への対応に関する事。
  - (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
  - (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。
  - (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
- 5 身体の動き
  - (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
  - (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
  - (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
  - (4) 身体の移動能力に関する事。
  - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
- 6 コミュニケーション
  - (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
  - (2) 言語の受容と表出に関する事。
  - (3) 言語の形成と活用に関する事。
  - (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
  - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（文部科学省）

## 資料 2 インクルーシブ教育システム、合理的配慮について

「インクルーシブ教育システム」とは

障害者の権利に関する条約第 24 条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system、署名時仮訳：包容する教育制度)とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」(署名時仮訳：教育制度一般)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニ一

ズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

「合理的配慮」とは

「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」とされている。なお、「負担」については、「変更及び調整」を行う主体に課される負担を指すとされている。

「合理的配慮」の決定・提供に当たっては、各学校の設置者及び学校が体制面、財政面をも勘案し、「均衡を失した」又は「過度の」負担について、個別に判断することとなる。各学校の設置者及び学校は、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶというインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「合理的配慮」の提供に努める必要がある。その際、現在必要とされている「合理的配慮」は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて、共通理解を図る必要がある。

インクルーシブ教育システムデータベース（国立特別支援教育総合研究所）

### 資料3 合理的配慮の観点

① 教育内容・方法	
合理①-1-1	学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
合理①-1-2	学習内容の変更・調整
合理①-2-1	情報・コミュニケーション及び教材の配慮
合理①-2-2	学習機会や体験の確保
合理①-2-3	心理面・健康面の配慮
② 支援体制	
合理②-1	専門性のある指導体制の整備
合理②-2	幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
合理②-3	災害時等の支援体制の整備
③ 施設・設備	
合理③-1	校内環境のバリアフリー化
合理③-2	発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
合理③-3	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

インクルーシブ教育システムデータベース（国立特別支援教育総合研究所）

## 学習指導案 ①

〈対象とした児童〉 6年 性別 女 A
〈個別の指導計画から〉
○短期目標（2学期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の生活において協力してくれる人や手助けしてくれる人がいるから「私は、・・ができた」に気付くことができる。</li> <li>・ お世話になっている人に、感謝の気持ちを込めたメッセージと、プレゼントを作ることができる。 <span style="float: right;">【6-（2）】</span></li> <li>・ お世話になっている人に感謝の気持ちを言葉で伝え、プレゼントを手渡しすることができる。 <span style="float: right;">【3-（1）】</span></li> </ul>
○手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業開始前にお世話になっている人とのエピソードから、なぜ感謝しているのかを言葉で発することでその人に対して「ありがとう」という気持ちを高める。</li> <li>・ 渡す相手の写真を活動の手順表に示し、常に意識して創作活動に取り組めるようにする。 <span style="float: right;">合理①-2-1</span></li> <li>・ 感謝の気持ちにつながるキーワードの確認をする。 「いつも・・で」「・・の時」「・・してくれた」「うれしかった」「たのしかった」「ありがとう」</li> <li>・ 作業ごとに1回練習を行い、注意点や道具の扱い方について確認を行ってから創作活動に入る。 <span style="float: right;">合理①-2-1</span></li> </ul>

### 小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習指導案

1 単元名 お世話になった人におくりものをしよう

2 単元について

(1) 対象児童の単元における実態

本児は、やや吃音があるものの明るく元気に学校生活を送っている。友達や教員との会話に関しても特に嫌がる様子もなく、休み時間などのときに自分から気軽に話しかけることができる。活動面に関しては、活動内容や順番等が分かり見通しがもてたときは主体的に取り組むことができる。しかし、目的やねらいをもって相手に話しかけたり、評価を意識して「上手くやらないと」という気持ちになると、かしこまってしまったり、緊張してしまったりして、人との関わりや活動に主体的に取り組むことが難しくなってしまう。教員間では、本人の実態について共通理解を図り、本人が臆してしまったときには、本人がやりやすいようにサポートしている。徐々にではあるが、教員のサポートが入ることで「できる」「できた」という自信が見られるようになってきた。しかし、いろいろな人にお世話になりながら日々の生活を送っているという意識はなく、相手に感謝するという気持ちがあまり育っていない。それは、本人が相手から感謝されるという経験が少なく、「～のおかげで」「～でありがとう」という相手から感謝される喜びを感じる経験が不足しているからと考えられる。

(2) 単元観

本単元「お世話になった人におくりものをしよう」は、日頃から何らかの関わりのある人を意識させることで、感謝する気持ちの育成を目指すものである。1学期に行った「牛乳パックでティッシュケースを作ろう」の創作活動では、安全な道具の扱い方の学習を行い、安全を意識して丁寧に作品を作り上げることを目標に行った。本単元では、その経験を生かし、渡す相手を意識しながら、プレゼントを作り、直接手渡すことで、相手から感謝される喜びを味わうことができる。また、自分一人の力で作り上げたものをプレゼントする活動をとおして、努力から生まれる自信へとつなぎ、主体的に取り組める学習活動へと発展させたい。



(3) 指導にあたって

受け取った人に喜んでもらうためにも、もらう側の立場になって丁寧に作ることを意識を高めたい。そのためには、渡す相手の写真を掲示したり、今作っているのは「何のためなのか」「もらった相手は、どう思うか」を活動中に問いかけたりすることで、常に渡す相手の意識付けを図っていく。また、自分一人の力で作り上げるためには、活動の見通しを分かりやすく提示し、自力で作るための補助具が必要である。1学期の経験を生かすためにも、素材は同じ物を使い、基本的な創作工程は同じにする。型の取り方や切断の仕方等に関しては、やや難易度を上げた活動にすることで集中させた活動を目指したい。また、工程ごとに振り返りを行い、頑張りを賞賛することで、達成感や満足感を得るようにし、次の工程に取り組む意欲を高め、一人で作り上げる意識の持続につながるようにする。

3 児童の実態と個別目標

<p>〈单元における実態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活においてある程度親しくなると、自分から進んで相手に声をかけることができる。</li> <li>○日頃、サポートしてくれている人に対して、あまり感謝の気持ちがみられず、表面的な関わりとなってしまう。</li> <li>○手先が不器用で、細かい作業を苦手としており、活動を避ける傾向がある。</li> <li>○視覚的な手がかりによって、注意を向けたり、理解が促進されたりすることが多い。</li> <li>○線を引く、線に沿って切るといったときに、曲がってしまうことが多い。</li> </ul>
<p>〈单元における目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いつも・・・で」「・・・の時」「・・・してくれた」「うれしかった」「たのしかった」「ありがとう」のキーワードを使い、その人との関わりについて説明することができる。【3-(1)】</li> <li>○制作手順を一人で確認しながら、作り方の順番に従って、最後まで一人で集中してペン立てを完成させることができる。【5-(5)】</li> <li>○プレゼントする相手を意識して、感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。【6-(2)】</li> </ul>

4 指導計画と評価 (10 時間取り扱い)

- 第1次 オリエンテーション・・・・・・・・・・ 2時間
- 第2次 ペン立てを作ろう・・・・・・・・・・ 7時間

時	主な学習内容・活動	評価
3～9 (本時は5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペン立てを作る。</li> <li>・型紙を使って型をとる。</li> <li>・カッターを使って型を切る。</li> <li>・切ったものを貼り合わせる。</li> <li>・プレゼントに添えるカードにお礼のメッセージを書く。</li> <li>・今日の活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作り方の順番に従って、ペン立てを作ることができる。</li> <li>○型紙にそって牛乳パックや色画用紙に線を引いて型をとることができる。【5-(5)】</li> <li>○線を意識して、線の上をはさみやカッターを使って切ることができる。【5-(5)】</li> <li>○プレゼントを贈る相手を意識して、カードに感謝の気持ちが伝わるキーワード入れて、メッセージを書くことができる。 【6-(2)】</li> <li>○ペン立てを作ったことやお世話になった人にプレゼントしたときの気持ちを、言葉や文に表すことができる。</li> </ul>

- 第3次 活動を振り返ろう・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導


(1) 児童の実態と個別目標





実 態		目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や写真などで内容を提示すれば、集中して活動を進めることができる。</li> <li>・カッターを使用して紙を切る体験をしているものの、定規を固定しながらまっすぐに切るのはまだ難しく、時折、定規がずれてしまい、切り方が斜めになってしまうことがある。</li> <li>・カードにメッセージを書くことはできるが、文章が単調になりがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作り方の順番に従って、一人でペン立てを作ることができる。</li> <li>・定規（線）に沿ってカッターで紙を切ることができる。【5-（5）】</li> <li>・感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。</li> </ul>

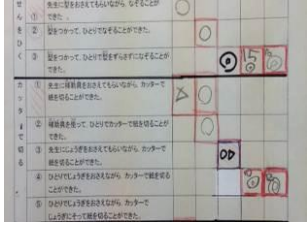
(2) 準備物等

教材・教具	使用する目的及び使用者	使用場面
活動の流れが書かれている掲示物 プレゼントする相手の写真	活動の流れを確認する。 プレゼントを渡す相手分かる。 (教員・児童)	開始時
牛乳パック、色画用紙、型紙、カッター、 定規、カッターマット、油性ペンなどの筆記用具、 カッター練習用の補助具 練習用紙(カッターの使い方の練習) 飾り用イラスト紙、テープのり、輪ゴム 木工用ボンド、手順表	ペン立て作り(児童)	ペン立て作りの 活動中
パーツケース	切ったパーツを入れておく。(児童)	切る活動中
振り返りカード	自己評価(児童)	活動が切り替わる時
チェック表	児童の評価(教員)	常時

(3) 展開

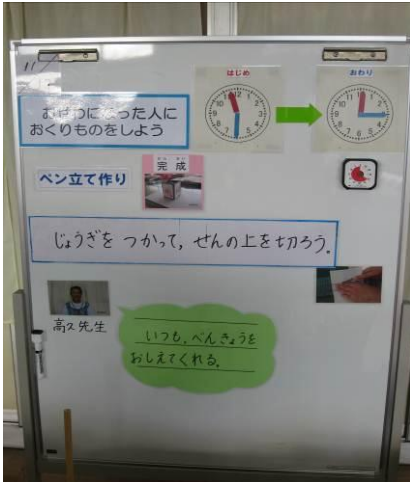
時間	学習の内容及び活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
5	<p>1 活動内容やプレゼントを渡す相手を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼントを渡す相手とのエピソードを発表する。</li> <li>・本時のめあての確認をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じょうぎをつかって、せんの上を切ろう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れが見て分かるように、全体の活動内容を文字にして掲示する。合理①-2-2</li> <li>・誰にペン立てをプレゼントするのかを意識できるように、プレゼントを渡す相手の写真を掲示する。</li> <li>・エピソードの発表の際、なかなか言葉が出ないときには、発問して伝えたいことを引き出す。</li> <li>・「めあてカード」を読ませた後、活動の注意点について発問し、理解の確認を行う。</li> </ul>

<p>30</p>	<p>2 ペン立てを作る。</p> <p>(1)型をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数字の1から順に型紙を置き、サインペンで線を引く。</li> <li>型に沿って線が引けたか、型紙と比較して確認する。</li> </ul> <p>(2)カッターで切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線上を切る練習をする。</li> <li>数字の順番ごとに、牛乳パックや色紙などをカッターで切る。</li> </ul> <p>・カッターを使って、線上を切れたか確認する。</p>  <p>(3)紙を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本体の4角，上部，下部に色紙を貼る。</li> <li>面の白い部分に好きなイラスト紙を貼って装飾する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を添付した作業工程表を作成し，自主的に作業が行えるようにする。合理①-2-2</li> <li>型紙にあらかじめ数字を書きしておくことで，順番よく作業を進めることができるようにする。合理①-2-1</li> <li>まっすぐな線が引けるよう型紙を作成し，提示する。合理①-2-1</li> <li>牛乳パックを切る前に事前に補助具を活用して，カッターで切る練習を行い，切断時に線を意識して切ることができるようにする。合理①-2-2</li> <li>カッターの刃のあて方と線に注目できるよう言葉かけをする。合理①-2-1</li> <li>定規がうまく固定できるように，手を添える。</li> <li>順番ごとにパーツを入れておくケースを準備することで切ったパーツがバラバラにならないようにする。合理①-2-2</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼントを渡す相手の写真を見せながら，絵柄のサンプル集の中から選べるようにする。</li> <li>テープのりやボンドをつける際に，曲がったり，ズレたりしないように補助線を引いておく。合理①-2-1</li> <li>イラスト紙を貼る際に，曲がって貼ることが予想されるので，補助線を引いておく。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎作り方の順番に従って，ペン立てを作ることができたか。(観察)</p> <p>◎教員に定規の固定をしてもらいながら，定規(線)に沿ってカッターでまっすぐに紙を切ることができたか。(観察，作品)</p> </div>
<p>5</p>	<p>3 メッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈る人の確認をする。</li> <li>贈る人にメッセージを書く。</li> <li>メッセージを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰にプレゼントするのか，また，どんな関わりがあったのかを，写真や贈りたい理由の書かれたふき出しで確認することで，メッセージカードを書くことができるようにする。合理①-2-1</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができたか。(メッセージカード)</p> </div>


5	<p>4 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価表をもとにがんばったところ、次回がんばるところを発表する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価表に記入した評価◎○△を付けた理由が発表できたときには大いに賞賛する。</li> <li>なかなか理由が発表できないときには、先に教員の評価を見せて説明し、その後「◎はどこがうまくできた？」と発問して発表しやすくする。</li> <li>次回の課題に気付かないときには、児童の評価表の△が続いているところを指で指し、気づきやすくする。</li> <li>△が○に変わったところは、頑張ったところであることを伝え、次時の学習意欲が高まるよう賞賛する。</li> </ul>
---	---	--

(4) 板書、提示計画

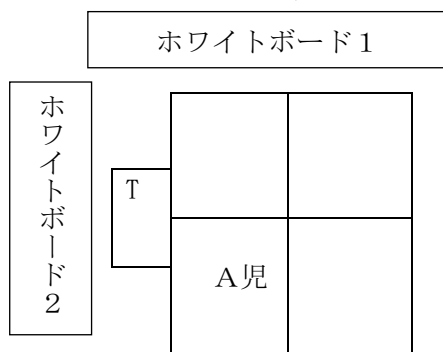
[ボード1]



[ボード2]



(5) 場の設定 (座席配置図, 環境図等)





## 学習指導案 ②

<対象とした児童> 1年 性別 女 B
<個別の指導計画から>
○短期目標
・鼻漏れの有無を意識しながら呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】
・「キ」音を短文レベルで正しく発音することができる。【6-(2)】
・いろいろな活動場面を通して、ことばのやりとりを楽しむことができる。【6-(1)】
○手立て
・「ブローイング学習」では、Bが興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼吸を口腔から出す動作の定着を図る。合理①-2-1
・「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につけながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、Bが正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図る。合理①-2-1
・「キ」のつくことばを使ったゲームを取り入れる。

### 小学校 言語障害特別支援学級 自立活動学習指導案

1 題材名 「キ」をつかったことばあそびをしよう

2 題材について

(1) 対象児童の題材における実態

本学級に在籍している1年Bは、先天性両感音難聴である。聴力は、右耳が50 dB、左耳が91 dB程度であるが、右耳は補聴器を装用することで20~40 dB程度になり、静かな環境で正面から聞けば、通常の会話はほぼ理解し、交流学級の児童と一緒に行動することができる。語音弁別では、集団行動の中でいろいろな音が混ざった状態で聞くと、口形が似ている音は聞き誤ることもある。しかし、個別学習では単音での50音は正しく弁別できる。発音は、イ列音・ウ列音が、難聴児によく見られる息が鼻から抜けた音「鼻咽腔構音」になる。

本校入学前は、ことばの教室に通級し、「ウ」「イ」「サ」行音を練習してきた。「ウ」「イ」については、短文レベルで正しく発音できるようになった。

本校入学後、1学期は、前年からの継続指導で「サ」行音を中心とした発音指導（単語レベル→文章レベル）を行い、「シ」以外の音は会話レベルでも正しく発音できるようになった。鼻咽腔構音になっていた「シ」も、息が鼻から抜けてしまうこともあるが、言い直しをさせることで自己修正することができるようになってきている。また、「チ」は正しく発音することができる。

(2) 題材観

1学期終了後、専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。Bは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力はあり、正誤音の聞き分けもできているため、鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。そのため、今後は、呼吸を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」（吹く学習）を意識的に取り入れながら、Bが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。

本題材で取り上げる「キ」音を、Bは鼻咽腔構音になったり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外のカ行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導しやすいのではないかと考えた。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、「ブローイング学習」では、Bが興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼吸を口腔から出す動作の定着を図りたい。「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につけながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、Bが正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図り、交流学級に戻った時に、自信をもって話すことができるように支援していきたい。

### 3 児童の実態と個別目標

<p>&lt;題材における実態&gt;</p> <p>○きこえについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先天性両感音難聴</li> <li>・右 50 dB (補聴器装用時 20~40 dB) 左 91 dB</li> </ul> <p>○知能検査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田中ビネー-V IQ〇〇</li> <li>・WPPSI検査 VIQ〇〇 PIQ〇〇 FIQ〇〇</li> <li>・S-M社会生活能力検査 SA〇〇 SQ〇〇</li> </ul> <p>○発音について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イ列音・ウ列音が鼻咽腔構音になる。</li> <li>・「キ・ギ」が「チ・ヂ」に置換することがある。</li> </ul> <p>○専門機関との連携 合理②-1</p> <p>専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。Bは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力があり、正誤音の聞き分けもできている。そのため、鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。今後は、呼吸を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」(吹く学習)を意識的に取り入れながら、Bが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。</p> <p>○音の焦点化「キ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キ」音を、Bは鼻咽腔構音になったり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外のカ行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導していく。</li> <li>・「カ」行音は、構音発達基準が3歳であり、発達上比較的早い段階で獲得しやすい音である。</li> </ul>
<p>&lt;題材における目標&gt;</p> <p>○強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】</p> <p>○口形と舌の形を意識して意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。【6-(2)】</p> <p>○ゲームを取り入れることで、話をする楽しさを知り、意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】</p>

### 4 指導計画と評価 (20時間扱い)

- 第1次 舌の運動をしよう (平らな舌づくり) . . . . . 2時間
- 第2次 単音で発音できるようにしよう . . . . . 5時間
- 第3次 「キ」のつく言葉を練習しよう . . . . . 13時間

時	主な学習内容・活動	評価
1~3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(強く吹く)</li> <li>・「キ」+母音, 母音+「キ」の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○強い呼吸を口腔から出すことができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しい口形と舌の形で無意味音節「キ」+母音を発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> </ul>
4~8 (本時は7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(強弱をつける)</li> <li>・「キ」+子音, 子音+「キ」の練習をする。</li> <li>・ことば遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」+子音を正しく発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。(発音時の様子の観察)【6-(1)】</li> </ul>
7~13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイングの練習をする。(弱く長く)</li> <li>・「キ」のつく単語で練習する。</li> <li>・ことば遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長く弱く呼吸を口腔から出すことができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。(発音時の様子の観察)【6-(2)】</li> <li>○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。(発音時の様子の観察)【6-(1)】</li> </ul>

### 5 本時の指導



#### (1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブローイング学習を通して、口から息を出したり吸ったりすることができるようになった。息の強弱や長短等を意識して吹くことができるようになってきた。</li> <li>・「キ」単音では、正しく発音できるようになってきた。無意味音節「キ」+子音では、子音がイ列音だと鼻咽腔構音になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブローイングの学習を通して、強弱をつけて呼吸を口腔から出すことができる。【6-(2)】</li> <li>○口形と舌の形を意識して「キ」+無意味音節を発音することができる。【6-(2)】</li> <li>○ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】</li> </ul>

(2) 準備・資料

鏡、口の体操カード、たまごボーロ、舌圧子、口腔模型、ワークシート、ホワイトボード、ブローイング教材、ICレコーダー

(3) 展開

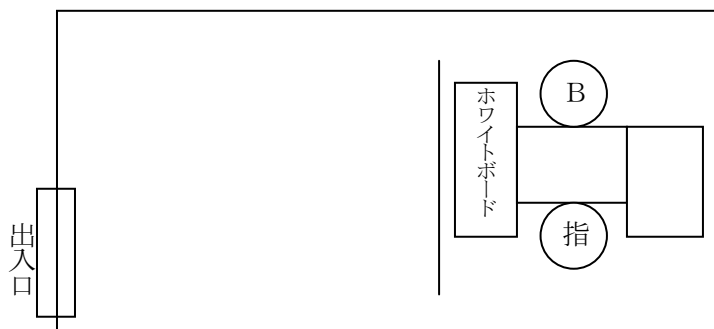
時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
2	1 あいさつをする。 2 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダー・天気・予定</li> <li>◎ 「キ」を正しくはつおんしょう</li> <li>◎ 「キ」をつかったことはあそびをしよう</li> <li>・口の体操</li> <li>・吹く練習</li> <li>・発音の練習「キ」</li> <li>・はつおんビンゴゲーム</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正しくして、元気よくあいさつするように言葉かけをする。</li> <li>・あいさつや会話をする中で、Bの状態を観察する。</li> <li>・ホワイトボードに本時の流れを提示し、学習課題や内容を知らせることで、見通しをもって最後まで意欲的に取り組めるようにする。【2-(2)】</li> <li>・各学習に入るときは、Bが学習課題を読むようにすることで、話す機会を多く持つようにする。【6-(2)】合理①-1-2</li> <li>・ゆっくりとした発話速度で話すことを心がける。【6-(2)】</li> <li>・安心し、リラックスできる雰囲気づくりに心がける。【2-(2)】</li> <li>・Bからの話しかけや関わりに受容的に応じるようにする。【6-(2)】</li> </ul>
3	3 口の体操をする。 (1) 母音の練習 (2) 舌の運動 前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡を使うことで、自分の口の動きと手本の口の動きを見比べながら取り組めるように促す。【4-(2)】</li> <li>・指を使って数を数えることで、見通しをもって意欲的に取り組むことができるようにする。【4-(2)】合理①-1-1</li> <li>・たまごボーロを奥舌の上に乗せ、軟口蓋につけてつぶすようにすることで、「カ」行音の構音方法で使う舌の動きを誘導する。【6-(1)】</li> </ul>
7	4 吹く練習をしよう。 (1) 球吹き  (2) 鉄棒くん 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bの取り組みを言語化しモニタリングして認めたり、賞賛したりすることで支持していく。【6-(1)】</li> <li>・「球吹き」「鉄棒くん」等の教材を通して、口から強く息を出すことを意識できるようにする。【6-(1)】合理①-2-1</li> <li>・「速い回転」「遅い回転」等の言葉を言いながら手本を示すことで、吹く息の強弱の違いを意識できるようにする。【6-(1)】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎強弱をつけて呼気を口腔から出すことができたか。 (発音時の様子の観察、教材の回転数)</p> </div>
18	5 発音の練習をする。 (1) 「カ」行音の発音の仕方を確認する。 (2) カ、ク、ケ、コの練習 (3) 「キ」音の練習 (4) 「キ」ばかり言葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前前の音数を「キ」だけで言う。</li> <li>・「キ」だけであいさつする。等</li> </ul> (5) 無意味音節の練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>「キ」+子音</li> <li>「子音」+「キ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カ」行音の構音方法を口腔模型も使って視覚的に理解できるようにする。【4-(2)】</li> <li>・「舌の奥を上につけて言う」「口から息を出す」のように言語化して、提示することで構音方法を理解できるようにする。【4-(2)】</li> <li>・鼻に抜ける音になってしまう時は、鼻孔を閉じて発音したり、「口から出すよ」と言ったりして、口から息を出す感覚を確認したりしてから、再度「キ」に近づけていくようにする。【6-(1)】</li> <li>・日常生活に出てくる音を「キ」に置き換えて発音することで、楽しみながら練習できるようにする。【6-(1)】</li> <li>・無意味音節のワークシートでは、Bが知っている言葉を書けるようにして、B自身が練習問題を作ることで、意欲的に取り組めるようにする。【6-(2)】合理①-2-1</li> <li>・ICレコーダーを使い、正しく発音した音をBにフィードバックして、達成感を味わえるようにする。【4-(2)】合理①-2-1</li> </ul>

	「子音」 + 「キ」 + 「子音」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく発音できた時は、大いに賞賛し自信をもてるようにする。【6-(1)】</li> <li>・練習した発音の仕方を意識して取り組むことを確認する。【6-(1)】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」 + 子音を正しく発音できたか。(発音時の様子の観察・ICレコーダー)</p> </div>
12	6 ことば遊びをする。 ・「キ」が入った言葉ビンゴゲームをする。	<p>※少しでも話し方に工夫が見られた時には認め、声を出す楽しさを感じられるようにする。【6-(1)】合理①-1-1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができたか。(発音時の様子の観察)</p> </div>
3	7 本時を振り返り、次時の学習について知る。 8 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りでは、Bが発言する機会を作ったり、がんばりを賞賛し認めたりすることで次時の意欲につなげる。</li> </ul>

(4) 板書計画





○月○日 かようび 天気 学習の予定 ・はじめのあいさつ ・カレンダー・天気・今日の予定 ◎「キ」をただしくはつおんしよう ◎「キ」をつかったことばあそびをしよう ・くちのたいそう ・ふくれんしゅう ・はつおんのれんしゅう「キ」 ・はつおんビンゴゲーム「キ」 ・ふりかえり ・おわりのあいさつ
---

(5) 座席図 (配置図)





(6) 教材・教具の工夫について

ブローイング教材 「球吹き」	ブローイング教材 「鉄棒くん」	無意味音節練習ワークシート	ICレコーダー
			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・息を吹きかけることで、球が浮き上がる教材。</li> <li>・軽い球なので、ストローで吸い取ることもできる。</li> <li>・「吹く」動作のフィードバックが容易に得られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・息を吹きかけることで、鉄棒をつかんでいるキャラクターを回転させる教材。</li> <li>・児童をキャラクターにすることによって興味・関心をもち意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・「1回転」「3回転」と回転数を指示することで、息の強弱への意識を高めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キ」の無意味音節を練習するワークシート。</li> <li>・かっこの中にことばを入れられるようになっており、児童の知識や語彙量を生かして本人と一緒に作ることができるので、意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の声を録音して、正しく発音しているかどうかをフィードバックする。</li> <li>・難聴のため、レコーダーを耳元につけることで、自分の発音の正誤を確認することができる。</li> </ul>

# 学習指導案 ③

<対象とした児童> 4年 性別 女 C <個別の指導計画から> ○短期目標 ・九九表を見なくても簡単なわり算の計算ができる。 ・10の補数を言うことができる。 ○手立て ・九九の6～9の段について暗唱できるように、九九表やフラッシュカード等を用いて繰り返し練習を行う。 ・10になる組み合わせについて、フラッシュカードを用いて、ゲーム的に毎日練習をする。
--

## 小学校 言語障害特別支援学級 算数科学習指導案

### 1 単元名 式と計算

### 2 単元について

#### (1) 対象児童の単元における実態

算数への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や半具体物を使う算数的活動には意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・課題が難しいと感じると「できない」と言って諦めてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題は、加減乗除のどれを使って問題を解けばよいか分からないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法と減法は指を使って計算している。</li> <li>・乗法や除法では、九九表を見ずにできるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法の交換法則や( )の中を先に計算することを理解している。</li> </ul>

#### <自立活動に関する実態>

- ・学習に集中できる時間が短く、姿勢が崩れたり、離席したりしがちである。
- ・身に付いている生活言語が少なく、自分の思ったことや考えたことを伝えるのに、どんな言葉で表現すればよいか分からなくなってしまうことがある。
- ・様々なことに興味・関心を持ち、積極的に取り組むことができる。
- ・自分の感情を抑えることができ、友達とのコミュニケーションをスムーズにとることができる。
- ・身の回りのことを自分で行うことができ、買い物の経験も多い。

#### <実態把握に関して工夫した点>

- ・本単元につながる既習事項に関して、観点別のレディネステストを実施し、あと少しでできそうなところや苦手とするところを把握した。
- ・学習に集中して取り組むことのできる時間を計り、どんなときに集中し、どんなときに集中できなくなるのかを観察した。
- ・交流学級の担任から、集団の中での学習の取り組みの様子の聞き取りを行った。
- ・学習課題で買い物の場面を多く使うので、買い物の経験やお金の扱い方、おつりの出し方や金額がどれくらい分かるかを本人に聞いたり、実際にさせてみてチェックした。

#### (2) 単元観

本単元では、学習指導要領第4学年の内容「D 数量関係(2)数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする」を受けた内容で、場面の数量の関係を読み取って、それを( )を用いた1つの式に表したり、四則混合の式に表したりするとともに、そのような式における計算の順序やきまりについて理解することをねらいとしている。

児童はこれまでに、四則の計算や( )の中を先に計算することを学んできている。本単元では、さらに( )をひとまとまりのものとして考えることを学び、( )を先に計算すること、乗法や除法を加法や減法よりも先に計算することを理解させ、計算の習熟を図っていく。

また、( )を用いることで、1つの式に表せることを理解させ、それによって数量の関係をより簡潔に明確に表すことができるよさを理解させていく。

式は、答えを導くための計算過程を表すだけでなく、数量の関係を表すことができるというもう1つの側面についての理解も深めながら、式に表すことのよさを感じ取らせたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

Cは、四則の計算には意欲的に取り組むが、文章題が苦手である。文章を読み、場面を想像し、図や式に表すことに困難が見られる。

そこで、Cが日常経験している買い物の場面から問題を設定し、実際に活動場面を設けることで、問題場面をことばの式と関連付けながら問題解決を図っていききたい。

( )を用いた式では、Cに身近な買い物の場面から問題を提示し、実際に具体物で買い物の模擬体験を行いながら、買い物の仕方を考える。おつりを求める式を立てる際には、「出したお金」「代金」「おつり」の言葉を手がかりにし、「出したお金－代金＝おつり」の式にあてはめることで1つの式に表していききたい。その際に単に( )から先に計算すればよいだけでなく問題の意味を考えてひとまとまりとして見るのに( )を用いるとよいことに気付くようにしていききたい。また、式から問題を作らせてみることで、( )を用いた式が適用できるようにしていききたい。

かけ算やわり算をひとまとまりとし、( )を用いなくてもよい式でも、どんな買い方をするのか実際に行いながら、問題の場面を捉えさせることで、( )がなくてもひとまとまりとして見ることができるとに気付くようにしていききたい。Cは「～のいくつ分」がかけ算になることや、「～の半分」が割り算になることをよく理解していないところもあるため、問題を十分に読ませ、キーワードに注目できるようにすることでどんな式にすればよいか考えられるようにしたい。

計算のきまりでは、●と○を使ったアレイ図を用いて分配法則について学習する。アレイ図の中にどのまとまりを基にすればよいかを書き込ませ、1つの式に表し、●と○が全部でいくつあるか自分の言葉で説明できるようにしたい。また、基にするまとまりは同じにした別の数え方を考えさせ、分配法則についての理解を図りたい。●と○の図を見て式に表したり、式から図を考えたりする方法も取り入れていききたい。

単元のまとめでは、さまざまな問題を解いたり、作ったりすることで四則混合式の計算の仕方が定着するように指導していききたい。

Cの実態として集中することのできる時間が短く、姿勢が崩れやすいことや操作活動は進んで行うことなどを踏まえ、学習の見通しを持たせ、時間を設定したり、具体物や半具体物を操作しながら問題を解いたりすることで、姿勢を崩さずに集中できる時間を持続させていききたい。

3 単元の目標

- (1) 課題の数値を簡単にしたり、問題場面を動作化させたりすることで、課題を理解し、1つの式に表そうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 問題場面を( )を用いた式や四則混合の式に表し、計算することができる。 (数学的な技能)
- (3) 学習の流れを知ること、見通しを持って学習に取り組む時間を延ばすことができる。【2-(1)】

<目標設定に関して工夫した点>  
 ・児童の実態を踏まえ、どのような支援をすればCが意欲を持続させながら学習できるか、また、どのような学習過程で単元の目標に到達するのかを考え、目標を設定した。

4 指導計画と評価 (6時間扱い)

第1次 ( )のある式・・・・・・・・・・ 2時間

時	主な学習内容・活動	評価
1 (本時)	加減混合の問題を、( )を用いて数量の関係を1つの式で表し、計算の順序を考えて、問題を解決する。	○おつりの求め方を1つの式に表し、( )を先に計算することができる。 (数学的な技能)
2	四則混合の問題を( )を用いて1つの式で表し、計算の順序の理解を深める。	○2段階の構造(加法、乗法)の問題を( )を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序が分かる。(知識・理解)

第2次 +, -と×, ÷のまじった式・・・・・・・・ 2時間

第3次 計算のきまり・・・・・・・・・・ 1時間

第4次 まとめ・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導


(1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物の経験は多く、必要なお金を出すことができる。</li> <li>・文章題が苦手、課題を把握することが難しい。</li> <li>・四則の計算は指を使うが、簡単な数値なら正確に行うことができる。</li> <li>・集中する時間が短く、離席してしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題場面を動作化し、ヒントを得ることでおつりを求める式をノートに書くことができる。(数学的な見方や考え方)</li> <li>○数値を簡単にすることで、( )を使った式を正しく計算することができる。(数学的な技能)</li> <li>○学習の流れを知らせ、時間を設定することで20分は姿勢を崩さずに学習に取り組むことができる。【2-(1)】</li> </ul>

(2) 準備・資料

学習の流れ，課題文，4つのお菓子箱，お菓子の写真，かご，お金，言葉の式（掲示用），振り返りカード，計算機，タイマー

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価 ☆自立活動に関する支援)																
10	<p>1 本時の学習を確認し，買い物をしたときのおつりの出し方を確かめる。</p> <table border="1" data-bbox="236 389 767 461"> <tr> <td>1 復習</td> <td>2 今日の課題</td> <td>3 考えよう</td> </tr> <tr> <td>4 発表</td> <td>5 練習</td> <td>6 まとめ</td> </tr> </table> <p>〇〇さんが100円を持って買い物に行きました。60円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。</p> <p>(1) おつりの求め方を式を立てる。 ・<math>100 - 60 = 40</math></p> <p>(2) 言葉の式をあてはめる。 ・払ったお金－代金＝おつり</p>	1 復習	2 今日の課題	3 考えよう	4 発表	5 練習	6 まとめ	<p>☆本時の学習の流れを示すことで，見通しをもって取り組むことができるようにする。【2-(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復習問題は，本時の課題と似ている問題を出すことで，おつりをどのように求めればよいかイメージをもちやすくする。</li> <li>・児童の発言を受けながら，買い物をしたときのおつりは減法で求めることを確認する。</li> <li>・言葉の式を確認し，掲示しておくことで，本時の課題解決の手がかりとさせたい。</li> <li>・言葉の式を残し，復習の課題は外すようにする。</li> <li>・どんな品物の組み合わせがあるか確かめる。</li> <li>・課題は文章を短くし，写真で表すことで問題場面を捉えやすくしておく。</li> <li>・買い物の場面を実際に動作化して，2つまとめて買うのか，別々に買うのかを確かめ，式に生かせるようにする。</li> <li>・課題の把握を促し，集中力を持続させるために，席を離れて活動する機会を設ける。合理①-1-2</li> </ul>										
1 復習	2 今日の課題	3 考えよう																
4 発表	5 練習	6 まとめ																
10	<p>2 本時の学習課題を知る。</p> <p>500円を持っておやつを2つ買いました。</p> <table border="1" data-bbox="252 949 767 1021"> <tr> <td>チョコ 150円</td> <td>あめ 180円</td> <td>クッキー 250円</td> <td>アイス 200円</td> </tr> </table> <p>おつりはいくらでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を買うのか品物を2つ選ぶ。 チョコとあめ      チョコとクッキー あめとアイス      など</li> </ul>	チョコ 150円	あめ 180円	クッキー 250円	アイス 200円	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの品物の中から自分が欲しい品物を2つ選ばせ，課題に対する意欲をもたせたい。</li> <li>・どの組み合わせで選んでも，500円は超えないよう設定しておくようにする。</li> <li>・おつりは500円より少なくなることをおさえておく。</li> </ul>												
チョコ 150円	あめ 180円	クッキー 250円	アイス 200円															
	<p>3 解決の方法を考える。 おつりがいくらになるか答えを求める。</p> <p>例) チョコとあめの組み合わせ</p> <table border="1" data-bbox="268 1742 778 2011"> <tr> <td>ア</td> <td><math>150 + 180 = 330</math></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>500 - 330 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td><math>500 - 150 = 350</math></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>350 - 180 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td><math>500 - 150 - 180 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td><math>500 - (150 + 180) = 170</math></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td><math>500 - 330 = 170</math></td> </tr> <tr> <td>カ</td> <td><math>500 - 150 + 180 = 170</math></td> </tr> </table>	ア	$150 + 180 = 330$		$500 - 330 = 170$	イ	$500 - 150 = 350$		$350 - 180 = 170$	ウ	$500 - 150 - 180 = 170$	エ	$500 - (150 + 180) = 170$	オ	$500 - 330 = 170$	カ	$500 - 150 + 180 = 170$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式が思い浮かばない場合は，言葉の式にあてはめ，おつりを求める前に何を求めればよいか問いかける。</li> <li>・自力解決が困難な場合は，タイマーを使って時間を区切り教師にヒントをもらいながら一緒に式を導き出すようにする。</li> <li>・答えを求めることができたなら，説明をノートに書いてみるよう促す。</li> <li>・ノートに式を書くことができたなら，板書し発表の準備をする。</li> <li>・計算に時間がかかる場合は，計算機を使用してもよいこととする。合理①-1-1</li> </ul> <p>◎ヒントをもらうことでおつりを求める式を立てることができたか。(ノート…考え方)</p>
ア	$150 + 180 = 330$																	
	$500 - 330 = 170$																	
イ	$500 - 150 = 350$																	
	$350 - 180 = 170$																	
ウ	$500 - 150 - 180 = 170$																	
エ	$500 - (150 + 180) = 170$																	
オ	$500 - 330 = 170$																	
カ	$500 - 150 + 180 = 170$																	

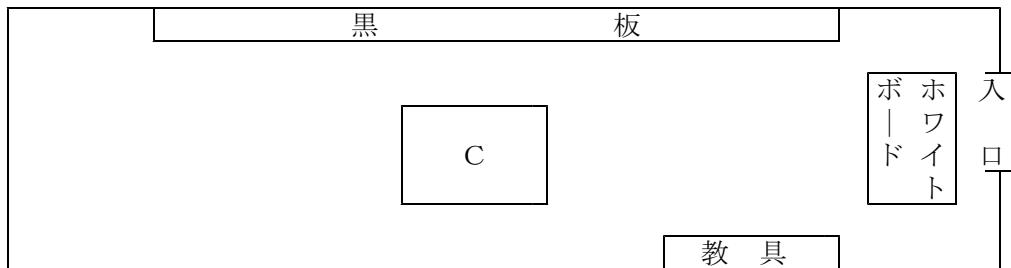


<p>10</p>	<p>4 自分の考えを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は～で考えました。</li> <li>・はじめに～をしました。</li> <li>・次に～をしました。</li> <li>・答えは～になりました。</li> </ul> </div> <p>5 解き方(式)の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アの2つの式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>150 + 180 = 330</math>  <math>500 - 330 = 170</math> </div> </li> <li>・イとウの式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>500 - 150 = 350</math>  <math>350 - 180 = 170</math>  <math>500 - 150 - 180 = 170</math> </div> </li> <li>・カの( )のない式で解いた場合           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>500 - 150 + 180 = 170</math> </div> </li> </ul>	<p>☆発表が困難なときは、「発表の仕方」を見ながらすることで、自信をもって発表できるようにする。【6-(3)】合理①-1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの方法で行っても答えを導き出せたときは賞賛する。</li> <li>・児童の考えを広げられるように、質問しながら練り上げるようにする。</li> <li>・言葉の式にあてはめ、1つの式にできないか促してみる。</li> <li>・買い物かごに2つの品物を入れたことを想起させ、( )はかごと同じようにまとめることができることに気づかせたい。</li> <li>・先に計算するときには何を使えばよいかを問いかけ、( )を使うことで1つの式になることを確認する。</li> <li>・言葉の式にあてはめることで、おつりの出し方が分かりやすいのは2つの式か1つの式かどちらかを比べさせるようにする。</li> <li>・買い物の模擬体験をとおして、アやエとの買い物の仕方の違いに気付かせたい。</li> <li>・言葉の式にあてはめられる式も考えてみるよう促す。</li> <li>・( )を使った式で解いた場合でも、あえて( )のない式を提示し、( )がないと、おつりが500円より大きくなってしまいうことに気付かせ、( )を使う意味を考えさせたい。</li> </ul> <p>☆集中して話が聞けないときは名前を呼んで目を合わせるようにする。【2-(2)】</p>
<p>5</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・( )は代金をまとめて表している。</li> <li>・( )はひとまとまりと見て先に計算する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の式にあてはめることで、代金を( )でまとめて表していることに気付かせたい。</li> <li>・今日の学習でどんなことが分かったかを児童に聞きながら学習のまとめを板書する。</li> </ul>
<p>10</p>	<p>7 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題から別の2つの品物を選んで( )を使った1つの式にして計算する。</li> <li>・<math>300 - (100 + 150) = 50</math>の問題作りをする。</li> </ul> <p>8 本時の学習を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習問題を解き、本時に学習した( )を使った式の計算の定着を図る。</li> <li>・式から問題を作ることで、( )はまとまりを意味することをつかませたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ ( )を使った式を正しく計算することができたか。(プリント…技能)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容と自分の取組について振り返りカードへ記入させることで本時を振り返る。</li> <li>・今日分かったことを言葉で伝えられるようにする。</li> <li>・今日頑張っていたことをCに言葉で伝えるようにし、次時への意欲につながるようにする。</li> </ul>

(4) 板書計画

<p>10/8</p> <p>問 1</p> <p>〇〇さんが100円を持って買い物に行きました。お店で60円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。</p> <p>② <math>100 - 60 = 40</math></p> <p>ことばの式</p> <p>持っているお金 - 代金 = おつり</p> <p>問 2</p> <p>500円を持っておやつを2つ買いました。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 10px;"> <tr><td>チョコ</td><td>あめ</td><td>クッキー</td><td>アイス</td></tr> <tr><td>150円</td><td>180円</td><td>250円</td><td>200円</td></tr> </table> <p>おつりはいくらでしょう。</p> <p>組み合わせ</p> <p>チョコとあめ クッキーとアイス</p>	チョコ	あめ	クッキー	アイス	150円	180円	250円	200円	<p>④ ・( ) は代金をまとめて表している。 ・( ) はひとまとまりと見て先に計算する。</p> <p>( ) のない式 <math>500 - 150 + 180 =</math></p> <p>⑤ Cが自分で考えた式を板書する 例) <math>500 - (150 + 180) = 170</math></p> <p>⑥ 170円</p>
チョコ	あめ	クッキー	アイス						
150円	180円	250円	200円						

(5) 座席図 (配置図)



(6) 導入, 展開, まとめの工夫

○学習スタイルのパターン化

算数科における問題解決学習の流れで、いつも大体同じパターンで学習を行っている。しかし、Cの落ち着きに欠ける実態から、同じパターンであっても視覚的に流れを示し、今どの場所の課題に取り組んでいるのかを分かるようにした。



○導入時の復習

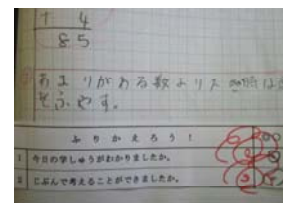
Cは前の日に学習したことも覚えていないことが多く、新しく学習することに既習事項が生かせないことが多いため、必ず復習し、本時の学習に生かせるようにした。

○体を動かす

授業に集中できる時間が短いので、授業の中に操作活動や発表、物を取ってくるなど、立ったり座ったりする時間を取り入れて授業を展開している。

○振り返り

簡単な振り返りカードを使い、本時の学習が理解できたかどうかチェックできるようにした。分かったことをCが自分の言葉で言うことで本時のねらいが達成できたか確かめる。Cが本時で頑張っていたこと伝え、達成感を味わうことができるようにした。



# 学習指導案 ④

〈対象とした児童〉 5年 性別 男 D
〈個別の指導計画から〉 ○短期目標 ・月末テストで半分以上の漢字を正確に書くことができる。 ・原稿用紙に半分（200字）程度の自由作文を書くことができる。  ○手立て ・児童の実態に合わせた学習時間を設定し、学習内容を変更・調整する。 合理①-1-2 ・視覚的な教材を用いることで、理解することができるようにする。 合理①-2-1

## 小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 国語科学習指導案

### 1 単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう

### 2 単元について

#### (1) 対象児童の国語科における実態

項目	国語への関心・意欲・態度	能力	言語についての知識・理解・技能
A 話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味がある内容や自分で体験したことなどについては、自分から話したり聞いたりしようとする。</li> <li>相手に分かるように話そうとしたり、大事なことを落とさないように聞こうとしたりする態度はあまり見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事柄については興味をもって聞いたり、質問をすれば自分から話したりすることができる。</li> <li>視覚優位のために耳からの情報が入らず、大事なことを聞きもらすことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手やその場の状況に応じて適切な音量や速さ、ていねいな言葉で話することができる。</li> <li>文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり話したりすることが難しい。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書を写したり、教科書を視写したりするのは、時間はかかるがていねいに書こうとする。</li> <li>日記や作文などは、写真や絵などの手立てがあると自分から書こうとするが、書くように促されただけでは活動が滞ってしまうことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語の関係を意識しながら短い文章を書くことができる。</li> <li>書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、書く順序を考えたりして文章を書くことは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の大きさや形を整えて書くことができ、下学年の漢字は約7割、当該学年の漢字は約半分くらい書くことができる。</li> <li>会話文の書き方や改行の仕方を理解して文章を書くことは難しい。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の時間を好み、課題が早く終わったときには進んで本を読もうとすることが多い。</li> <li>興味が偏っていたり、絵ばかり追っていたりする傾向がみられ、目的に応じて読もうとする態度は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書はすらすら音読できる。やさしい読み物であればだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることはできる。</li> <li>物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方情景などを想像しながら読むことは苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字を読むことができる。</li> <li>語句の意味や言葉の使い方を理解することが難しい。</li> </ul>

#### (2) 単元観

教材「注文の多い料理店」は、中心人物である二人の紳士が「現実の世界」から「ふしぎな世界」へ行き、再び「現実の世界」に戻るという流れになっており、読み手を不思議な世界へと誘う効果がある。Dは長編の物語は内容を読み取ることに難しさを感じ、積極的に読もうとはしない。そこで、本教材で登場する紳士の人柄や様子を表す言葉の意味、表現等をおさえながら、紳士たちの言動を具体的にイメージすることで、人物の気持ちをとらえることができ、物語の内容を理解することができるようになるのではないかと考えた。また、二人の紳士が、山猫の毘にはまっていくスリル感を味わわせることで、物語文への興味・関心を高めたい。長編の物語の内容を読み取ることで、児童の読書生活が豊かに広がるのではないかと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

物語文に苦手意識をもつDの実態に合わせ、取扱い時数を通常より多めにとって丁寧に指導に当たることにした。1学期の物語教材で、「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの構成をとらえる学習を経験したが、内容を読み取ることに難しさが見られた。そこで、6つの場面にして少ない段落での構成にすることで、読み取りが深まるのではないかと考えた。授業や家庭学習において音読を繰り返すことでも、あらすじや言葉の意味などの理解を高めることができるようにした。そして、文中の難しい語句や表現されている意味についてはさらに解説をしたり、イメージができるように視覚教材や動作化を取り入れて理解を促したりしたい。Dは書く活動に時間がかかるので、ワークシートは、書き込む部分を調整し、できるだけ児童の苦手意識をもたせないように配慮した。また、宮沢賢治作品にふれる時間を設け、物語の楽しさが分かり、読書への関心をもてるようにしたい。

3 児童の実態と個別目標

〈单元における実態〉

- やさしい物語文のだいたいの内容をとらえたり、説明文に書かれた事実を読み取ったりすることができる。
- 文と文の意味のつながりを意識しながら聞いたり、話したりすることが難しい。
- 長編の物語では、登場人物の相互関係や場面の描写を読み取ることが難しい。

〈单元における目標〉

单元の目標 (当該学年の目標・当該学年の目標を一部変更・下学年教材)  
 児童の実態に応じた目標を設定する。合理①-1-2

さわやか学級における単元の目標	通常学級における単元の目標
○ 物語の楽しさがわかり、宮沢賢治の他の童話を読もうとする。 (国語への関心・意欲・態度)	○ 物語に興味をもって、おもしろさの工夫を探しながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
○ 登場人物の言動を具体的にイメージし、その時の気持ちを読み取ることができる。 (読むこと)	○ 構成や文章表現の工夫などから、物語のおもしろさを読み取ることができる。 (読むこと)
○ 視覚的教材や動作化を通して、文中の語句や表現について、意味を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○ 独特な言葉の使い方や、表現上の工夫をとらえることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画と評価 (13時間扱い) 児童の実態に合わせ学習時間と学習内容を変更する。合理①-1-2

- 第1次 読んでみよう・調べてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第2次 あらすじをつかもう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第3次 場面ごとに読み取ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・7時間
- 第4次 宮沢賢治の作品を読んでみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

次	さわやか学級での単元計画 (13時間扱い)	通常学級で実施する際の単元計画 (9時間扱い)
1	1 音読の練習をする。② 2 むずかしい言葉の意味を確かめる。	1 物語を読んで初発の感想を交流する。①
2	3 登場人物や背景を確かめながら、簡単な感想をもつ。 4 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認、だいたいのあらすじをつかむ。②	2 「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの部分に分けて物語の構成をとらえる。② 3 「現実の世界」と「ふしぎな世界」に当たる部分を確認する。
3	5 第1場面を読んで、山奥で道に迷う二人の紳士の様子を読み取る。 6 第2場面を読んで、西洋料理店を見つけて喜ぶ二人の様子を読み取る。 7・8 第3場面を読んで、戸に書かれた注文に応える二人の様子や気持ちを読み取る。⑦ 9 第4場面を読んで、料理店から逃げ出そうとする二人の様子や気持ちを読み取る。(本時)	4 戸に書かれている言葉や二人の紳士の心情について読み取る。 5 物語全体を通して二人の紳士の変化を読み取る。③ 6 表現の工夫やおもしろさをとらえる。



次	さわやか学級での単元計画 (13時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (9時間扱い)
	10 第5場面を読んで、泣くこと以外何もできない二人の様子や気持ちを読み取る。 11 第6場面を読んで、助かるが紙くずのようになった顔が元に戻らない二人の様子や気持ちを読み取る。	
4	12・13 宮沢賢治の他の作品を読む。 ②	7 表現の工夫やおもしろさを解説ノートにまとめる計画を立てる。 8 解説ノートを書く。 ③ 9 解説ノートを交換して読み合い、感想を交流する。

## 5 本時の指導

### (1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
D	○物語文は理解しにくく、登場人物の心情や考え方、情景などを想像することは苦手である。	○二人の紳士の様子や会話文から、逃げ出したい気持ちを想像し、吹き出しに書くことができる。

### (2) 準備・資料

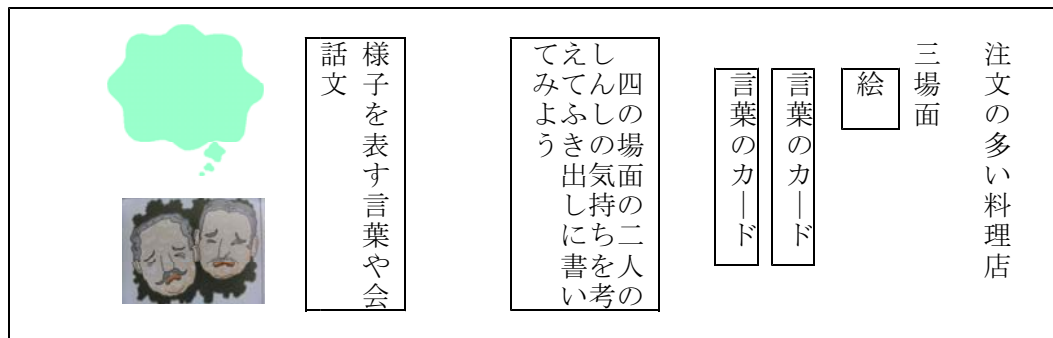
挿絵・言葉のカード、ワークシート、スリット、表情カード、振り返りカード

### (3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
7	1 本時の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習予定表を活用することで、見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。 合理①-2-2</li> <li>挿絵や戸に書かれている言葉のカードを話の順に並び替えるよう促すことで、簡単に前時のあらすじをおさえることができるようにする。</li> <li>声に出して発表するように促すことで、本時の学習課題を意識することができるようにする。</li> </ul>
10	2 第3場面（前時）のあらすじを振り返る。 3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">4の場面の二人のしんしの気持ちを考えて、ふき出しに書いてみよう。</div>	
25	4 二人の紳士の様子や気持ちを読み取る。 (1) 二人が、「おかしい」と気づいたところがわかる文章に線を引く。 ・今度という今度は、二人ともぎょっとして、～見合わせました。 ・「どうもおかしいぜ。」 ・「ぼくもおかしいと思う。」 (2) 「注文の多い料理店」とは本当はどんな店なのか、教科書に線を引く、ワークシートに書く。 ・西洋料理を来た人に食べさせるのではなくて、来た人を西洋料理にして食べてしまう店	

2	(3) 「注文の多い料理店」がどんな店なのかわかったときの二人の様子に線を引き、ワークシートに書く。  ・がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文に注目するように促す言葉かけをすることで、怖がっている様子に気付くことができるようにする。</li> <li>・同じ文が表れる部分を確認することで、一人一人に二度書いていることに気付くことができるようにする。</li> <li>・視写する場所以外をスリットを入れた厚紙で隠し、集中して書けるようにする。</li> <li>・視点が定まらないので教科書の視写する場所を明示する。 合理①-2-1</li> <li>・紳士たちの気持ちに気付くことが難しいときには、表情カードを活用し、気持ちをイメージしやすいようにする。</li> <li>・カードを使って視覚的に確認することができるようにする。 合理①-2-1</li> </ul>
	5 本時の学習を振り返る。 振り返りカードに自分のがんばりを記録する。	
1	6 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードは、チェックでも評価できる簡単なものにする。</li> <li>・1時間のがんばりを賞賛し、次時の意欲につながるようにする。</li> </ul>

(4) 板書計画



(5) 座席図 (配置図)



(6) 教材・教具の工夫について

挿絵・言葉のカード	ワークシート	スリット	表情カード	振り返りカード
導入時に、話の順に並び替えることで、前時のあらすじを確認することができる。	授業の流れにそったワークシートに記入することで、二人の紳士の様子や気持ちを読み取ることができる。	教科書の文章を写す際に周りの文章が刺激にならないよう隠して、視写することができる。	紳士たちの気持ちに気付けない時に使用し、気持ちをふき出しに書けるようにする。	授業の終わりの振り返りで使用し、何を学習したかを自己評価できるようにする。

# 学習指導案 ⑤

<p>&lt;対象とした生徒&gt; 2年 性別 男 E</p> <p>&lt;個別の指導計画から&gt;</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次関数の関係を、表やグラフを用いて表すことができる。</li> <li>・1次関数に関わる数学的用語を理解することができる。</li> <li>・ゲームなどの活動を通して、他者とのやりとりを継続することができる。【3-(1)】</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの作図に関しては、模造紙サイズの座標平面図や磁石つきものさしを使用することで、正確な直線が引けるようにする。合理①-2-1</li> <li>・数学的用語の理解に関しては、語句カードの操作を取り入れることで、より理解を深める。合理①-2-1</li> <li>・座標ビンゴゲームを取り入れることで、Eの興味関心を高め、友達とのやりとりを継続しながら学習が進められるようにする。合理①-2-2</li> </ul>
--

## 中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 数学科学習指導案

### 1 単元名 1次関数

### 2 単元について

#### (1) 対象生徒の単元における実態

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、比例の関数に興味をもち、表を用いて考えようとする。</li> <li>・座標、関数、比例などの数学的用語に興味を示し、意味を理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係を表にし、xの値が1ずつ増加するときのyの値の変化を見いだすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の関係を、表やグラフなどに表すことができる。</li> <li>・座標平面図に、座標をプロットし、平面上に点を取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の特徴を理解している。</li> <li>・伴って変わる二つの数量の関係を理解している。</li> </ul>

#### (2) 単元観

この単元では、身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見つけて、それらの変化や対応を調べることを通して、比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし、グラフに表現する力を培うことを目標としている。第1学年では、関数関係にある二つの数量について、一方の値を決めれば、他方の値がただ一つ決まるような関係を学習している。このような関係は、日常生活において数量を関係的に探求する基礎となるものである。例えば、分速2kmで走っている電車が5分後にはどこにいるのか、または、座標の関連から新幹線の座席が「5D」など、具体的に事象を考察することを通して、関数関係を見だし表現し考察する能力を身に付けることができる。第2学年では、これらの学習の上に立って、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見だし表現し考察する能力を身に付けることができる。

#### (3) 指導にあたって

Eは、興味・関心の高い活動には、熱中し取り組むことができる。数の操作には興味・関心が高く、加法、減法、乗法の計算が得意で、暗算で正確な答えを出すことができる。しかし、興味のない活動の際には退室してトイレに行くことや眠そうな素振りを見せることが多い。そのため、集中力が持続できるような支援が必要である。トランプやUNO、ビンゴのようなゲーム的活動が好きであるため、導入や展開には、興味をもてるようにこれらの操作的活動を取り入れたい。

導入で行う数学的用語の説明の時には、黒板に重要語句カードを貼ったり、黒板に答えを書いたりするなど、身体を動かす活動を取り入れることで、注意を喚起し、意欲を高めて学習に参加できるようにする。

展開では、既習の比例（1年）時に座標の意味理解を深めるために、「座標オセロゲーム」を取り入れた。今回は、座標の意味・理解を深めるために、「座標ビンゴゲーム」を取り入れたい。Eは、座標平面上のオセロゲームには、強い関心を示し、ゲームのルールに沿って楽しく参加することで、座標をプロットする技能を身に付けることができた。さらに、確実に身に付くように、「座標ビンゴゲーム」に取り組ませたい。次に、Eは、机上で学習することに抵抗感があるので、グラフをかく活動でも、黒板に座標平面図を提示し、この表に座標をプロットさせて、座標の点を、紙テープでつなぐ活動を取り入れることで、集中して授業に参加できるようにする。また、この課題解決の方法については、発表をさせたい。

この活動を通して、自立活動の【3 人間関係の形成(1)他者とのかかわりの基礎に関すること】や【6 コミュニケーション(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。】の内容に関しても合わせて指導する。他者とのかかわりをスムーズにするために、言葉だけではなく、視覚的に分かりやすい座標ヒントカードやゲームのルールカードを提示し、自分の気持ちや意思を素直に表現し、友達と楽しくかかわれるように指導したい。また、自立活動の【2 心理的な安定(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。】の内容に関して、学習課題への自力解決を通して自信を深めて、意欲的に学習することができるように指導したい。

まとめの練習問題では、黒板に座標平面図を提示し、式と表を見ながら、座標をプロットし、紙テープとペンで座標の点をつなげることで、グラフを完成させて達成感を味わうことができるようにする。問題は1問ずつ提示し、できたら賞賛し励まし、次の問題を提示し、取り組ませたい。また、練習問題のプリントは机上用として、穴埋め式でまとめるプリントも準備することで数学的用語を再確認することができるようにしたい。

### 3 単元の目標（当該学年の目標を一部変更） 合理①-1-2

- (1) 日常生活において、具体的な事象の中から関数関係にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、事象の中にはいろいろな関数があることを知ろうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 具体的な事象のなかの1次関数の関係にある数量に着目し、1次関数の特徴を考えることができる。 (数学的な見方や考え方)
- (3) 1次関数の関係を、表やグラフを用いて、的確に表す技能を身に付けることができる。 (数学的な技能)
- (4) 「傾き」「切片」の数学的用語を理解し、1次関数のグラフをかくことができる。 (数量・図形などについての知識・理解)
- (5) ゲームなどの活動を通して、友達とのやりとりを継続することができる。 (自立活動)

### 4 単元の指導計画 合理①-1-2

次	特別支援学級での単元計画 (11時間扱い)	通常の学級で実施する際の単元計画 (11時間扱い)
1	1 学習の見通しをもつ	① 1 学習の見通しをもつ ①
2	2 関数 具体的な事象の中にいろいろな関数があることを知る。	2 関数 関数の意味を理解し、比例でも反比例でもない関数があることを知る。
	3 1次関数 比例の関係を含む新しい関数について調べる。	3 1次関数 yはxの1次関数である。 ④
	4 1次関数 yはxの1次関数である。	4 1次関数の値の変化の様子 1次関数において、xの値の変化にともなって、対応するyの値がどのように変化するかを理解する。 ④
	5 1次関数の値の変化の様子 y = 2x y = 2x + 5 xとyの関係を表に表す。	5 変化の割合 変化の割合の意味を知る。



3	6	1次関数のグラフ(1) 1次関数のグラフについて調べる。	④	6	1次関数のグラフ(1) 1次関数と比例のグラフの関係, 切片を理解する。	⑤
	7	1次関数のグラフ(2) 「傾き」「切片」の数学的用語を理解する。		7	1次関数のグラフ(2) グラフの直線の傾き, 直線の式を知る。	
	8	右上がりの1次関数のグラフのかき方 2点ABを通る直線をかく。		8	1次関数のグラフのかき方	
	9	右下がりの1次関数のグラフのかき方 2点ABを通る直線をかく。		9 10	1次関数の式の求め方 1次関数の表・式・グラフ	
4	10	練習問題プリント	②	11	練習問題	①
	11	練習問題プリント, まとめ				

### 5 指導計画と評価(11時間扱い)

第1次 学習の見通しをもつ . . . . . 1時間

第2次 比例の関係を含む新しい関数について調べよう。 . . . . 4時間

第3次 1次関数のグラフをかこう。 . . . . 4時間

時	主な学習内容・活動	評価
1	1次関数(1) ・1次関数のグラフについて調べよう。	○1次関数のグラフと比例のグラフとの関係を調べることができたか。
2	1次関数(2) ・1次関数のグラフから「切片」「傾き」の数学的用語を知ろう。	○1次関数のグラフから, 「切片」「傾き」の数学的用語を理解することができたか。
3 (本時)	1次関数のグラフをかこう。(1) ・右上がりの1次関数のグラフのかき方を考えよう。	○右上がりの1次関数のグラフをかくことができたか。
4	1次関数のグラフをかこう。(2) ・右下がりの1次関数のグラフのかき方を考えよう。	○右下がりの1次関数のグラフをかくことができたか。

第4次 まとめ . . . . . 2時間

### 6 本時の指導

#### (1) 目標

- ・グラフ上にある点を紙テープでつなぐことでグラフが右上がりの直線になることを理解することができる。
- ・傾きと切片に着目しながら2点ABをプロットし, 右上がりの直線をかくことができる。
- ・座標ビンゴゲームで, 最後まで友達とのやりとりを継続しながら活動することができる。

#### (2) 準備・資料

ビンゴ用座標平面図, 掲示用座標平面図, 紙テープ, シール, さいころ, ビンゴ用こま, 黒板用ものさし  
課題プリント

#### (3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価 ☆自立活動に関する支援)
10	1 本時の学習内容を知る。 1次関数のグラフをかこう。 ① 前時の学習内容を確認する。 ・xとyの関係を, 表やグラフから考える。	☆興味・関心の高いアニメのカードを黒板に提示することで, 黒板に注目させて, 学習に参加できるようにする。 【2-(3)】

15	<p> <math>y = 2x</math>,  <math>y = 2x + 5</math> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>y = 2x</math>の表をみて, <math>(x, y)</math>の座標を丸いシールで貼る。</li> <li>• シールを直線でつなぐ。</li> <li>• グラフに「傾き」, 「切片」のカードを貼る。</li> </ul> <p>②座標ビンゴゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 二人組で座標ビンゴゲームを行う。</li> <li>• 順番はじゃんけんで決める。</li> <li>• 二つのさいころを同時に投げる。</li> <li>• 白いさいころの目が <math>x</math>座標, 黒いさいころの目が <math>y</math>座標とし, <math>(x, y)</math>の座標にこまを置く。</li> <li>• 横並び, 縦並びのいずれかが, こまが4個並べばビンゴになる。</li> <li>• さいころで「ラッキー」が出た場合には, こまを自由に置くことができる。</li> </ul> <p>2 1次関数 <math>y = 2x + 5</math>のグラフをかく。</p> <p>①表を見て, グラフをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>y = 2x + 5</math>の表に数字を入れる。</li> <li>• 表を見ながら, 座標にシールを貼る。</li> <li>• シールの点を紙テープでつなぐ。</li> </ul> <p>②傾きと切片に着目してグラフをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 切片は+5, 点A <math>(0, 5)</math>の座標にシールを貼る。</li> <li>• 傾きは2, 点Aから右に1, 上に2進んだ点B <math>(1, 7)</math>の座標にシールを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 興味のあるカードを関連させて, 興味・関心がもてるように学習活動の導入を工夫する。合理①-2-3</li> <li>• <math>y = 2x + 5</math>のグラフの座標平面図を掲示する。</li> <li>• 磁石つきものさしを使用することで, ずれずに直線が引けるようにし, 落ち着いて取り組めるようにする。合理①-2-1</li> <li>• 語句カードで視覚的に数学的用語を確認できるようにする。</li> <li>• 座標ビンゴゲームのルールは, 黒板に提示し視覚的に分かりやすいようにし, 安心して取り組めるようにする。</li> <li>• 「座標ヒントカード」を提示し, 確認しながら座標の点をプロットできるようにする。合理①-2-1</li> </ul> <div data-bbox="836 721 1350 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     座標ヒントカード: (<math>x</math>座標 <math>y</math>座標)   </div> <div data-bbox="740 837 1437 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ◎座標ビンゴゲームで, 最後まで友達とのやりとりを継続しながら活動することができたか。(観察)   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 注意が持続できるように, 黒板の座標平面図や表を提示して数字を記入する活動ができるようにする。</li> <li>• 計算方法が分からない時には, ヒントカードを提示する。</li> </ul> <div data-bbox="895 1267 1294 1368" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     できるよ!! ヒントカード  <math>y = 2 \times x + 5</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 黒板にまとめた表から, <math>x, y</math>座標の位置にシールを貼るよう助言する。</li> </ul> <div data-bbox="740 1485 1437 1630" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ☆座標の点はシールを貼ることで, 最後まで集中して9個の点をプロットすることができるようにする。  <span style="float: right;">【2-(3)】</span> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙テープを使用し, グラフが直線になることを視覚的な情報で示す。</li> </ul> <div data-bbox="740 1709 1437 1807" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">     ◎グラフが右上がりの直線になることを理解することができたか。(発表)   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁石つきものさしを使用することで, ずれずに直線が引けるようにし, 落ち着いて取り組めるようにする。合理①-2-1</li> <li>• 切片(点A)のシールと傾き(点B)のシールの2つの座標の点を結べば, 右上がりの直線のグラフがかけられることを助言する。</li> </ul>
----	--	---

	<p>貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点A Bを通る直線をかく。</li> </ul> <p>③課題解決の方法について発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切片と傾きの理解には、ヒントカードを提示する。</li> </ul> <div data-bbox="754 280 1433 492" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グラフがかけるよ!! ヒントカード          切片の座標点Aは、(0, □)          傾きが□の時は、「□」を分数にして、○分の□。          右に○進み、上に△進んだ点。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフがかけたことを賞賛することで、自信をもって自分の考えを発表できるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="754 622 1433 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎切片と傾きに注目して、点A, 点Bのシールを直線で結ぶことができたか。(観察, 座標平面上)</p> </div>
13	<p>3 練習問題を解く。</p> <p><math>y = 2x + 1</math>  <math>y = 2x - 1</math>  <math>y = 3x + 1</math>  <math>y = 3x - 3</math>  <math>y = 2x + 4</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題プリントは1枚に1問とする。合理①-3-1</li> <li>ヒントカードを提示することで。グラフのかきかたのヒントカードを活用しながら、問題に取り組めるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="882 913 1300 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グラフに挑戦!! ヒントカード</p> <math display="block">y = \textcircled{a}x + \textcircled{b}</math> <p style="text-align: center;">↓                    ↓ 傾き                    切片</p> </div> <div data-bbox="754 1187 1433 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆黒板に掲示した座標平面図にグラフをかかせることで、集中して練習問題に取り組めるようにする。【2-(3)】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフがかけたことを賞賛する。1問ごとに励ましの言葉かけをする。</li> </ul> <div data-bbox="754 1388 1433 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎5問中3問の右上がりの直線をかくことができたか。(観察, 黒板の座標平面図のグラフ)</p> </div>
10	<p>4 本時のまとめをする。</p> <div data-bbox="256 1585 715 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1次関数のグラフは右上がりの直線である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板にまとめの課題を掲示し、右と直線のカードを貼る活動を取り入れることで、最後まで取り組めるようにする。 合理①-2-1</li> <li>まとめのプリントも用意しておくことで、本人の意欲が高い場合には配付して、取り組めるようにする。</li> </ul>
2	<p>5 次時の学習の確認をする。</p>	

(4) 板書計画

1次関数のグラフをかこう。

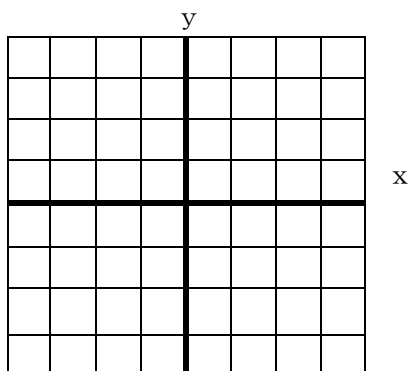
$$y = 2x$$

x	..	-2	-1	0	1	2	..
y	.						

$$y = 2x + 5 \text{ は } 2 \times x + 5 \text{ (ヒントカード)}$$

x	..	-2	-1	0	1	2	..
y	.						

$y = 2x$      $y = 2x + 5$  のグラフ



「切片」「傾き」  
座標ビンゴゲーム

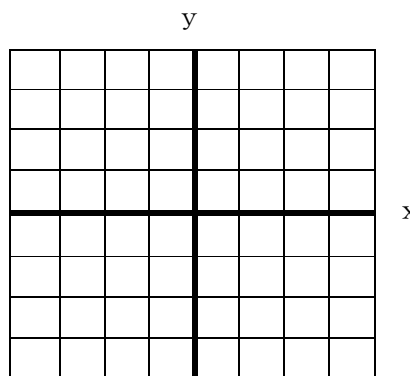
座標ビンゴゲームのルール

$y = 2x + 5$  のグラフのかき方

グラフがかけよ！**ヒントカード**

「切片」「傾き」に着目してグラフをかく。

練習問題     $y = 2x + 1$     グラフに挑戦！！**ヒントカード**



まとめ

1次関数のグラフは右上がりの直線です。

(5) 教材・教具

黒板掲示用座標平面図、 数学重要語句カード	座標ビンゴゲーム	座標ヒントカード	グラフ用座標平面図 シール、磁石つきものさし

# 学習指導案 ⑥

<p>〈対象とした生徒〉 2年 性別 男 F</p> <p>〈個別の指導計画から〉</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始までに、授業の準備をすることができる。【2-(1)】</li> <li>・個別指導では、決められた時間内は集中して活動に参加することができる。</li> <li>・複数のやり方で実施し、自分のやりやすいやり方を選択して、作品を仕上げることができる【2-(3)】</li> <li>・自分から「今はイライラして授業ができない」と教員に伝えて、別室で気持ちを落ち着かせてから、再び授業に参加することができる。</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や教室の変更がある時は、決定した日や当日の朝には伝える。合理①-2-3</li> <li>・授業準備の際に視覚情報として、準備を始める目安の時間や準備物を文字や図で示す。</li> <li>・集中して活動できる時間（10分）を目安として活動を区切る。また、「〇時*分～〇時*分」までと活動の時間を表示する。合理①-1-1</li> <li>・事前に授業の中でつまずきそうな活動を想定して、回避方法として2～3通りの別のやり方を用意しておき、本人の手が進まないときは、試しに他のやり方で実施し、やりやすいやり方を選択させる。合理①-1-1</li> <li>・表情の変化を注意して観察し、不安な表情の時は、気持ちを察していることが伝わるようにさりげなく言葉かけを行い、伝えるタイミングを設ける。</li> </ul>
<p>〈対象とした生徒〉 2年 性別 男 G</p> <p>〈個別の指導計画から〉</p> <p>○短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた時間内は、課題に取り組むことができる。</li> <li>・課題が難しいときは、自分から「～が難しい」と教員や友人に伝えることができる。【3-(3)】</li> </ul> <p>○手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に「・・・から・・・まで」や「〇時*分まで」と視覚情報として提示する。合理①-2-3</li> <li>・設定した範囲や時間は、本人が少しがんばればやりきれる量、集中できる時間とする。合理①-1-2</li> <li>・課題を複数用意する。自分でできるレベルを考えさせ、次の課題を選択できるようにする。</li> <li>・授業中の活動で本人がつまずきそうな点を事前にチェックする。活動が始まる前に、やり方は複数あることに気付けるように黒板に提示する。合理①-1-1</li> </ul>

## 中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 美術科学習指導案

1 題材名 あさがおのタペストリを作ろう

2 題材について

(1) 対象生徒の題材における実態

本学級は、3年生の男子1名、女子1名、2年生の男子4名の計6名の生徒が在籍しており、コミュニケーションが苦手な生徒が多い。今回は、2年生のFとGの2名が授業に参加する。Fは自閉症やADHDの傾向のある生徒で、手先の不器用さから水彩絵の具を用いた絵画制作では、色作りや細部の染色が苦手である。そのため作品作りでは失敗が多く、途中であきらめて活動を放棄してしまうことがある。このような行動は、教員の目を引くための不適切な行動ととらえられる。Gは家庭環境の影響から情緒不安定になる傾向はあるものの、気持ちが安定している時は、自分のペースで努力して活動に参加することができる。見通しがもてる活動には意欲的に参加し、作品づくりに意欲的に取り組むことができる。しかし、完成作品のイメージがつかめなかったり、素材や材料が多くなると工夫しすぎて作品が台無しになったりすることがある。そのための手立てとして、失敗しにくい状況を設定し、成功体験の積み上げが重要であると考えた。この2名の生徒は小学校からの友人関係であるが、お互いをライバル視しているところがあり、相手の失敗を指摘したり、相手より先に教員の目を引く行動をとろうとしたりして、トラブルになることが多い。2名は自己肯定感が低く、物事をやり遂げる経験が少ない。そこで、「自分でできた。」という自信につなげる教育活動が必要である。

(2) 題材観

本題材のあさがおのタペストリ作りは、彩色等が失敗となっても、色のにじみ具合で本物に近い朝顔が表現できる。水彩絵の具や水性サインペンを用いた色の組合せや、グラデーションの表現を通して自分のイメージの作品を作り上げる楽しさと達成感を味わわせたい。

(3) 指導にあたって

具体的な活動の流れとしては、①うちわの紙をはがす、②紙を切る、③彩色する、④形



作る、⑤うちわに貼るというように、工程は多いものの、一つ一つの作業は簡単なものが多く、多少の失敗があっても、できあがりの見栄えがし、かつその失敗もデザインの一つとして見る事ができる。そこで、①～⑤の活動を通して作品を完成させる過程で、達成感を味わえるようにしたいと考えた。事前に活動の中でつまずきそうなところを想定して、回避方法として2～3通りの別のやり方を用意しておき、試しに他のやり方で行ってみてやりやすいやり方を選ぶことができるようにすることで、成功体験を積み上げていきたい。

3 単元の目標

- 色を組み合わせながら、ペーパークロマトグラフィーの効果を生かした彩色を味わうことができる。
- 絵の具と水性サインペンで塗りやすさを試して、自分のやりやすい方を選択することができる。合理①-2-1
- できないこと、難しいことを自分から伝えることができる。

4 生徒の実態と個別目標

生徒名	題材における実態	題材における目標
F 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定の変更に弱くパニックを起こし、やらないことへの言い訳を主張することがある。</li> <li>・苦手なことにとりかかるまでに時間がかかるが、活動の見通しがもてると参加することができる。</li> <li>・活動に集中できる時とできない時のムラがある。研究授業など、参観者がいるときはがんばろうとする。</li> <li>・手先が不器用なため制作活動では、失敗が目立つが、上手く作りたい気持ちは強い。</li> <li>・Gにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に予定変更を伝え、授業開始までに、準備をすることができる。【2-(1)】</li> <li>○複数のやり方を試して、自分のやりやすいやり方を選ぶことができる。【3-(3)】</li> <li>○難しくできなくなったときにイライラしていることを自分から伝えることができる。【2-(2)】</li> </ul>
G 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立するために、自分でできることを増やしたいという意欲は高い。</li> <li>・絵の具の扱いなど、苦手なことでもコツコツとがんばろうとする。</li> <li>・Fにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できないこと、難しいときにやり方のヒントを教員に求めることができる。【3-(3)】</li> </ul>

5 指導計画（4時間取り扱い）

第1次 あさがおの花を作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

時	学習内容・活動	評価
1	①オリエンテーション ②制作する。 ・コーヒーフィルターに型どりを する。 ・ハサミで切る。 ・絵の具で彩色する。 ③片付け・学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハサミなどの道具や材料を、安全かつ適切に使用することができる。</li> <li>○苦手な活動でも、決められた時間（10分）はその活動に取り組むことができる。【2-(1)】</li> </ul>
2 (本時)	①学習課題を確認する。 ②彩色の方法を選択し制作する。 ・絵の具 ・水性サインペン 合理①-2-1 ③片付け・学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵の具と水性サインペンを両方試すことで、自分が使いやすい方を選び、彩色することができる。【2-(1)】</li> <li>○彩色が上手くできないときや色の組合せで迷っているとき、自分から「～が難しい」と伝え、教員のヒントを手掛りに活動を続けることができる。【3-(3)】</li> </ul>

第2次 タペストリの準備をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第3次 花を貼り付けて、うちわを完成させよう・・・・・・・・・・1時間

6 本時の指導

(1) 生徒の実態と個別目標

生徒名	対象生徒の実態	本時の個別目標
F 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることの順番がわかると、一人で確認しながら取り組むことができる。</li> <li>・彩色、裁断等は苦手であり、取り組むまでに時間がかかる。</li> <li>・絵の具の扱いが苦手で、失敗すると集中力が切れてしまい、活動をやめてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水性サインペンを使うと彩色が簡単であることに気付き、水性サインペンで彩色することができる。【2-(1)】</li> <li>○失敗したときに、活動をやめずに作品づくりに取り組むことができる。【2-(2)】</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に集中できる時とできない時のムラがあるが、参観者等がいるときは、できるところを見せたがる。</li> <li>制作活動で順調にできていると、本人なりの工夫をすることができる。</li> <li>Gにライバル意識をもっている。</li> </ul>	
G 2年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具の扱いなど、苦手なことでもコツコツとがんばろうとする。</li> <li>失敗を繰り返すと活動を放棄してしまう。</li> <li>制作活動にこり出すと集中して取り組むことができる。</li> <li>Fにライバル意識をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から「～が難しい」と伝え、教員からのヒントを手掛かりに、できる方法を見いだすことができる。【3-(3)】</li> <li>○水性サインペンを使うと彩色が簡単であることに気付き、水性サインペンで彩色することができる。【2-(1)】</li> </ul>

(2) 準備物等

- 教員： ① 掲示物（絵の具）  
 ② 掲示物（水性サインペン） 合理①-2-1 } ①～③は黒板に掲示  
 ③ タイマー  
 ④ 絵の具  
 ⑤ 水性サインペン  
 ⑥ 紙コップ  
 ⑦ ペットボトル（水） } ④～⑦は生徒が制作する場面で使用

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教員の指導・支援と評価 (◎評価)
10	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">あさがおのタペストリを作ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を板書し、前に行った絵の具を用いた彩色の仕方を、掲示物で確認する。（前時の活動が思い出しやすい発問）</li> <li>絵の具での彩色以外に、今回は水性サインペンを使ったペーパークロマトグラフィーの技法できるように写真を掲示する。合理 ①-2-1</li> </ul>
30	2 創作活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>やりやすい方を選び、作品を作る</li> <li>目標10枚作る</li> </ul> ◇絵の具  ◇水性サインペン 合理①-2-1 	<ul style="list-style-type: none"> <li>彩色の苦手意識をなくすため、水性サインペンでの彩色を体験してみることを勧める。水性サインペンを使った作品を提示し、他の方法があることに気付くように発問する。（やりやすさの違いに気付かせる発問）</li> <li>作業に集中できるように、言葉かけは控えて見守る。</li> <li>Fは飽きてくるとGに話しかけたり、独り言を言ったりするので、作業が進まない時は机の向きを変えて個別指導する。合理 ①-2-3</li> <li>表情や活動の様子を観察し、意欲が高まっているときは、大いに賞賛する。</li> <li>Fは、失敗するとパニックを起こすことが考えられるため、段階的に作業を進めるよう助言する。活動一つ一つに具体的な賞賛を入れ安心感を与える。合理①-2-3            （どこを注意して行ったのか本人が自分の言葉で伝えられるよう発問から引き出す）</li> <li>彩色が失敗した作品でも、丸めてつぼみのように形作ることができるので、「安心して制作しよう」と言葉かけをする。合理①-2-3</li> <li>教員がわざと失敗を示し、失敗作でつぼみを作って見せる。合理①-1-1</li> <li>お互いを気遣うような発言をした時には、その気持ちをくみ取り、感謝の気持ちを伝える。お互いに言い合いになってしまった時は、作業を中断し、気持ちが落ち着くようにFにはタオルをかぶることも許可する。合理①-2-3</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           ◎F：水性サインペンを使うと彩色することが簡単であることに気付き水性サインペンを選びで彩色することができたか。            （観察・発表）         </div>

10	3	片付けをする。	<p>◎G：自分から「～が難しい」と伝え、教員からのヒントを手掛かりに、できる方法を見いだすことができたか。 (観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守りつつ、片付けが不十分な場合は助言する。</li> </ul>
	4	学習のまとめをする。 ・自分と友達があんばったことを発表する。 ・次時の活動を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信につながるような言葉かけをして大いに賞賛する。</li> <li>お互いのがんばりに気がついたことを賞賛する。</li> <li>がんばったことに気づきにくいときには、手順表やできた作品を指で指して、具体的に何について発表するのかヒントを出して発表しやすくする。</li> <li>次時の活動を説明する。うちわの形を見せて次時の活動のイメージをもたせる。完成間近に気付かせ、興味を持続を図る。 (次時の活動イメージを発表させる)</li> </ul>

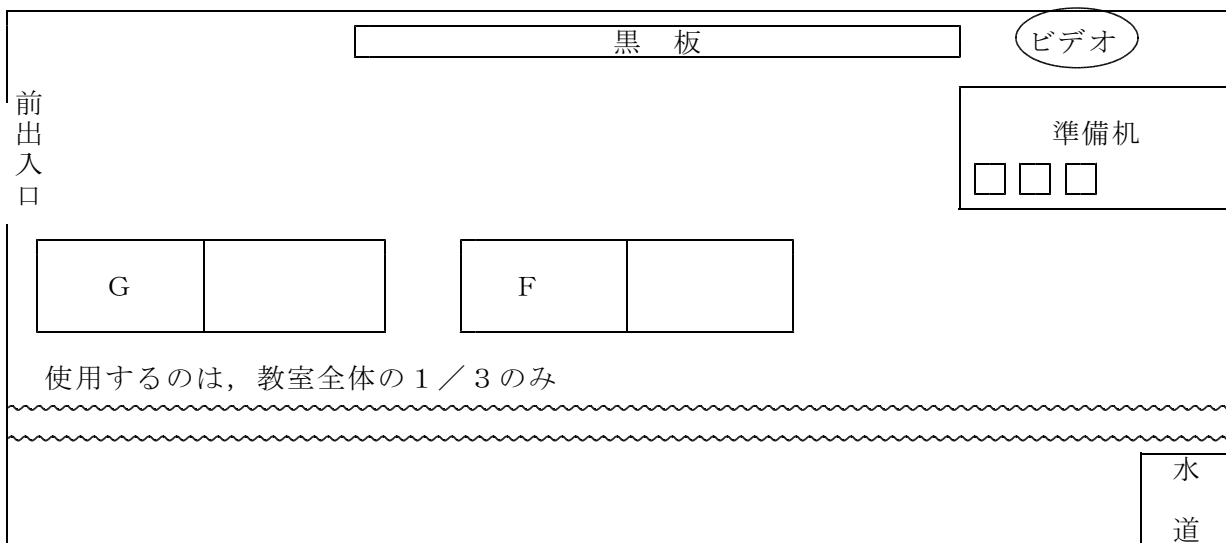
(4) 板書，提示計画

合理 ①-2-2



(5) 場の設定 美術室（座席配置図，環境図等）

合理 ①-1-2



# 学習指導案 ⑦

〈対象とした生徒〉	2年 性別 男 H
〈個別の指導計画から〉	
○短期目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事を表した文章の内容を理解することができる。</li> <li>・短い文章を正しく書くことができる。</li> </ul>	
○手立て	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤外線補聴システムを活用する。</li> </ul>	合理①-1-1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の読み方は指文字を使って正確に表すことができるように促し、筆順は空書きをすることで、間違いがないかを確認することができるようにする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。</li> </ul>	合理①-2-1

## 特別支援学校〈聾学校〉 高等部 国語科学習指導案

### 1 単元名 文化を見つめる

### 2 単元について

#### (1) 対象生徒の国語科における実態

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
生徒の実態	相手と話題を共有したいという気持ち強いが、意思の疎通がうまくいかないと分かったふりをするところがある。自分から進んで本を読んだり、文章を書いたりすることが難しい。	友達と手話や指文字でコミュニケーションをとることに困らない。適切な文章を考え、口話で誰にでもわかるように話したり、説明したりすることは難しい。口話のみの理解は難しく、手話等の補助手段が必要である。	体験したことや、簡単な感想は書くことができるが、自分の考えをまとめたり深めたりして、まとまった文章を書くことは難しい。相手や目的に応じて適切な表現を考えることは難しい。	語彙が少なく意味の分からない語句は漢字から意味を類推しようとする。書かれていないこと（人物の心情や作者の意図など）を考えたり推論したりするのは苦手で、具体例や補足説明を必要とする。	助詞・助動詞の欠落や誤使用、動詞・形容詞の誤活用が多い。音韻がいまいなため、表記の際に文字が抜けることがある。漢字の書き順が定まらず一画欠けたりする。慣用句の知識に乏しい。

#### (2) 単元観

教材「進化の隣人サル」の文化行動はサルの行動を通して、人間が進展させてきた文化や文明のあり方を考える内容である。普段から身近で便利に使っている科学技術だが、人間の生活にどのような影響を与えるかまで深く考えることのない生徒にとって、人間の文化を振り返る時、サルとの比較は分かりやすく興味をひく教材といえる。また社会を取り巻く様々な事象に対して、受け身であり疑問を持たない生徒に、問題意識を持って情報を得たり考えたりする力や態度を身につけるのに適した教材である。卒業後は一般企業で就労を目指す本生徒にとって主体的に情報を収集し、社会への興味関心の幅を広げることは、職業人として必要な態度であり、また、より充実した社会生活を送るためにも欠かせない習慣と考える。そのような態度や習慣を養う契機として、本教材は適していると考えられる。

#### (3) 指導にあたって

生徒Hは書き言葉で使われる語句の理解に乏しく内容の読み取りに時間がかかるため、取扱時数を通常より増やした。そして、自身の経験に結びつけて語句の意味を説明するようにし、いつでも振り返りができるように既習内容を表示することで、内容の理解を助けるようにする。また、生徒が考えを述べる際に適切な言葉が浮かばず答えに窮することが予想されるため、あらかじめ選択肢を用意するなどして、生徒が持てる力で主体的に活動できるような支援をする。

### 3 生徒の実態と個別目標

〈単元における実態〉

- 生活や学習でよく使う語句でも、正しく表記したり、適切な文章を書いたりすることが難しい。
- 主述の関係に注意しながら、文章の大まかな内容を読み取ることが難しい。

〈単元における目標〉 (当該学年の目標 当該学年の目標を一部変更・下学年教材) 合理①-1-2

対象生徒の指導における単元目標	通常の学級における単元目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材を通して、文化についての見方や考え方を広げようとしている。</li> <li>○中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読むことができる。</li> <li>○表現したり、理解したりするために必要な語句を増やすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常で体験している文化について、あらためて興味・関心を抱かせる。</li> <li>○文章の構成や内容を大まかに読み取る習慣を身に付けさせ、評論文を読解する力を養う。</li> </ul>

### 4 指導計画と評価（8時間扱い）

- 第1次 説明文を読もう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第2次 内容を読み取ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間
- 第3次 短文を作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

次	変更後の単元計画 (8時間扱い)	通常学級で実施する際の単元計画 (4時間扱い)
1	1 学習の見通しをもつ	1 学習の見通しをもつ
2	2・3 語句の意味を確認しながら全文を音読し、本文を5つの意味段落に分ける。  4 幸島のサルのイモ洗い行動に対する筆者たちの考えを把握する。  5 文化の定義から幸島のサルの行為を見直しサル社会にも食文化があることを読み取る。(本時)  6 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解する。  7 人間の文化と文明の進展を理解した上で、文化のあり方を考える。	2 全文を音読し、幸島のサルのイモ洗い行動に対する筆者たちの考えを把握する。 3 文化の定義から幸島のサルの行為を見直し、サル社会にも食文化があることを読み取る。  4 サルの文化との類似点や相違点から人間の文化の特徴を理解し、文化と文明の進展とそのあり方を考える。
3	8 本文中の語句を使って短文を作る。	

### 5 本時の指導

(1) 実態及び個別目標

	実 態	目 標
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助詞の抜けや誤用があり、正しい音韻で表現することが難しい。</li> <li>○文章を読んで一つ一つの語句の意味を考えることはできるが、叙述に即して内容を正しく理解することは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい音韻を意識し、音読をしたり、意見を発言したりすることができる。</li> <li>○文章中の語句の意味を正しく理解することで、内容を理解することができる。</li> </ul>



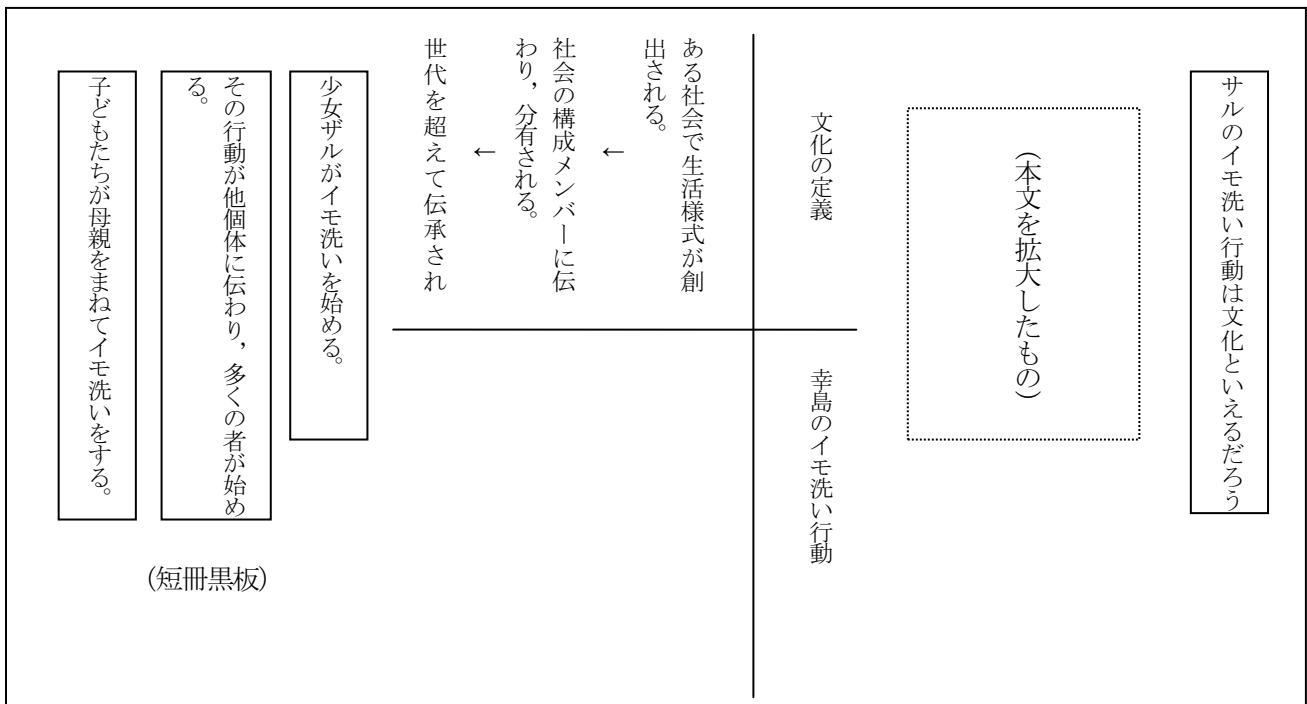
(2) 準備・資料

本文を拡大した模造紙，ワークシート，短冊黑板，語句の確認表

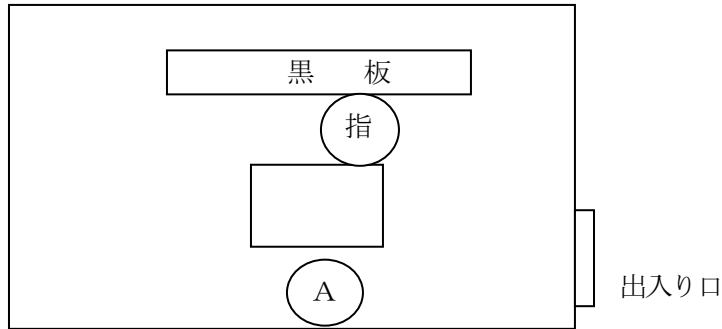
(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
10	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">サルのイモ洗い行動は文化といえるだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習部分を読む。</li> <li>・文化の定義が書かれているところに線を引く。</li> <li>・文化の定義を3つの段階に分け，ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤外線補聴システムの受送信状態，声の大きさの適否などを確認する。 合理①-2-1</li> <li>○前時の学習内容「学会からの反応が冷たかったこと」を確認する。</li> <li>○発音があいまいな時は，指文字も一緒に行うよう促す。 合理①-1-1</li> <li>○ワークシートを手がかりに，文化が3つの段階を経ることを理解させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">◎やりとりやワークシートへの記入を通して，文化の定義について考えようとしている。</div>
15	<p>2 課題を自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サルのイモ洗い行動の例が書かれているところに線を引く。</li> <li>・サルのイモ洗い行動が文化の定義にあてはまるかワークシートに記入しながら確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自信がもてずに線が引けない時は，ここだと思われるところを音読させ，確認した後に引かせるようにする。</li> <li>○サルのイモ洗い行動を3段階に分けられない時は，事前に3つに分けておいた選択肢を用意し選ばせるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">◎選択肢の提示やワークシートへの記入を行うことで，サルのイモ洗い行動が文化であることを理解している。</div>
20	<p>3 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入した内容を黒板に再現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化の定義の段階に合わせて，選択肢を黒板に貼るよう促す。</li> </ul>
5	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問をすることで，本時の学習内容が理解できているか確認する。</li> </ul>

(4) 板書計画

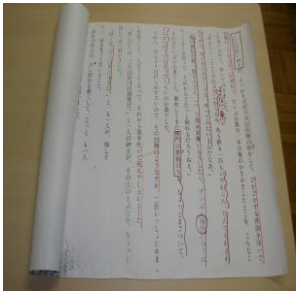
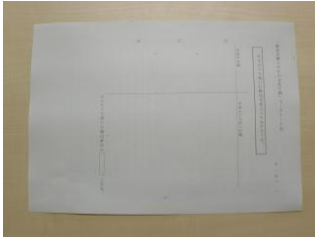
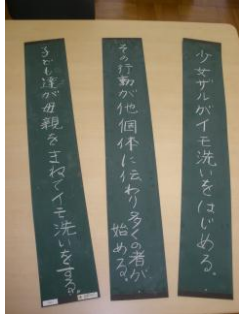
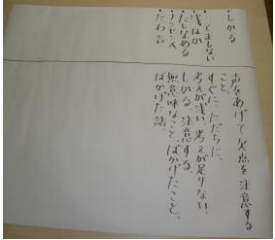


(5) 座席図 (配置図)



(6) 教材・教具の工夫について

合理①-2-1

拡大した本文	ワークシート	短冊黒板	語句の確認表
			
<p>中心となる文章や注目させたい箇所等に、傍線を引いたり、補足説明を書き込んだりすることで視覚的に確認できるようにする。</p>	<p>キーワードや中心となる文章を書き込めるものを作成することで、内容を整理して理解することができるようにする。</p>	<p>問いに対する答えを、選択肢があることで、その中から選ぶことができるようにする。自分の考えや適切な言葉が見つからない時に、活用することで、答えることができるようにする。</p>	<p>授業中に意味を説明した語句を順次書き加えていくことで、必要な時に見て確認できるようにする。</p>

# 学習指導案 ⑧

＜対象とした生徒＞	1年 性別 男 J
＜個別の指導計画から＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短期目標           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の呼びかけに従って対象物へ移動し、指定された動きを行うことができる。【5-(4), (5)】</li> <li>・複数の教員や友達と活動に参加することができる。【3-(1)】</li> </ul> </li> <li>○ 手立て           <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助具〔正面から机スロープ〕を活用する。合理①-1-1</li> <li>・「せえの」等の声による転がすきっかけを与える。転がす前にボールによく触れさせる。できた時は大きく賞賛する。合理①-2-1</li> <li>・円になり教員が曲に合わせて右回りに動くことで生徒全員を支援する。合理①-1-2</li> </ul> </li> </ul>

## 特別支援学校（肢体不自由）高等部 自立活動学習指導案

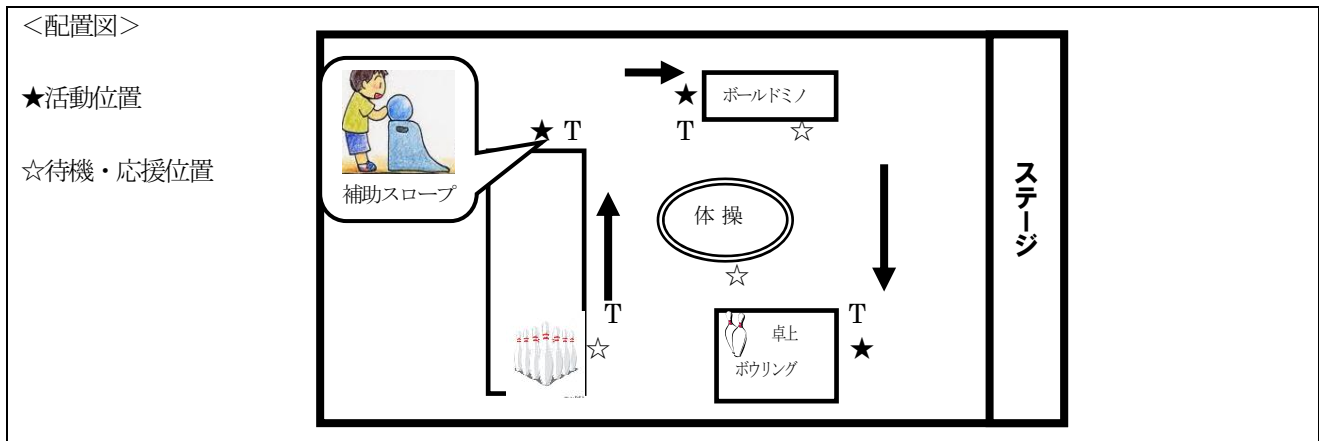
日時	平成〇年〇月〇日 (〇)	高等部 III課程	場所	体育館				
	〇:〇~〇:〇	〇〇グループ	人数	生徒6人				
指導者	T1 T2 T3 T4 T5							
題材名	「たおして遊ぼう」		教科・領域	自立活動（運動）				
題材設定の理由	<p>本グループは、男子4名、女子3名、計7名で構成されている。身体の動きの実態としては、待つことが苦手な生徒、筋緊張をうまくコントロールできない生徒、受け身の姿勢中心の生徒と大きく3つに分けられる。個別の指導計画においては、グループ全体として「主体的な動き」を大きな目標としている。今年度の「自立活動（運動）」では、サーキット運動を中心に「押す、引く、つかむ、はなす、投げる」動きに取り組んできた。10月には運動会及び特体連体育大会が行われ、手指を主とした運動習慣が身に付きつつある。自分から興味のあるものに働きかける経験が乏しい生徒の「主体的な動き」を引き出すためには、「自分でできる動き」を効果的に授業内容に取り入れ、「できた!」という達成感を味わわせることが必要であろう。そこで本題材では、サーキット運動において最も主体的な動きが見られた「押す」動きに着目し、「物を倒す」活動を取り上げた。「押して倒す→壊れる」という活動は小さな力でも大きな変化を引き起こすことができるため因果関係が分かり易い。弱視という障害があっても、倒れる音で結果を知ることができる。</p> <p>12月には部行事としての球技大会が予定されている。本グループの生徒は、ボウリング種目への参加となる。ボウリングの特徴として「ボールを転がしてから変化が起こるまでの時間差の存在」がある。段階的に「ボールを転がしてピンを倒す」という因果関係へ広げていくために、手で直接倒す活動から物を用いて倒す活動へ発展させる題材構成とした。また、ボールからピンまでの距離を少しずつ延ばしながら学習できる教材環境を整えた。各生徒が自分でできる方法で繰り返し練習を重ねることで、「物を倒す競技」の代表であるボウリングへの興味・関心と意欲の向上及び、主体的なボウリング競技への参加へつなげていきたいと考え本題材を設定した。</p>							
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に活動に取り組むことができる。「関心・意欲・態度」</li> <li>・手や物を用いて教材を倒すことができる。「技能」</li> </ul>							
キャリア教育の視点から育てたい力に〇印	人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力	
	自己理解	意思の表出	情報活用	金銭の扱い	習慣形成	生きがい	目標設定	振り返り
	集団参加	挨拶・身だしなみ	社会の規則	役割の理解	夢や希望	やりがい	選択	

1 指導計画と改善点 (14時間扱い)

	学習内容	時数		改善点
第一 次	手を使って倒してみよう (缶, 段ボール, ドミノ, ボウリングピン)	4	⇒ ⇐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MVP 選出の基準が、「絶対評価」なのか「相対評価」なのか曖昧であった。検定カードを活用した共通理解を試みる。</li> <li>・教材のある4つの各場所にて評価場面をより詳細に設定する。Ex: 赤色の缶を触って倒す。○本のピンを倒す。教員の指示に従い、右手と左手を使い分けて倒す。</li> </ul>
第二 次	物を使って倒してみよう (棒, ボール)	4	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールでドミノを倒す補助具が、最も力の弱い生徒に対応できなかった。より軽い力でドミノを倒せるように調整を行う。合理①-1-2</li> </ul>
第三 次	ボウリングをしよう  ※本時は4/6	6	⇐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローテーションの回転の効率化による活動時間の確保を考え、ペアの組み合わせを変更する。合理①-1-2</li> <li>・学習意欲のさらなる向上を促すため、ボウリングマスターに模範演技を促し、全体で大きく賞賛する。</li> </ul>

2 本時の指導

授業観察の視点	児童生徒理解		障害特性に応じた指導	指導技術	
	T・T	○	教材・教具	○	題材構成
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら教材を見たり、音を聞いたりしながら活動することができる。「関心・意欲・態度」</li> <li>・身体の動きやすい部分を用いてボールを転がし、教材を倒すことができる。「技能」</li> </ul>				
時間	学習内容・活動	評	教員の指導・支援 (T1, T2 以下の動きなど)		準備・資料
5	1 始めのあいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分摂取は体育館にて実施。早く移動できた生徒は車いすや独歩支援によるウォーキングで身体を動かすように助言する。</li> <li>・準備中はBGMを流し、授業開始への期待感を高める。</li> </ul>		スマートフォン マイク
5	2 準備体操をする。 「からだげんきかな」	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T1の合図に合わせて各教員が円の内側を周り、生徒全員が5人の教員と触れあえるようにする。また教員が介助に入らない場面を設定することで自分で準備体操に向き合う時間を作る。</li> </ul>		
30	3 本時の学習内容を知る。  <b>めざせ！ボウリングマスター！</b>  (1) ボールドミノ 担当:T2  (2) 卓上ボウリング 担当:T3  (3) スロープボウリング 担当:T4, T5  ・BGMが流れているときに「倒す学習」を行う。	② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに何を使って「たおす活動」を行ってきたのかを実物で確認後、本日使う「ボール」に触れさせる。各Tは以下の支援。「手」→タッピング、「バットやボール」→触れさせる。</li> <li>・本日一緒に活動するペアを発表する。(各Tは検定カードのリボンの色で判別) (1) からMとN, (2) からJとP, (3) からKとL</li> <li>・T2~T5は各ペアとともに持ち場へ移動する。各場所まで生徒活動支援から次の場への移動までを確実に進行。生徒に応じて姿勢を工夫する。曲の停止を合図としてペア内で交替し、次の曲停止で一斉にペアのまま次のコーナーへ移る。ペアの1名は最も倒れる音の聞こえる配置図☆の位置へ移動させ、応援待機を促す。常時T1は応援待機者を見守り、一緒に応援する。</li> <li>・各Tは生徒が持つ検定カードを確認し、目標に沿った支援及び評価を行う。シールでの評価を生徒に語りかけながら行う。 合理①-2-1</li> <li>・T2は長机上のドミノの設置及び生徒の導き、検定カードの評価を行う。</li> <li>・T3はボウリングのピンと補助具の設置及び生徒の導き、検定カードの評価を行う。</li> <li>・T4はピンとボールの準備及び応援の促しを行う。</li> <li>・T5はボールの設置及び生徒の導き、検定カードの評価を行う。</li> </ul>		ボウリングマスター 検定カード プラスチックバット  長机 ドミノ教材 ボール (3) 作業テーブル ピン (16) ミニスロープ  補助スロープ (2種) ブロックマット カーペット
5	4 本日のBM発表(実技発表) <u>ボウリングマスター</u>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T1が検定カードを集め、T2, T3, T5が各コーナーでのトピックスを発表する。各コーナーでの評価を基準にBMを決める。BMペアに帽子を贈呈し、代表1名に模範演技を促す。ピンが倒れた後、全体で大きく賞賛する。合理①-2-3</li> </ul>		帽子2個
5	5 次回の授業内容を知る。 6 終わりのあいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・T1が次週の内容を伝えることで、活動への意欲を高める。</li> </ul>		



### 3 生徒の個別目標と実態及び手立て

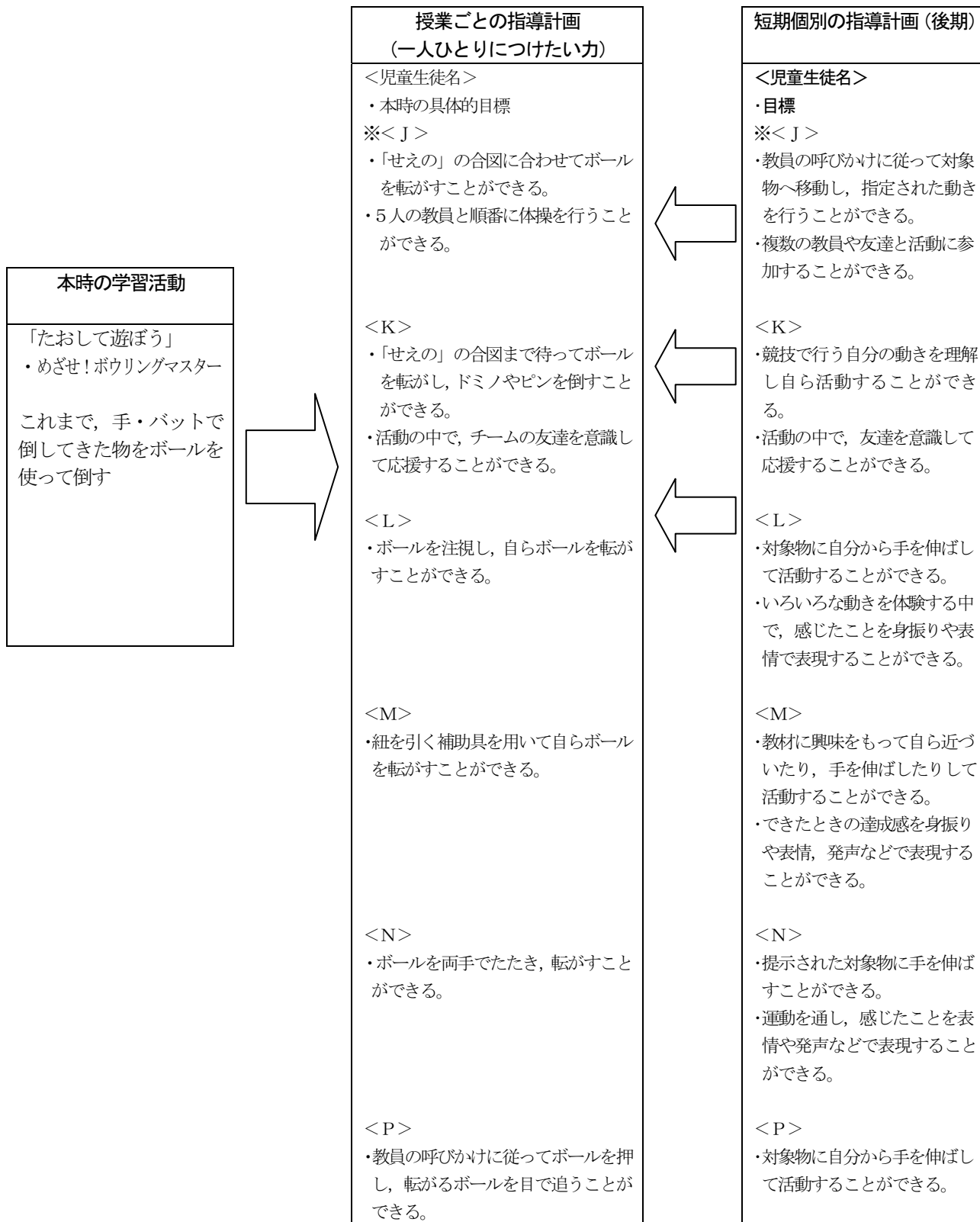
氏名	目標	目標に関連する実態	手立て	評価場面 [評価方法]
J (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「せえの」の合図に合わせてボールを転がすことができる。</li> <li>5人の教員と順番に体操を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の過敏や弱視により環境の変化をつかみにくい。初めての活動に対して不安を持ちやすい。褒められることを好む。</li> <li>個別活動を好み、集団活動への拒否がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>「せえの」等の声による転がすきっかけを与える。転がす前にボールによく触れさせる。できた時は大きく賞賛する。</li> <li>多くの教員と一緒に体操ができるように、円になり教員が曲に合わせて右回りに動くことで生徒全員を支援する。合理①-1-2</li> </ul>	①②③④⑤ [検定カード・行動観察]
K (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「せえの」の合図まで待ってボールを転がし、ドミノやピンを倒すことができる。</li> <li>活動の中で、チームの友達を意識して応援することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弱視であり、音や声、対象物の色などで周囲を判断している。</li> <li>特定の女子生徒の名前を呼んで応援することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>合図まで待てた時に賞賛する。</li> <li>左手のみで活動できるように、車いすの位置に配慮する。合理①-1-1</li> <li>応援すべき友達の名前を伝える。</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
L (2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを注視し、自らボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるものは注視し、手を伸ばすことができる。昼夜が逆転し眠っていることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【横から白スロープ】</li> <li>転がす前にボールによく触れさせる。肘を支え、手首から上の主体的な動きを待つ。合理①-1-1</li> <li>視線を確認しながら、教員と一緒に両手を伸ばし、ボールが転がる様子を見届けられるようにする。</li> <li>できた時は大きく賞賛し、共に喜ぶ。</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
M (2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>紐を引く補助具を用いて自らボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋緊張をうまくコントロールできず、全身が硬直することがある。体調が良い時は、両手両足を使い、様々な物に働きかけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【正面から机スロープ】</li> <li>筋緊張が強い場合は、マットに降りて見守り回復を待つ。左側に目標物がくるように車いすを配置し主体的な動きを待つ。合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
N (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを両手でたたき、転がすことができる。</li> <li>ボールを注視することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの物に興味を示さないが車いすに乗り目の前に教材を提示すると手が伸びる場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【立位：横から机スロープ】</li> <li>視線を確認しながら、教員と一緒に両手を伸ばし、ボールが転がる様子を見届けられるようにする。 合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]
P (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の呼びかけに従ってボールを押し、転がるボールを目で追うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行ったことのある活動に対してはゆっくりと手を使い、自ら動くことができる。叩く動きが得意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助具【立位：正面から机スロープ】</li> <li>視線を確認しながら呼びかけによる支援を行う。叩く動きでボールを動かせるように、この補助具を利用する。合理①-1-1</li> </ul>	②③④⑤ [検定カード・行動観察]




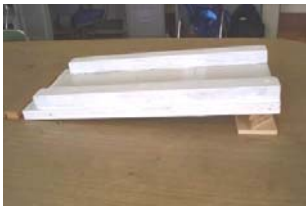
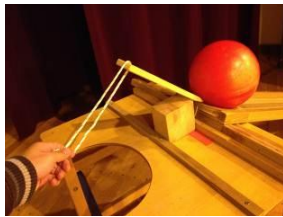

＜目標考案シート＞本時と個別の指導計画とのつながり（Ⅲ課程用）

【対象となる児童生徒の個別の指導計画】

個別の指導計画 ※対象生徒＜J＞	長期目標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での活動に慣れ、いろいろな人とかわりながら落ち着いて活動することができる。</li> <li>・生活の中で繰り返し行う動作に積極的に取り組み、自分から行おうとすることができる。</li> </ul>



4 教材・教具の工夫について

ボールドミノ専用の補助具	卓上ボウリング専用の補助具	スロープボウリング専用の補助具	ボウリングマスター検定カード
			
<ul style="list-style-type: none"> <li>最初のドミノに触れる位置でボールが止まるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹ひご1本の段差があり、直線的にボールが転がるので、的に当てやすい。生徒の力によって、傾斜を調節できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋緊張等により押し出す動きが困難な場合のために、引くことでボールを転がすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒の本時の目標を生徒に分かる言葉で記入する。バインダーにはさみ、各生徒が活動場所に持参する。</li> <li>各活動場所の担当の教員が確認・評価する。</li> </ul>